東アジア地域における早稲田大学校友会

――帝国日本のなかの〈校友共同体〉――

岡本　真希子

1．はじめに

本稿の課題は、早稲田大学校友会の軌跡を、東アジア地域との関わりのなかで論じることである。周知のように近代日本は、植民地本国（「内地」）のみならず、一八九五年の台湾領有、一九一〇年の「韓国併合」を経た朝鮮の植民地化、一九一九年の南洋群島の委任統治領化など経て、また、中国大陸においても、関東州租借、満鉄附属地の領有、「満洲国建国」など、東アジア地域に植民地帝国として君臨した。そして、東アジア地域における植民地帝国日本の軌跡のに伴い、多くの「内地人」[1]が本国から東アジア各地域に移住していった。こうした人々の移動の潮流のなかに、早稲田大学出身者も存在しており、かれらは、東アジア各地域において、早稲田大学校友会を創設していった。

しかしながら、従来の早大校友会の活動については、基本的には本国における活動のみが扱われ、植民地などを含

めた東アジア地域についての活動は等閑に付されてきた。一八八二（明治一五）年に早稲田大学の前身である東京専門学校が創設され、一八八五（明治一八）年には早大校友会が誕生したが、創立100年の記念事業として出版された早稲田大学大学史編集所編『早稲田大学百年史』[2]や、創立125年記念事業の一環として出版された概説書である早稲田大学校友会編『早稲田大学校友会125年小史』[3]においては、本国における校友会の活動が記されてはいるものの、本国外の校友会の活動については記載は非常に少ない[4]。このほか、校友会以外に東アジア地域との個別領域の活動に関するものとして、『早稲田大学野球部五十年史』（早稲田大学野球部、一九五〇年）が、早大野球部の全活動を年表風にまとめたなかに、「海外遠征」活動の一環として、台湾・朝鮮などで行った交流試合について日程・スコアなどを記載し、また、早稲田大学雄弁会が中国や台湾などへ遠征演説に出かけた際の回想などを掲載した100年史編集委員会企画編集『早稲田大学雄弁会100年史』[5]などがある。しかしながら、いずれも、本国からの早稲田人の遠征活動の断片的な紹介にとどまり、現地の校友会の活動や、植民地社会との関係などには触れていない。

しかし、早大校友たちは、複数の民族や言語が交錯する東アジア各地域に身をおきながら、同じ学窓に学んだという〈校友共同体〉を共有し、地域や都市ごとに校友会を組織してネットワークを形成し、校友会を開催して酒を酌み交わしては校歌「都の西北」を高らかに歌い上げていた。本稿筆者は、台湾の早大校友会の軌跡について簡単な論説を発表したことがあるが[6]、本稿ではさらに、朝鮮・中国・南洋・「満洲国」などにおける校友とともに台湾の校友会も新たに位置づけなおしながら、帝国日本全域に広がる早大校友会の軌跡を素描しようとするものである。

本稿ではまず、東アジア地域における早大校友会活動を検討するための基礎的作業として、『早稲田学報』の校友会関係記事を整理した。それが【表1】「東アジア地域における早稲田大学校友会の活動（一八九八―一九四二年）」である（『早稲田学報』の掲載号順に整理したため、校友会の開催された日付が前後する場合がある）。なお、本表は、校友会の

活動地域として、台湾・朝鮮・中国・樺太・南洋の5つの地域における活動を地域ごとに分類した上で、校友会の開催された地名をさらに記載した。【表2】には校友会の『会員名簿』の巻末より、一九四〇年代の各地域の校友数を示しておいた。『会員名簿』では、主に市・府などの都市部別に会員数が示されている。しかし、『早稲田学報』の会報を見ると、例えば台湾では、「北部校友会」「中部校友会」「南部校友会」の三地域で開催されており、各市ごとの開催とはなっていない。したがって、【表2】はあくまで各地域における校友の分布および増減の目安の参考のために掲出したもので、校友会がこの表のように市・府ごとに組織されていたわけではないことには留意されたい。

以下では、東アジア全域に活動した早大校友会の概観と大まかな特徴を指摘してゆくことで、今後の研究進展のための基礎的な情報提供を試みる。出典はすべて『早稲田学報』の各記事であるので、適宜、【表1】の記述を参考にされたい。

2. 帝国日本の膨張と校友会の拡大

東アジア地域における早大校友会の拡大は、帝国日本の植民地の拡大と、それに伴う内地人の移住と軌を一にしたものであった。一八九八年に台湾の台北で最初の活動が確認し得るが、その活動は酒を酌み交わし母校の思い出を語りあうような「親睦会」的なものといえる。一九一〇年代に入るまでは台湾の活動が主なものにとどまっている。

「韓国併合」を経て一九一〇年代に入ると、朝鮮の京城・平壌・釜山などの校友会や、中国の奉天・武漢・天津・撫順などの校友会の活動が確認できる。『早稲田学報』誌上の記事では、一九一四年の高田早苗総長の朝鮮・「南満洲」訪問、一九一五年・一九一六年の永井柳太郎教授の朝鮮・「満洲視察」、一九二〇年・一九二一年の平沼淑郎学長の朝

鮮訪問など、母校の恩師である教授の来訪歓迎を兼ねて校友会が開催されている。植民地と本国を結ぶ校友ネットワークが形成され、その際には、『朝鮮公論』・『朝鮮新聞』・『満洲日日新聞』・『大連新聞』などといった植民地のメディア関係者が媒介となっていることが多い。植民地の官僚組織が「官僚天国」といわれ、多くの官僚が「東大赤門」の法学部出身の文官高等試験合格者（有資格者）が大勢を占めるなかで、[7] 植民地の早稲田人は、メディア関係に活動の場を見出している点が一つの特色として指摘しえよう。

一九二〇年代半ばに入ると、青島・上海・京城・平壌・台北など各地の校友会は、春・秋二季の定期校友会を開催するようになってゆく。また、会員のなかには日清生命保険株式会社[8]の社員が幹事などの中堅的役割を担っていることが多い。

一九二〇年代後半には、母校と連動した活動も活発化しているようである。例えば一九二八年の青柳篤恒教授の校外教育普及宣伝活動として朝鮮での講演会、一九三〇年の安部磯雄を招聘しての満鉄夏期講座、一九三〇年の早大人事嘱託の坪谷善四郎による就職斡旋依頼の植民地行脚などである。

このほか、植民地の校友を熱狂させたのが、一九三〇年の高田早苗総長の台湾来訪、一九三五年の田中穂積総長の「鮮満北支」来訪などの、早大のシンボル的存在である総長の来訪であった。各地で熱狂的に行われた歓迎会で校友たちは、校歌「都の西北」を合唱し、「早稲田おけさ」を踊り、紫紺の早大の三角旗を打ち振り、また、早大出版部のフィルム「わせだの輝き」を上映し、校友会の最後には酩酊しながら「早稲田大学万歳」を三唱するなど、早大出身者以外から見ればおそらく理解不能であろう〈校友共同体〉を形成していた。こうした際には、お互い面識のないものや世代の異なる校友たちでも、ひとたび「都の西北」を合唱すればたちまち意識が一体化するかのような〈校友共同体〉意識の醸成過程が、『早稲田学報』の各地域の校友会の報告で繰り返し記載されている。このほか、野球部（二

軍も含む）・柔道部などの遠征時にも校友会は歓迎会を開催しており、若い選手たちに対して「弟」のような視線を送り、家族に模した〈校友共同体〉意識が表明されていた。

一九三〇年代には、「満洲国」建国以降に、「新京」・ハルビンや満鉄などに校友が増加し、また、「満洲国」視察のために、青柳教授・永井柳太郎・田中穂積総長などが訪問している。とりわけ「満洲国」の中枢には丁鑑修・林棨などの早大出身校友がおり、早大を訪問したり（一九三二年）、あるいは新京校友会支部長や顧問となっていたため、両者の交流は比較的盛んであったといえよう。

ただし、「満洲国」側の校友と、内地人校友とでは、双方の考えは必ずしも同じとはいえないことには留意が必要である。例えば、「満洲国」特使として一九三二年七月に早大を訪問した丁鑑修は、「民族自決」を主張していた。これに対して、一九三五年一〇月に「鮮満北支」訪問を終えた田中穂積総長は、翌月の早大の大隈講堂での講演において、朝鮮の植民地支配を礼賛し、「満洲国」も日本の指導によるべしとし、「北支五省」自治も時期尚早として否定し、かつ、中華民国政府の胡適との面談時に明確に対立した。このほか、高田早苗は、一九三〇年の台湾訪問時には、内地人の傲慢を戒め「内台平等」を訴えてはいたが、当時の台湾人の政治・社会運動の主流である台湾議会設置は明確に否定し、いわゆる「内地延長主義」の立場を表明しており、「特別統治主義」を標榜する台湾議会設置請願運動と関わりを持ってきた台湾人校友の楊肇嘉・黄呈聡などの方針とは異なる立場にあったといえる。このように、東アジア地域における早大〈校友共同体〉のなかには、民族問題という極めて鋭い問題を常に抱えていたことは留意されるべきであろう。

各地の校友会の活動を見るとき、基本的には、料亭や公会堂などで酒を酌み交わしては「都の西北」を合唱している状況が継続していることが確認できるが、多くの場合は、ほとんど内地人のみが参加して早大時代を旧懐している。

朝鮮や「新京」では非内地人の参加も確認しえるが、基本的には、内地人同志の交流の場と考えられる性質のものといえよう。

以上のように、本稿では東アジア地域における早大校友会の活動について、『早稲田学報』の記事をもとに基礎的な情報の提示と、おおまかな特徴について指摘した。今後は、植民地在住の植民者社会において校友会はいかなる役割を果たしていたのか、植民地におけるメディア人を多く輩出していた校友会人脈と本国とはいかなる政治的関係を切り結んでいたのか、植民地出身の校友と内地人校友は如何なる関係にあったのか、また、戦後の引揚げ後には本国において校友たちの活動基盤はそのように変化し、その植民地経験はどのように断絶／継承されたのかなど、東アジア地域における早大校友会の光と影を考える上で検討すべき点は山積している。早稲田大学史を広く世界に開いてゆくためにも、これらは必須の検討課題であると考えられるのである。(9)

3. 資料

【表1】東アジア地域における早稲田大学校友会の活動（一八九八―一九四二年）

【表2】東アジア地域における早大校友数（一九四〇年代）

註

（1）日本本国（「内地」）に籍を置く日本人のこと（戦前期日本の戸籍は血統主義であり、出生地主義をとらない）。戦前期には「内地人」と呼称（以下、カッコをとる）。

（2）早稲田大学大学史編集所編『早稲田大学百年史』第1―5巻（一九七八―一九九七年）・同編『早稲田大学百年史総索引年表』（早稲田大学出版部、一九九七年）。以下、『早大百年史』と略す。

（3）早稲田大学校友会編『早稲田大学校友会125年小史』（早稲田大学校友会、二〇一〇年九月）。以下、『早大125年史』と略す。

（4）わずかに、『早大百年史』第2巻の第21章「天空翔る校友と校友会」（1079―1119頁）のなかの「海外校友会」（1110―1101頁）の項目に、天津・大連・台北・京城などの地名が列挙され、比較的会合が多いと紹介されているにとどまっている。『早大125年史』には記載はない。

（5）100年史編集委員会企画編集『早稲田大学雄弁会100年史』（早稲田大学雄弁会ＯＢ会、二〇〇二年）。

（6）岡本真希子「植民地期台湾における「都の西北」の世界―早稲田大学台湾校友会の内と外」（『ワセダアジアレビュー』第11号、二〇一二年三月）30―35頁。この拙稿は、日本台湾学会第13回学術大会（二〇一一年五月二九日）における報告「早稲田の政治言論文化と近代台湾」をもとに改稿したもの。

（7）岡本真希子『植民地官僚の政治史―朝鮮・台湾総督府と帝国日本』（三元社、二〇〇八年）第6、7、8章、参照。

（8）日清生命保険株式会社と早大との関係については、金子浩二「高田早苗の起業活動」（早稲田大学史資料センター『高田早苗の総合的研究』二〇〇二年、同センター発行）三三九―三四八頁、参照。

（9）本稿は、台湾の国立成功大学人文社会科学中心（センター）の研究計画「殖民地時期臺灣與朝鮮之政治參與的比較研究」（二〇一〇年八月―二〇一二年七月。代表者・岡本真希子）、および台湾の行政院国家科学委員会専題研究計画「日治前期台南地域的政治社會變化（一八九五―一九一九）」（二〇一二年八月―二〇一五年七月予定。代表者・岡本真希子。計画番号101-2410-H-006-076-MY3）の成果の一環である。

東アジア地域における早稲田大学校友会の活動(1898－1942年)

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾校友会。早大講師でもあった石塚英蔵参事官長をはじめ、在台北校友13名参加。今後時々小集会を開くこと、事務所を大稲埕の芳賀恒輔(訴訟代人)法律事務所とする。船を淡水河に出して観月。	13名。	台北『清凉館』。
台湾校友会。石塚英蔵参事官長・中山参事官などをはじめ、在台北校友13名参加。	13名。	台北『清凉館』。
台湾校友会。出席者＝石塚英蔵(参事官長)・添田寿一・桑田豊蔵・家永豊吉(早大旧講師)・中山成太郎(民政局・早大旧講師)・林昌雄・土屋亀太郎(台北大稲埕の港義和洋行。明治25年英語政治科卒)・栃内正六(『台湾日日新報』主筆。明治25年邦語政治科卒)・山本鋤吉・小山谷蔵(淡水税関)・船田弘道(税関属。明治28年邦語政治科卒)・鈴木伊十(樟脳局長。明治26年邦語政治科卒)・佐藤法潤(法院判官)・安江稲次郎(『台湾民報』主筆。明治22年邦語法律科卒)・小山琴八郎・嬉野道三郎・黒谷了太郎(淡水税関。明治28年英語専修科卒)・望月恒造(地方法院判官。明治25年英語行政科卒)・山下稲三郎など。〔肩書きは『早稲田学報』第48号の校友名簿・第55号248頁より〕。	19名。	台北『吾妻屋』。
臨時増刊・校友会名簿		
台北校友会。新潟県校友の旗野簑織がフランスより台北に立ち寄ったのを歓迎。石塚参事官長など20余名。任期満了による幹事改選。旧幹事＝林昌雄・土屋亀太郎・朽内正六、新幹事＝栃内正六・望月恒造・佐藤法潤。	20余名。	台北艋舺『平楽遊』。『支那料理』。
清国厦門校友会。『東京専門学校厦門校友会規則』議定。毎月１回講話会開催・厦門文庫開設準備と新聞雑誌類縦覧所の開設など。幹事＝長瀬鳳輔(東京専門学校講師。東亜同文書院講師)。会員＝野呂百蔵(明治22年法律科卒)・新部惟一(明治23年行政科卒。郵便局勤務)・小山松寿(明治28年法律科卒)。〔肩書きは『早稲田学報』第48号の校友名簿・第93号739－740頁より〕。	４名。	
台湾校友会。中山成太郎・家永豊吉(早大旧講師)送別会。早稲田大学基金募集に関する相談。	数十名。	台北新起横街『琴水』。
台湾校友会。早大基金募集の件を協議。	20余名。	添田寿一邸。
台湾校友会。校友木村大介(台中土地調査局出張所長に転出)送別会を兼ねる。早大基金募集・台湾校友会拡張・支部設置などを協議。幹事満期により改選。新幹事＝栃内(台湾日日新報主筆)・小野得一郎(法院検察官)・鈴木(事務官)が就任。石塚参事官長も参加。	20余名。	台北『琴水』。
栃内正六(『台湾日日新報』主筆)送別会。	20余名。	台北『琴水楼』。
栃内正六(もと『台湾日日新報』主筆)が上京、高田早苗・田中唯一郎・田村三治・牧野孫太郎が招待の小宴を開く。	５名。	東京牛込『清風亭』。
坪谷善四郎による台湾・厦門(アモイ)など訪問の旅行記。		
19回校友会誌。津田毅一(台湾総督府法院判官)上京・参加。		
〔記事なし〕		
〔記事なし〕		
〔記事なし〕		
校友の越智修吉が台湾の『台湾日日新報』編輯部長として就任するので、友人らで送別会。高田早苗ほか早大・日就社・実業の日本社関係者。	20余名。	東京芝公園『紅葉館』。
早稲田大学台湾校友会。縦貫鉄道全線開通式参列のために本国から来台の校友招待会を兼ねる。渡台者＝有賀長雄・石渡敏一・植村俊平・井上要・坪谷善四郎・植松考昭・黒木治三・松本恒之助・松本宗喜・増田義一。台湾校友会組織・早大第二期拡張に賛同と尽力の件など議決。幹事６名選出＝渡邊啓太(法院判官)・片山昴(弁護士)・越智修吉(『台湾日日新報』編輯部長)・望月恒造(法院検察官)・北原種忠・津田毅一。	50余名。	『魚金』。
台北校友会。台北在住校友で組織。第１回幹事＝渡邊啓太・畠山慎吾。11月下旬現在の会員＝大鳥久満次(賛助員。旧講師。民政長官)、守屋善兵衛(賛助員。『台湾日日新報』社長)、手島兵次郎(旧講師。総督府法務課長)、越智修吉(『台湾日日新報』編輯長)、黒河内英二・永田善三郎・岸元吉(『台湾日日新報』記者)、鹿子木小五郎(通信局長)、渡邊啓太・望月恒造(覆審法院判官)、片山昴(弁護士)、畠山慎吾(総督府通信学校助教授)、八木勤作(東京火災保険会社台北主任)、小山谷蔵(専売局事務官)、木村松之助(総督府工事部事務官)、佐藤浩一(総督府中学校助教授)、甲斐国男(総督府国語学校助教授)、常見辨次郎(台湾建物会社員)、萩生茂徳(柵瀬商会員)、花香伯貢・藤代三久三・小平又次・黒谷了太郎・渋谷誠・本山理太郎(総督府官吏)、成宮公三郎(台華殖民株式会社主任)、西村常松(台湾銀行員)、黒本清介(台湾銀行員)、船田弘道(淡水税関員)、森岡綱太郎(大阪商船会社基隆支店長)。	(11月下旬会員数：27名)	
越智修吉(『台湾日日新報』編輯長)の葬儀。高田早苗(早大総長)・守屋善兵衛(『台湾日日新報』社長)らの弔文朗読あり。会葬者＝大鳥民政長官・有賀長雄・坪内雄蔵などの名士および新聞記者多数。	(会葬者約100名)	下谷七軒町『忠綱寺』。
台湾校友会。欧米遊歴に出る校友・佐藤浩一の送別会を兼ねる。	10名。	台北新起街『魚金』。

【表１】

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1898	M31	10	20	7	1898. 10. 2	台北						
1899	M32	6	28	27	1898. 5. 20	台北						
1900	M33	12	47	136	1900. 10. 31	台北						
1900	M33	12	48			校友名簿					校友会規則	
1901	M34	4	52	170	1901. 4. 12	台北						
1901	M34	4	52	170-171	1901. 2. 11			厦門（アモイ）				
1901	M34	7	55	248	1901. 6. 23	台北						
1901	M34	10	60	294	1901. 10. 9	台北						
1902	M35	1	64	334	1902. 1. 4	台北						
1902	M35	5	68	401	1902. 5. 7	台北						
1903	M36	2	80	546	1903. 1. 10	（台北）					招待会（東京）	
1903	M36	11	93	738-742	1903. 9. 20-10. 10	台北・台南		厦門（アモイ）			校友消息	
1904	M37	12	110	2-3	1904. 7. 16	（台北）					校友大会	
1905	M38	1-12										
1906	M39	1-12										
1907	M40	1-12										
1908	M41	4	158	54	1908. 3. 10	（台北）					東京	
1908	M41	12	166	58	1908. 10. 27	台北					（東京）	
1909	M42	1	167	12	1909. 11月下旬ヵ	台北						
1909	M42	3	169	10	1909. 2. 18	（台北）					東京	
1909	M42	7	173	15	1909. 4. 8	台北						

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾校友会。新年大会。大隈総長・高田学長よりの祝電を披露。幹事改選＝畠山慎吾・鈴木茂徳・永田善三郎。	12名。	台北新起街「錦水」。
台北校友会。台北在住校友・永田善三郎三(『台湾日日新報』記者)が『満洲日日新聞』社入社、西岡英夫が官を辞して台南庁下埔里社製糖会社に赴任のため、送別会。写真(21頁)。	20名。	古亭庄河端「新茶屋」。鮎料理。
台北校友会。春季会。校友・甲斐国夫の送別会を兼ねる。幹事改選＝森安鋼太郎・常見辨次郎・益子逞輔。台北・基隆・淡水の北部三地の校友は58名。	37名。	圓山の荻野萬之輔宅。
台湾北部校友会。秋季大会。早大講師・蔵原惟廓の来台の歓迎。蔵原より「帝国に於ける台湾の位置」について2時間に渡る演説あり。	32名。	台北新起街「丸中」。
高田早苗総長、欧州漫遊の途中、朝鮮・「南満」訪問。		
高田早苗総長来朝。増田義一(『実業之日本』社長。代議士)と同行。(16日)京城南大門で200余名の歓迎→(17日)朝鮮銀行→南大門小学校→朝鮮公論社→京城中学→漢城美術品製作所→日清生命保険株式会社→総督府→昌徳宮→官民有志懇談会→(18日)景福宮→奎章閣→京城高等普通学校・京城女子高等普通学校・同附属幼稚園(朝鮮人の教育状況視察)→東亜烟草会社工場→閔妃の墓→京城日報社→京城ホテルにおける早大校友会→(19日)南大門駅。校友中に牧山耕造(『朝鮮公論』社長)・権藤四郎介などあり。写真(7・8・9頁)。	(18日)校友会＝50名。	「京城ホテル」。
高田早苗総長来朝。(19日)平壌駅→牡丹台観光→晩餐→平壌教育会・実行青年会主催の講演会(箕陽倶楽部にて)。篠田治策内務部長発起人。高田の講演「本大学創立当時の状況より現状に説き及ぼしたる後ち、模範的国民の養成に就き」→(20日)校友などと記念撮影→外国人経営の各学校の教育状況視察→平壌駅。		「箕陽倶楽部」。
高田早苗総長来朝。(15日)釜山埠頭上陸。京城校友会を代表して牧山耕造(『朝鮮公論』社長)も出迎え→福田向陽園→森田福太郎(商業会議所書記長)の斡旋で工事中の第二大桟橋・釜山鎮埋築を巡覧→校友会晩餐。幹事＝神埼憲一(『釜山日報』記者。参加者に牧山耕造・三好美村(『朝鮮時報』記者)・篠崎士行(『釜山日報』記者)・京城から横田瀧三郎(日清生命京城支店長)などあり→(16日)「満鮮直通列車」で京城へ(牧山・横田なども同乗)。写真(17頁)。	(15日)校友会晩餐会＝17名。	「停車場ホテル」。
高田早苗総長歓迎。(20日)奉天到着。道中、撫順校友会の空閑知鷲治・奉天校友会の沓川秀孝を安東まで派出して歓迎→(21日)校友・石田武亥の案内で満鉄奉天医院・南満医学堂→落合総領事訪問・午餐、ともに奉天都督・張錫鑾を訪問→校友会の晩餐会。奉天・撫順。遼陽校友など参加→(22日)清の高祖文皇帝をまつる皇陵を拝観→校友と午餐(「支那料理」)→南満鉄線で長春へ→(23日)長春着。	(21日)校友会晩餐会＝23名。	料亭「金六」。
武漢校友会。新来者の歓迎を兼ねて「支那料理会」。	12名。	「支那料理」。
台湾校友会。中部校友で会則を議定、次回幹事・会計係などを推薦。	10名。	台中「冨貴亭」。
台湾台北校友会。	21名。	「丸中」。
京城校友会。田中穂積・吉田東伍博士、永井柳太郎教授の来朝の歓迎茶話会。『朝鮮公論』社が永井教授を招聘し夏季講演会開催。京城校友会朝鮮支部長＝石塚英蔵、同評議員＝亥角仲蔵。吉田博士の朝鮮史談、永井教授の「植民地としての朝鮮」談。昨年の高田総長入京以来の盛況。	400余名(校友および縁故者)。	「京城ホテル」。
平壌校友会。永井柳太郎教授を平壌実業青年会の講演会に招聘、歓迎会。	13名。うち朝鮮人2名。	「寿亭」。
天津校友会。本年度第四回宴。	14名。内地人のみ。	「敷島」。
大連校友会。永井柳太郎教授の歓迎会。	9名。	城内「松鶴亭」。
奉天校友会。校友・山田道兄(『読売新聞』記者)の歓迎会。	7名。うち非内地人1名(丁鑑修)。	日本旗亭「金六」。
奉天校友会。永井柳太郎教授の歓迎会。「満蒙問題に関する論議」など百出。	8名。うち非内地人1名(丁鑑修)。	「支那」料亭「松鶴軒」。
撫順校友会。永井柳太郎教授の歓迎会。		
写真＝「京城鮮人校友会」(校外教育部朝鮮京城の夏帰講習会)。		
早稲田大学北京校友会。秋季大会。徳永重康博士・永井柳太郎教授・有賀博士などの歓迎会を兼ねる。幹事＝神田正雄。幹事改選・有賀博士による指名(6名)＝金邦平・神田正雄・王印川・井上恒太郎・陸夢熊・江庸。新幹事・金邦平「明快なる日本語を以て」歓迎の辞。永井教の雄弁「英人の領土に太陽の没することなしと誇れど、吾が早稲田大学出身者世界到る所の存在せざる無きは吾人の意を強うするに足ると喝破し、日支両国の平和的連鎖は繋って早稲田大学校友会の如き堅実なる会合にあり」。評議員12名＝李士偉・曹汝霖・姚震・王熾芝・李国珍・林長民・林棨・董鴻禕・陳威・蒋邦彦・実相寺定彦・前田好雄。	40余名。	「大和倶楽部」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1910	M43	3	181	14	1910. 1. 9	台北						
1911	M44	11	201	21-22	1911. 8. 14	台北						
1912	M45	6	208	17	1912. 3. 22	台北						
1913	T2	1	215	7	1912. 11. 7	台北						
1914	T3	5	231	7-9	1914. 4. 15-22		(高田早苗総長、朝鮮・「南満」訪問)	(高田早苗総長、朝鮮・「南満」訪問)			(高田早苗総長)	
1914	T3				1914. 4. 16-19		京城					
1914	T3				1914. 4. 19-20		平壌					
1914	T3			16-17	1914. 4. 15-16		釜山					
1914	T3	6	232	12-13	1914. 4. 20-22			奉天				
1914	T3	6	232	13-14	1914. 4月初旬			武漢				
1915	T4	4	242	12	1915. 2. 21	台中						
1915	T4	5	243	18	1915. 4. 3	台北						
1915	T4	9	247	14	1915. 8. 8		京城				(田中穂積・吉田東伍博士、永井柳太郎教授)	
1915	T4	9	247	14	1915. 8. 12		平壌				(永井柳太郎教授)	
1915	T4	9	247	14	1915. 8. 7			天津				
1915	T4	9	247	14-15	1915. 8. 10			大連			(永井柳太郎教授)	
1915	T4	9	247	15	1915. 8. 2			奉天				
1915	T4	9	247	15	1915. 8. 16			奉天			(永井柳太郎教授)	
1915	T4	9	247	15	1915. 8. 18			撫順			(永井柳太郎教授)	
1915	T4	11	249	36	1915		京城					
1915	T4	11	249	36-37	1915. 8. 31			北京			(徳永重康博士・永井柳太郎教授・有賀博士)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
天津校友会。德永博士・永井教授の歓迎会。天津総領事松平恒雄(非校友)も同席。森日本郵船会社天津支店長による進行。德永博士の地質学に関する講演、永井博士の殖民政策に関する演説。永井「余は支那人の崇拝者の一人なりと云ふ前提のもとに」「日支人の提携は人種上よりするも必要言を俟たざる」こと、「之を能くするは直接間接之に接触して居る在支邦人の公平なる態度に待たるを得ず」と熱弁。写真(37頁)。	15名。	大和公園内「日本人会堂」。
青島校友会。(10日)「満韓蒙」視察中の德永博士・永井教授の歓迎会→校友会主催の講演会。永井の講演「日本人の世界的活動」を2時間演説、德永博士「山東省に於ける鉱山」(時間切迫で不十分で終了)→(12日)帰朝。	18名(歓迎会)→数百名(講演会)。	「舞鶴濱グランド・ホテル」(歓迎会)。静岡町市民会館(講演会)。
撫順校友会。「満鮮」視察中の永井柳太郎教授の歓迎会。永井は校友の案内で撫順炭坑を視察、米倉炭坑長は大隈伯の親族であるため社宅に訪問するも不在。写真(38頁)。		「撫順炭坑倶楽部」。
台北校友会。秋季大会。会費徴収・倶楽部新設つき協議。	約40名。	新公園「ライオン」。
模擬国会。総督武官専任制度・朝鮮移民問題・台湾に対する同化政策の採否(婚姻・戸籍問題・日台児童別学問題・植民地司法制度の裁判官任免権問題など)あり。		早大大講堂。
台湾早稲田倶楽部の開設。台湾北部校友会員80余名、中南部校友の来北時の便宜のためにも、倶楽部設立。3階建て、球台・図書新聞閲覧所・広間・娯楽室(囲碁・棋盤)などあり。		府中街三丁目「台湾早稲田倶楽部」。
台湾始政二十年記念勧業共進会開会式に参列する校友会の第1次歓迎会。来会者=坪谷善四郎(博文館理事)・池田龍一(日清生命専務取締役)・牧山耕造(「朝鮮公論」社長)・頼母木桂吉(代議士・「東京毎日新聞」社長)・鳥津久賢(貴族院議員・男爵)・大輪董郎(「やまと新聞」理事)・安井稲城(「和歌山新聞」主筆。かつて台湾在住)。益子逞輔幹事の挨拶「現下政界が早稲田主義の勝利たる事実より将来の植民地統治が早稲田主義に拠らざる可からざる所以」を説く。「朝鮮公論」社・牧山耕造「帝国の国是が内憲政の美を済すと共に外海外に発展するにあるは勿論なるが、吾等は北方大陸に向って早稲田主義の普及に尽力すべし、在台校友諸君南方に向って発展せられんことを望む」。「酒間高らかに校歌を合唱し、女交へずの大清興に主客歓を尽」くす。	40余名。	台北新公園前「早稲田倶楽部」。
台湾始政二十年記念勧業共進会開会式に参列する校友会の第2次歓迎会。来賓=内田銀蔵(文学博士)・山本忠俊(「萬朝報」記者)・安藤正純(「東京朝日新聞」編輯長)・齋藤庫四郎・三浦銕太郎(「東洋経済新報」社主幹)。益子逞輔幹事の挨拶。安藤正純「台湾人同化論」・三浦銕太郎「行き詰まれる台湾の産業」への意見。	28名。	「早稲田倶楽部」3階広間。
渡邊啓太(法院判官)の台中から台南地方法院長への栄転に伴い、台南の片山昴(弁護士)の斡旋で発会。出席者=の片山昴(弁護士)・渡邊啓太(台南地方法院長)・山本芳助と宮本諱(長老教中学校教師)・柴田稔(山田商店主)・荒木大五郎(打狗花壇主)・香取吉満(打狗鉄道部)・平方俊彦(台南電気作業所)・津田信教(台湾製糖社員)・菅原信一(塩水港拓殖製糖会社員)・豊盛真吾(「台南新報」社)。	11名。	「滋養亭」。
永井柳太郎教授の「満鮮」視察談。朝鮮京城実業家廣井澤次郎の寄付による早大殖民政策講座資金で視察。大連→旅順→湯崗子→奉天→長春→吉林→巴爾賓(ハルビン)→松華江・黒龍江→ハバフロスク→ウラジオストック→元山→京城→釜山。永井談「余を驚かした者は、到る処に我が早稲田大学出身者若くは関係者に出会はないことのなかったと云ふ事」・「是等各地方に於ける校友会」において、「天野学長の植民地に出で、早稲田大学建学の本旨を宣明し、普く植民地に於ける日本人をして大学の真価を知らしむる事に努力せられんことを希望するの決議を為せり。我が早稲田大学出身者は是等植民地に於いて未だ中心人物と言はゝ程の発展を遂げて居ないことは勿論だが、併し其の数の多い事は如何なる学校にも劣らざるのみならず、行く処として早稲田大学の健児を見ざる所なきは大に吾人の意を強うしたのである。英人は英帝国に太陽の没することなきを豪語して居るが、今や我が早稲田大学の学徒は五大洲到る処に其の足跡を留めざるなく、早稲田大学学徒のある処太陽没せざるの壮観を呈して居るのは、吾人同人の欣懐措く能はざる所である」。		
「先づ大連に上陸するや多数校友諸君の出迎」を受ける。森茂(満鉄調査課長)、原田昇(朝鮮銀行大連支店)、堤浄祐・渡邊儼(「満洲日日新聞」社)、唯根伊興(満鉄交渉局第一課)、佐久間章(満鉄経理部用度課)、佐々木義山・加藤達次郎(大連埠頭事務所)、巌道圓(満鉄瓦斯作業所)、松浦開地良(満鉄事務局庶務課)、広瀬安太郎(満鉄地方部衛生課)、岡田純三(満鉄南満州工業学校)、石橋貞男(満蒙写真通信)、三浦諒夫(大連重要物産取引所)、篠崎喜郎(大連商業会議所)、井上輝夫・海老名正雄・本吉幸敏(三井物産株式会社大連支店)、堀洋三(大倉組出張所)、花岡収造(日本売薬株式会社大連支店)、若林亮介(志岐組)、鈴木奥十郎、永田善三郎。	22名。	老虎灘の山荘。
石田武支(明治29年政治科卒)居留民団長の主催で歓迎会。出席者=小西春雄(朝鮮銀行奉天支店長)・沓川秀孝(「満洲日日新聞」奉天支局長)・丁鑑修(奉天省交渉部主任)・榊祐太郎(鉄嶺組社長)など。		
早大出身者のみならず早稲田実業学校出身者ともに歓迎会。		
校友会は未組織。長岡護策(政治科出身)などが歓迎・案内。長岡は長岡商会を組織し輸出貿易業を営む。		
入野寅蔵(居留民会理事。文科中退)の紹介でハバフロスク市助役のバビコフなどに面会。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1915	T4	11	249	37	1915. 9. 6			天津			(徳永博士・永井教授)	
1915	T4	11	249	37-38	1915. 9. 10-12			青島			(徳永博士・永井教授)	
1915	T4	11	249	38	1915. 8. 18			撫順			(永井教授)	
1916	T5	2	252	13	1915. 12. 18	台北						
1916	T5	4	254	14-18	1916. 3. 12						東京(模擬国会)	
1916	T5	6	256	20	1916. 4. 9	台北						
1916	T5	6	256	20-21	1916. 4. 18	台北						
1916	T5	6	256	21	1916. 4. 23	台北						
1916	T5	9	259	7-8	1916. 7. 4	台南						
1916	T5	10	260	4-5	1916. 7月-9. 7		(永井教授「満鮮」視察)	(永井教授「満鮮」視察)			(永井柳太郎教授)	
1916	T5							大連				
1916	T5							奉天				
1916	T5							長春				
1916	T5							巴爾賓(ハルビン)				
1916	T5											ハバフロスク

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
和泉良之助(居留民会理事。東京専門学校期の政治科在学)が世話。		
校友による歓迎会。参加者＝亥角仲蔵(総督府警務部保安課長)・権藤四郎介(李王職)・牧山耕造(『朝鮮公論』社長)・横田瀧二郎(日清生命保険朝鮮支社長)・田中健介(朝鮮銀行員)・太田利三郎(京城土地建物会社員)など。		
台北早稲田倶楽部の設立(昨年7月)。府中街に煉瓦三階建の一棟を借受けて校友諸子会合娯楽の場として。		
谷野格講師(法学博士)、覆審法院長就任で渡台。		
安部磯雄野球部長・早大野球団16名、台湾・マニラ遠征。		
〔記事なし〕		
〔記事なし〕		
5月3日に早大亜細亜学生会の発会式。1918年秋以降、懇親会合を40数回を経て発会。7月5－9日に遊説隊を組織して小田原・浜松・豊橋・名古屋などで講演会開催。高田早苗・清水泰次・青柳篤恒教授や校友・神田正雄などが「支那」の政治・経済や「日支」関係・植民地・移民問題・「満蒙」問題・人種問題などにつき講演。		
台北校友会。商船会社支店員・森安氏の送別会。		台北「鉄道ホテル」。
平沼淑郎学長「満洲」講演会。大連校友会の企画で、6月末に篠崎嘉郎(大連商業会議所書記長)が上京して相談、満鉄も協力して実現。		
(7月31日)大連埠頭に到着。満鉄会社役員・校友で歓迎→梅浦実(埠頭事務所長)の招待で、同所役員たちと晩餐→(8月1日)大連港巡視→沙河口満鉄製作工場視察→講演会。大連校友会主催。平沼学長・服部教授の講演。→校友大会→(2日)〔学長一行)＝龍口銀行で金融状況の聴取→満鉄訪問、社長・理事に面会、勧業課・運輸課で交通経済状況を聴取、民政署長官訪問→校友有志招待で午餐→野村満鉄社長、川上・片山両理事の招待で歓談。〔講演会〕塩澤・服部両教授の講演→(3日)〔学長一行)重要物産取引所・日清製油会社・朝鮮銀行などを視察→校友・中山竹太郎(三六史英)主催で午餐会→講演会、平沼学長・塩澤教授の講演→官民合同で歓迎会。主な参会者＝中野有光(大連民政署長)、相生由太郎(商業会議所会頭)、高濱素(大連市市長代理)、小西春雄(朝鮮銀行支店長)、伊藤董(大阪商船支店長)、梅野実(満鉄埠頭事務所長)、河邊勝(大連銀行頭取)、小野木孝治(満鉄建築科長)、西片朝三(『満洲日日新聞』副社長)、本田康喜(『満洲日日新聞』記者)、吉倉汪聖(『遼東』社長)、棟尾松治・早川己之利(『遼東』記者)、寶性確成(『大連新聞』社)、竹内坦道(『満洲新報』支局)、山田武吉(『大陸雑誌』社)、金子平吉(『泰東日報』社)、郭学順(大連公議会長)など→(4日)平沼学長よりの招待晩餐会→営口へ。写真(6頁)。	(3日)晩餐会＝37名。	(1日)講演会＝大連商業学校講堂。校友大会＝「ヤマトホテル」。(2日)校友午餐会＝老虎灘の茶亭。晩餐＝星ケ浦「星野屋」。(3日)午餐・晩餐＝星ケ浦「ヤマトホテル」。(4日)「ヤマトホテル」。
(8月4日)旅順到着。在地有力者や校友・後藤長栄の歓迎→軍司令部嘱託・細川砲兵少佐の案内。37・8年戦跡巡視、白玉山の表忠塔で記念撮影→午餐会→大連へ。		午餐会＝「ヤマトホテル」。
(8月8日)ハルビン到着。校友たちと夜食→(9日)横川省三・沖禎介の墓を弔す→松島総領事訪問→ハルビン軍事委員・石塚少将訪問→東清鉄道会社表敬訪問→校友と午餐→松花江邊の状況視察→晩餐会。石塚少将・松島総領事・校友など有志と→長春へ。		(8日)夜食＝「東清鉄道クラブ」。(9日)午餐＝料理店「モルデン」・ロシア料理。晩餐＝「北満ホテル」食堂。
台北校友会。秋季大会。	26名。	台北市新公園内「ライオン」。
早大校友会天津支部。校友3名の送別会を兼ねる。次年度幹事選出＝相原(三菱公司)・山川(華勝公司)。		「日華公論」楼上の「早稲田倶楽部」。
大連校友会。秋季大会。田中唯一郎前理事の歓迎を兼ねる。大連校友150名到達のため校友会大連支部設置を発議。推薦校友3名＝横田瀧三郎(日清生命保険株式会社大連支店長)・佐藤武雄(臭水土地建物株式会社支配人)・峰五郎(峰商会主)。支部設置に伴う役員選出。支部長＝小西春雄(朝鮮銀行支店長)、幹事長＝篠崎嘉郎(大連商業会議所書記長)、幹事＝稲葉武(日本電報通信社)・横田瀧三郎・今西莞爾・半田厚隆・中富清美・清川栄吉。	43名。	「西園亭」。
平沼学長の朝鮮訪問。朝鮮総督府臨時朝鮮教育調査委員に平沼が任命され、第1回会議に参加のため。鎌田慶大学長・沢柳博士・三土忠造とともに訪問。釜山→大田→水原→京城。		
(6日)平沼学長、釜山上陸。校友歓迎＝高賀貞雄(『京城日報』社員)、亀井才蔵・友永武城(『京城日報』釜山支局員)、熊野御堂権次郎・濱崎豊吉(『朝鮮新聞』社釜山支局員)、柄澤四郎・不破昌男(『釜山日報』社員)ら来訪。		
(6日)平沼学長、大田駅到着。校友など出迎え＝板橋菊松(東亜経済会主)、石村安三郎(京城高等学校教授兼主事)、関本幸太郎(大田中学長)など。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1916	T5	10	260	4-5	1916. 7月-9.7							ウラジオストック
1916	T5						京城					
1916	T5	5	267	11		台北						
1916	T5	9	271	3		台北					谷野渡台	
1916	T5	12	274	19	1917.1-2月	台北・台南						マニラ
1917	T6	1-12										
1918	T7	1-12										
1919	T8	11	297	9-10	1919. 5.3、7.5-9						早大亜細亜学生会	
1920	T9	6	304	9	1920.4.25	台北						
1920	T9	10	308	5-6	1920. 7.31-8.8			(平沼淑郎学長「満洲」講演会)			(平沼淑郎学長)	
1920	T9							大連				
1920	T9							旅順				
1920	T9							哈爾賓(ハルビン)				
1920	T9	12	310	6	1920.10.25	台北						
1920	T9	12	310	6-7	1920.11.3			天津				
1920	T9	12	310	7	1920.11.19			大連				
1921	T10	2	312	3-4	1921.1.6-9		(平沼淑郎学長朝鮮訪問)				(平沼淑郎学長)	
1921	T10						釜山					
1921	T10						大田					

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
(6日)平沼学長、水原駅到着。出迎え＝宮崎義男・蒲生隆宏(『朝鮮新聞』社員)。→永登浦駅着、出迎え＝弓削幸太郎(総督府学務局学務課長)、日下部景勝(東亜経済会主幹)。		
(6日)京城南大門着、朝鮮ホテルに投宿。総督関係者および校友・権藤四郎介(『朝鮮新聞』副社長)表敬訪問あり。校友板橋菊松宅にて夜食→(7日)総督府にて会議。校友の来訪あり＝鮮干全・金逵浩・有賀啓太郎・宮本繁造など→東亜経済会主催の講演会で講演「経済的階級戦争に就いて」(1時間半)→(8日)総督府にて会議。校友などの訪問あり＝崔斗善(校友。私立中央学校長)、三山喜三郎(京城工業専門学校長)、高畠種夫(『京城日日新聞』)など→『京城日報』・『朝鮮新聞』両社合同主催の講演会。平沼の講演「変時に於ける三種の危険思想」(1時間半)→朝鮮人教育者の招待で晩餐。朝鮮教育問題につき意見交換など。主人側の朝鮮人教育者＝高元勲(私立普通法律商業学校長。調査会委員)、鄭大鉉(私立普成高等学校長)、千潤錫(私立儆新学校教務主任)、洪基瑗(同校教員)、崔奎東(私立中東学校長)、厳柱益(私立養生高等普通学校長)、安鐘元(同学監)、任璟宰(私立徽文学校長)、姜邁(私立培材高等普通学校長・教師)、崔在鶴(同校教師)、崔斗善(私立中央学校長)→(9日)総督府にて会議→午餐。朝鮮人教育者へのお礼として招待→京城校友会支部。平沼学長歓迎の臨時校友会。権藤四郎介(『朝鮮新聞』副社長)の歓迎の辞。写真(4頁)。	(9日)臨時校友会＝23名。うち朝鮮人2名(崔斗善・金逵浩)。	(8日)晩餐＝仁寺洞「名月館」。朝鮮料理。(9日)午餐＝「朝鮮ホテル」。
平沼学長、朝鮮の中央経済会主催の夏期大学講演に講師の一人として招聘され朝鮮訪問。京城→元山。		
(17日)平沼学長、京城到着→朝鮮ホテルに投宿。宮本繁造・板橋菊松(中央経済会・校友)が出迎え→(18日)斎藤総督の招待午餐会→講演会。題目「近世経済史の研究」(2時間)、聴衆1500名超→夜会。美濃部朝鮮銀行総裁の招聘→(19日)奎章閣で書籍閲覧→帝大・早大その他諸学校および官民有志連合の歓迎会→秋月左都夫(『京城日報』社長)・牧山耕蔵(『朝鮮新聞』社長)の発起で歓迎晩餐会(大垣丈夫など参加)→講演(前日と同じ演題)→夜、住井(三井物産会社支店長)の招宴→(20日)日本弘道会京城支部主催で茶話会。中央経済会取主催で招待宴→(21日)元山へ。	19日歓迎会＝51名。うち朝鮮人5名。19日歓迎晩餐会＝12名。	(18日)午餐＝総督官邸。夜会＝千代本楼。(19日)歓迎会＝「朝鮮ホテル」。夜の招宴＝「京喜久楼」。(20日)茶話会＝「京城倶楽部」。招待宴＝「花月楼」。
『朝鮮元山毎日新聞』社長・西田常三郎が校友であるため、毎年夏季に早大教授を招聘して講演会を開催。第1回＝志賀重昂、第2回＝塩澤博士、第2回＝青柳篤恒で、今年が第4回で平沼学長。(21日)平沼学長、京城から元山到着→元山校友会の歓迎会。参加者＝西山常三郎(『朝鮮元山毎日新聞』社長)、松川大明(同社編輯局長)、葭濱信夫(東拓庶務課長)、大木耕堂(土木局庶務課長)、村田健次(東拓金融課長)、伊藤恒三(朝鮮銀行元山支店長)など→(22日・23日)講演会、会場は商業会議所で会員400名のみに聴講→(24日)会場を小学校大講堂として一般公開。聴衆1300余名。演題「太平洋問題の過去及現在」・「大戦の及ぼしたる経済上の影響」・「輓近思潮の帰結」→歓迎舟遊会→(25日)咸興に到着。講演会。小学校講堂で「輓近思潮の帰結」講演。聴衆2000名→官民合同歓迎会(50余名)→(26・27・28日)金剛山観光→(29日)元山へ→(30日)大邱へ。写真(9頁)。	21日歓迎会＝8名。	
『朝鮮民報』社主催の大邱教育会の後援による講習会が平沼学長を招聘。大邱→金泉→釜山。		
(31日)平沼学長、大邱到着。衛藤勇(『朝鮮民報』社理事)・砂田(同社員)の出迎えあり→(31日)慶州で博物館や遺跡など訪問→(8月1日)大邱へ戻る。講習の題目「太平洋問題の過去及現在」→(2日)金泉へ。『朝鮮民報』社長・河井朝雄も同行→金泉到着、市内巡覧→小学校講堂で講演「世変と思想」(1時間)。聴衆300名→官民合同歓迎会→大邱で講習「国際連盟の解釈」→(3日)市内巡覧→早大校友会・教育会・官民有志・岡山県人会の連合歓迎会→校友・韓翼東による自宅招待、朝鮮料理を饗す→講習「思想問題の帰結」。場所は高等女学校講堂、毎回聴衆500名、婦人の一団もあり→(4日)釜山へ出発。		(3日)連合歓迎会＝「楽天楼」
『朝鮮時報』社・釜山教育会主催の講演会。(4日)平沼学長、釜山に到着→官民校友連合の歓迎会→名勝巡覧→講演会。演題「第十九世紀以来の世変」。第一小学校講堂にて。聴衆500余名→釜山から乗船、内地へ。		官民校友連合歓迎会＝「鉄道ホテル」。
台北校友会。		
長春校友会。平沼学長・塩澤博士・服部教授の歓迎。		
鞍山校友会。平沼学長・塩澤博士・服部教授の歓迎会。		
奉天校友会。平沼学長・塩澤博士・服部教授の歓迎会。		
奉天校友会。		
奉天校友会。内ケ崎教授歓迎の臨時校友会。		
大連校友会。平沼学長・塩澤博士・服部教授の歓迎会。		
大連校友会。田中名誉理事の歓迎会。		
大連校友会。内ケ崎教授の歓迎会。		
京城校友会。平沼学長・塩澤博士・服部教授の歓迎会。		
京城校友会。内ケ崎教授の歓迎会。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1921	T10	2	312	3-4	1921. 1. 6-9		水原・永登浦					
1921	T10						京城					
1921	T10	9	319	8-10	1921. 7. 18-27		(平沼淑郎学長朝鮮訪問)				(平沼淑郎学長)	
1921	T10						京城					
1921	T10						元山・咸興					
1921	T10	10	320	8	1921. 7. 31-8. 4		(平沼学長朝鮮訪問					
1921	T10						大邱・金泉					
1921	T10						釜山					
1921	T10	12	322	31	1920. 10. 25			台北				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 1			長春				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 5			鞍山				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 6			奉天				
1921	T10	12	322	31	1921. 2. 17			奉天				
1921	T10	12	322	31	1921. 6. 2			奉天				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 1			大連				
1921	T10	12	322	31	1920. 11. 19			大連				
1921	T10	12	322	31	1921. 5. 21			大連				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 15			京城				
1921	T10	12	322	31	1921. 6. 14			京城				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
京城校友会。平沼学長の歓迎会。		
哈爾賓校友会。平沼学長の歓迎会。		
元山校友会。青柳教授の歓迎会。		
旅順校友会。		
漢口校友会。内ケ崎教授の歓迎会。		
上海校友会。		
上海校友会。浮田教授・難波賛助会幹事の歓迎会会。		
天津校友会。市島・田中名誉理事の歓迎会。		
天津校友会。		
大邱校友会。早稲田校友会大邱支部発会式。		
清水泰次「南支那より帰りて－上海広東台北の校友」。		
京城校友茶話会。池田龍一(日清生命社長)・亥角仲蔵(全羅北道知事)・和田純(慶尚南道知事)の来城の歓迎の茶話会。日清生命京城支社の営業所新築の際に校友に一部開放を希望、高田早苗新総長へ京城校友会から祝電を送る。	36名。	「京城ホテル」。
天津校友会。早大柔道部の「支那」遠征の招待。	13名。	「晋陽楼」。
天津早稲田会。天津の運動会に参加の各専門学校同窓会のランニングレースに早大チームで参加。優勝。優勝祝いを兼ねて春季大会。	19名。	旗亭「敷島」。
長春校友会。春季校友会。校友の栄転・転出の歓送迎会も兼ねる。	20名。	料亭「開花」。
池田龍一(日清生命社長)「支満鮮地方校友の会合」。大連・青島・天津・北京・撫順・京城・元山を巡遊。		
(2日)校友・中川竹太郎の斡旋で視察、校友を招待。	来賓20余名のうち校友11名。	「湖月」。
(3日)校友・福田辯治郎の斡旋で視察→(7日)校友を招待→(8日)済南経由で天津へ。道中、排日運動を目撃、臨城で「土匪」事件のため鉄道遅延。	11名。うち1名が非内地人(郎学韶〔中国銀行支配人〕)。	「グランドホテル」。
(9日)天津到着→(10日)市内巡覧→官民有志を招待。	11名。うち1名は非内地人(荘璟珂)。	「敷島」。
(11日)北京到着。校友の市吉徹夫(三菱支店長)・永持徳一・劉驤業の案内で、萬寿山や愛親覚羅関係の遺跡を巡覧、総統府内の特別拝観→(13日)劉驤業の斡旋で校友からの招待宴。半数近くが非内地人で「日支親善の清筵が開かれ」た→(15日)奉天へ。	11名。うち5名は非内地人。	「車興楼」。
(16日)撫順到着。坑道などを巡覧。校友と晩餐→平壌経由で京城へ。	8名。内地人のみ。	「撫順ホテル」。
(19日)京城到着→(20日)官民有志を招待して晩餐→(21日)京城校友による歓迎会。	(20日)50余名の官民有志のうち校友13名。(21日)30余名。	(20日)「京城ホテル」。(21日)「朝鮮ホテル」。
(22日)元山到着。校友の西田常三郎(『元山毎日』社長)の斡旋・広瀬博(朝鮮郵船支店長)の案内で築港事業・ロシア避難民の窮状などを視察→校友で晩餐会→咸興へ。	8名。内地人のみ。	「丸芳」。
平壌校友会。設立を可決。「平壌校友会会則」制定。役員は、会長＝宮舘貞一、副会長＝鄭奎鉉、幹事＝砂田翠月。会員は20名(うち朝鮮人1名)、在校生8名。事務所は大阪毎日新聞平壌通信所内。	12名。うち朝鮮人2名。	平壌寿町「武蔵□(判読不能)」。
台北校友会。新年宴会。	25名。内地人のみ。	台北「竹の家」。
釜山校友会。春季総会。	15名。内地人のみ。	釜山商業会議所構内「商工倶楽部」。牛鍋。
本年度最初の幹事会。現況＝会員を150余名の会員を有し、春秋季二季の校友会には「常に日支校友百有余名の出席」。幹事会決定事項＝母校野球部・庭球部・競争部の招待、母校夏季学生視察団の歓迎会、大連校友支部を校友会幹事長・森美文方に置く(大連市内城町2)。	10名。内地人のみ。	「大華楼茶館」。
青島校友会。新年宴会。「青島校友会には規則も束縛もない、早稲田の森にはぐまれたる者の隔意なき集団に過ぎない」。毎月会費1円、幹事3名が1年の処務を管掌。幹事＝武部精一(青島冷蔵株式会社員)・遠藤要(青島地所建物株式会社専務取締役)・村松長治郎(岩城商会員)・柿内靖(東拓支店調査主任)。	18名。内地人のみ。	一流料亭「粂の家」。スキ焼。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1921	T10	12	322	31	1921. 5. 23			京城				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 9			哈爾賓（ハルビン）				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 15			元山				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 4			旅順				
1921	T10	12	322	31	1921. 4. 24			漢口				
1921	T10	12	322	31	1921. 1. 29			上海				
1921	T10	12	322	31	1921. 2. 28			上海				
1921	T10	12	322	31	1920. 10. 23			天津				
1921	T10	12	322	31	1920. 11. 3			天津				
1921	T10	12	322	31	1920. 8. 21			大邱				
1922	T11	7	329	4-6	1922. 3-5月	台北		上海・広東				
1923	T12	6	340	25	1923. 5. 21		京城					
1923	T12	6	340	25	1923. 4. 23			天津				
1923	T12	6	340	25	1923. 5. 13			天津				
1923	T12	6	340	25	1923. 5. 8			長春				
1923	T12	7	341	17	1923. 5. 2-23		（池田日清生命社長による「支満鮮地方」巡遊）	（池田日清生命社長による「支満鮮地方」巡遊）				
1923	T12							大連				
1923	T12							青島				
1923	T12							天津				
1923	T12							北京・奉天				
1923	T12							撫順				
1923	T12						京城					
1923	T12						元山					
1923	T12	12	346	11-12	1923. 8. 30		平壌					
1924	T13	3	349	14	1924. 1. 25	台北						
1924	T13	3	349	14-15	1924. 2. 16		釜山					
1924	T13	4	350	6	（不詳）			大連				
1924	T13	4	350	6-7	1924. 1. 31			青島				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
青島校友会。幹事会。蓄積された会費の使用方法を協議。現時点で会員42名、うち非内地人３名＝李克鎌(膠澳埠頭局長)・戚運機(地方審判庁長)・鄔学韶(中国銀行支配人)。		遠藤要(青島地所建物株式会社専務取締役・校友会幹事)宅
青島校友会。幹事の柿内靖(東拓支店調査主任)の釜山支店への栄転、空閑知鶩治(空閑商事会社主)の総選挙立候補出馬のための転出のため、送別の臨時大会。補欠幹事＝田中国隆(塩貿易商)。	23名。内地人のみ。	「三浦屋」。
京城校友会。春季大会。幹事７名＝千葉隆・横田瀧三郎・藤本寛寧・古城亀之輔・板橋菊松・林原憲貞・仙波潤一郎。	36名。内地人のみ。	京城市内「花月」。
天津校友会。天津体育会陸上運動会(帝大・早大・上海同文・高商など学校別で競技)で優勝、選手慰労会。現況＝天津在住日本人正校友23名・校友に准ずべきもの12名。	22名。	天津三不管「聚和成」。紹興酒(25年もの)・朝日ビール・「支那料理」。
青島校友会。夏期大会。稲門倶楽部設立の提案、校友で旧名投手である全青島野球軍をコーチする大村隆行から、早大野球団の今夏天津遠征の際に青島経由を希望、校友会より安部磯雄に打電を決す。	22名。内地人のみ。	「二葉」。
京城校友会。内ケ崎三郎(衆議院議員・早大教授)歓迎会。	42名。うち朝鮮人１名(千珍喆)。	冷肉・冷菓・ビール。
青島校友会。臨時大会。校友で野球団である「寶塚協会」と「名古屋倶楽部」を招待。	招待校友６名。主人側の校友会＝21名。内地人のみ。	「花山」。
上海早稲田会。		
上海早稲田会。		
天津校友会。		
長春校友会。故総長婦人追悼会。		
長春校友会。		
京城校友会。		
平壌校友会。		
台湾北部校友会。		
釜山校友会。		
青島校友会。秋期大会。時局談(「支那内乱と在留民、青島に居て見る今度の戦争、奉天戦争実は日米戦争、現内閣の対支政策と其表裏、呉佩孚の末路と人生の価値、内乱と支那人の心理」など)。余興＝海老一鉄五郎一座を招く。	22名。内地人のみ。	「粂の家」。
上海校友会。新年宴会。	16名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海校友会。常任幹事・横川傳次郎の送別会を兼ねる。	17名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海校友会。(22日)早大柔道部の来訪を期に、校友会主催の演武大会開催。東亜同文書院・演武館有段者数十名も参加。邦字新聞・「支那新聞」誌上に「柔道の真骸を宣伝し更に日本武道紹介のため各方面に数千枚の招待状を発」す。各国駐在大使・武官・在留邦人など参観者→(23日)校友会主催で歓迎会。柔道部選手５名を招待。	(22日)3000人の参観者。(23日)校友21名、その他15名、主賓５名。	(22日)「ニューカルトン」ホール。(23日)「日本人倶楽部」。
上海校友会。早大「支那旅行団」および早大「支那協会」一行の歓迎会。学生と校友で「卓を囲みて支那問題を縦談」。	13名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
京城校友会。春季校友会。日清生命保険満鮮支社長横田瀧三郎が、大阪支社長に栄転のため送別会を兼ねる。新支社長は校友・犬飼寅太郎(『早稲田学報』359号、35頁)。	37名。内地人のみ。	京城本町２丁目「花月」。
青島校友会。忘年会。	21名。内地人のみ。	「三浦屋」。
各地校友会支部から、本会幹事選出を可能とする会則改変。選挙単位は各府県・北海道庁・樺太庁・朝鮮総督府・関東都督府を一単位とする。定員は各支部１名ずつで、会員400名以上の支部は増加選出を可能とする＝朝鮮から１名選出可能。	16名。内地人のみ。	
校友会会則の前号記事の訂正。台湾総督府も一選挙区。		
校友会本部の幹部２名を京城支部から選出する経過報告。馬野精一(校友・京畿道警察部長)の洋行土産話「西洋の文化の著しく進歩せる一端より説き黄白人種の差別概論に及ぶ」(１時間)。	31名。内地人のみ。	市内永楽町「商品陳列館」。
香港早稲田会。春季大会。香港から台北本店へ栄転する林新吾(台湾銀行)の送別会を兼ねる。	16名。内地人のみ。	日本旗亭「清風楼」。
京城早大校友会。臨時校友会。校友・馬野精一が京畿道警察部長から京城府尹へ栄転の祝賀会を兼ねる。	23名。内地人のみ。	永楽町「商品陳列館」。
朝鮮視察のため来城の神田正雄(衆議院議員)・講演のため来城の北澤新次郎の歓迎会。	27名。内地人のみ。	「京城倶楽部」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1924	T13	4	350	7	1924. 2. 18			青島				
1924	T13	5	351	20	1924. 3. 27			青島				
1924	T13	7	353	10-11	1924. 5. 10		京城					
1924	T13	7	353	11	1924. 5. 25			天津				
1924	T13	8	354	14	1924. 6. 21			青島				
1924	T13	9	355	9	1924. 8. 4		京城					
1924	T13	10	356	15	1924. 9. 4			青島				
1924	T13	12	358	34	1923. 4. 10			上海				
1924	T13	12	358	34	1923. 8. 29			上海				
1924	T13	12	358	34	1923. 4. 22			天津				
1924	T13	12	358	34	1923. 4. 29			長春				
1924	T13	12	358	34	1923. 5. 5			長春				
1924	T13	12	358	34	1923. 5. 21		京城					
1924	T13	12	358	34	1923. 8. 30		平壌					
1924	T13	12	358	34	1924. 1. 25	台北						
1924	T13	12	358	34	1924. 2. 16		釜山					
1925	T14	1	359	8	1923. 11. 8			青山				
1925	T14	1	359	8	1924. 1. 29			上海				
1925	T14	1	359	8	1924. 4. 3			上海				
1925	T14	1	359	8	1924. 5. 22-23			上海				
1925	T14	1	359	8	1924. 8. 4			上海				
1925	T14	2	360	7	1925. 1. 19		京城					
1925	T14	2	360	7	1924. 12. 20			青島				
1925	T14	3	361	8	1925. 3						校友会会則改変	
1925	T14	4	362	7	1925. 4						校友会会則改変	
1925	T14	6	364	11-12	1925. 5. 5		京城					
1925	T14	6	364	11	1924. 5. 2	(台北)		香港				
1925	T14	8	366	13	1925. 7. 2		京城					
1925	T14	10	368	12	1925. 8. 22		京城					

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
全羅南道・全羅北道・忠清南道の三道合同校友会。朝鮮全羅北道裡里で開催。校友で全羅北道知事・亥角仲蔵の東洋水利組合長就任の祝賀会を兼ねる。	17名。うち1名朝鮮人(金英鎮)。	裡里市「玉の浦」。
上海校友会。早大宮島・天川両先生が欧州留学の途中訪問、歓迎会開催。宮島の演説「明治文学の社会に及したる影響」。	16名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海校友会。早大雄弁会の大賀駿三・植田公男・伏見武夫を招聘。	11名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海校友会。森盛一郎(東京商業会議所常議員)が上海の罷業視察のために来訪、歓迎会。「日支経済問題」につき各自意見交換。	17名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
京城校友会。秋季大会。母校安部磯雄野球部長に対し大捷の祝電。牧山耕造の談話「中央地方に於ける校友の政治上に於ける勢力に就ての現状」。朝鮮稲門会(日清生命代理店)からの補助金あり。	42名。内地人のみ。	市内旭町「白水」。
上海早稲田会。懇親会。予定していた庭球試合開催は雨天で囲碁将棋会に変更。晩餐会。	11名。内地人のみ。	「月廼家花園」。
上海早稲田会。代議士・中野正剛の歓迎会。中野の評論「露国赤化思想と支那関税問題」、矢田七太郎(総領事・校友)の評論「支那時局」。	14名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。「支那料理」。
天安校友会。親睦会。天安＝私設朝鮮京南鉄道の本社所在地。京南鉄道勤務関係者の校友で組織。天安駅での記念撮影写真(5頁)。	6名。内地人のみ。	「天安旅館」。
天津早稲田校友会。現在＝在天津会員40余名。坂梨敏雄(青島坂梨商会主)・大塚弘(箱根土地株式会社員)の歓迎。「戦乱常なき支那に在って、同胞相会することは愉快なものである。殊に東都の西北早稲田の森より産み出された、同門の兄弟が相寄り相談ふはこよなき快事」。	22名。内地人のみ。	「支那街」三不管「晋陽楼」。「支那料理」2卓。
早大校友会大連支部。新年会。志賀重昂、永田善三郎。栗山博代議士歓迎会を兼ねる。	39名。内地人のみ。	「泰華楼」。
香港早稲田会。中華民国校友も一同に会することとした。	11名。うち中華民国側校友3名。	日本旗亭「清風楼」。
青島校友会。校友の送別会をかねて新年会(旧正月)。	18名。内地人のみ。	「天辰楼」。
京城校友会。春季大会。幹事改選、7名選出。5月13日－6月11日の『朝鮮新聞』社主催の博覧会開催中に、朝鮮支部の校友連合大会の開催を申し合わせる。	38名。内地人のみ。	京城府明治町「東海楼」。
早稲田大学校友会朝鮮支部総会。「早稲田大学校友会朝鮮支部規約」制定。全7条。組織＝朝鮮居住校友で組織(第1条)。目的＝朝鮮内の各地校友との連絡を計り母校との関係を密にする(第2条)、本支部から母校に評議員を選出する(第3条)、年1回の総会開催(第5条)、など。牧山耕蔵代議士の「最近中央政界の事情談」(1時間)あり。	31名。内地人のみ。	京城府内米倉町「京城倶楽部」。
上海早稲田会。例会。時局問題・為替問題など談ず。	12名。内地人のみ。	旗亭「月廼家」。
香港早稲田会。校友の吉岡・新井(東洋汽船会社香港支店)の送別会。	10名。内地人のみ。	「支那」料亭「嘉評」。
京城校友会。池田龍一(日清生命保険会社社長)の歓迎会。池田の談話＝大連・長春・吉林・ハルビン・奉天視察と張作霖との会見顛末、早大と日清生命との深甚な関係に論及。	40名。内地人のみ。	南米倉町「京城ホテル」。
幹事改選。3名。		
京城校友会。校友・露崎薫(京城電気会社→京城府庁)の送別会。	15名。内地人のみ。	京城黄金町「銀松亭」。
京城校友会。三代議士(山本勝次・森肇・栗山博)の歓迎会。	23名。内地人のみ。	京城府内南米倉町「京城倶楽部」。
京城校友会。小山谷蔵(前代議士)の「満鮮」視察の途中来訪を歓迎。	12名。内地人のみ。	「京城倶楽部」。
天津早稲田校友会。例会。	23名。内地人のみ。	旗亭「敷島」。日本式宴会。
上海早稲田会。藤原誠一(校友会幹事・上海銀行次席)の告別式。	9名。内地人のみ。	上海西本願寺。
上海早稲田会。田中益太郎(正金銀行支店長秘書・校友会に尽力)の送別会。庭球試合後に送別会。	11名。内地人のみ。	「月廼家花園」。
泰天校友会。早大各学部生で構成された「満洲戦跡視察団」一行80名の歓迎会。会長・石田武亥から「満洲事情に関する有益なる講話」あり。	17名。内地人のみ。および学生80名。	「志城飯店」。
大連支部校友会。スタンフォード大学野球部一行とともに来た高杉教授の歓迎会。	44名。内地人のみ。	「大連ヤマトホテル」屋上庭園。
青島校友会。校友家族会。郊外散策・海水浴・磯釣り・遊戯など。	30名(校友家族含む)。	湛山の東海岸。
青島校友会。安部磯雄教授が青島日本基督教青年会の招聘で夏期講座のために8月13日来青、講演最終日の20日歓迎会開催。	21名。内地人のみ。	「グランドホテル」。
京城校友会。元野球部選出石川順一の歓迎茶話会(「全鮮野球大会」列席のため入城)。	16名。内地人のみ。	「京城ホテル」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1925	T14	10	368	12	1925. 8. 12		裡里					
1925	T14	10	368	12	1925			上海				
1925	T14	10	368	12	1925. 8. 2			上海				
1925	T14	10	368	12	1925. 8. 20			上海				
1925	T14	12	370	11-12	1925. 10. 21		京城					
1925	T14	12	370	12	1925. 9. 23			上海				
1925	T14	12	370	12	1925. 11. 3			上海				
1926	T15	1	371	5・7	1925. 12. 12		天安					
1926	T15	1	371	5-6	1925. 11. 24			天津				
1926	T15	2	372	8	1926. 1. 10			大連				
1926	T15	2	372	9	1925. 12. 12			香港				
1926	T15	3	373	11	1926. 2. 13			青島				
1926	T15	4	374	12-13	1926. 3. 10		京城					
1926	T15	6	376	17-18	1926. 5. 26		朝鮮支部総会					
1926	T15	6	376	18	1926. 4. 13			上海				
1926	T15	6	376	18	1926. 4. 18			香港				
1926	T15	7	377	30	1926. 5. 28		京城					
1926	T15	8	378	14	1926年			撫順				
1926	T15	8	378	15-16	1926. 6. 12		京城					
1926	T15	8	378	16	1926. 6. 20		京城					
1926	T15	8	378	19	1926. 7. 19		京城					
1926	T15	9	379	10-11	1926. 6. 20			天津				
1926	T15	9	379	11	1926. 5. 9			上海				
1926	T15	9	379	11-12	1926. 7. 14			上海				
1926	T15	9	379	12	1926. 7. 23			奉天				
1926	T15	9	379	12-13	1926. 7. 23			大連				
1926	T15	9	379	13-14	1926. 7月下旬			青島				
1926	T15	10	380	20-21	1926. 8. 20			青島			（安部磯雄教授）	
1926	T15	10	380	25	1926. 9. 1		京城					

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
「軍事教育第１回鮮満見学」一行66名。７月20日に大連校友会の学生歓迎会、７月23日に奉天校友会から学生歓迎会(「支那料理)。そのほか釜山・京城などでも校友の歓迎・案内を受ける。		23日＝「志城飯店」。
台湾北部校友会。推薦校友４名＝桑山平助(総督官房会計課)・住谷茂胤(台北州土木課)・田中一二(『実業之世界』台北支局長)・小泉進作(『大阪毎日新聞』台北支局長)。幹事改選、幹事長＝坂本信道(商工銀行常務)、幹事７名＝松倉照三郎(鉄道部)・原俊芳(第一中学)・高田正一(台北州)・秦満(総督府)・蔡添丁(実業)・黒田為雄(日清生命)・森岡憲爾(『台湾日日新報』)。	36名。台湾人１名(蔡添丁)。	台北市「鉄道ホテル」。
京城校友会。有志で前田昌徳(川北電気会社京城出張所長)の送別会。	８名。内地人のみ。	京城駅階上の特別室。
京城校友会。有志で宮部敬治(『京城日報』副社長)の送別会。	13名。内地人のみ。	「京城ホテル」。
天津校友会。早川了裕(宗教関係者カ)の送別会。		曙町「敷島楼」。
京城校友会。春期大会。幹事改選(10名)。		
広東中華稲門会。広東には従来は「中華稲門学会」があり「支那側」校友のみで構成されていたが、新たに「日支合同」の校友会を開会。渋谷剛(実業公司)の斡旋。春季大会。食事前に麻雀・「日支時局談」・記念撮影後、晩餐。菊池惟中(正金銀行技師)の広東語での挨拶、幹事の馮渭郷(塩務総処)・黎庶希(政治会議広州分会)の日本語で「日支親善」談。	25名。内地人５名・「中華」側16名(およびその夫人)。	「支那料理」店「西園」。
(３日)天津校友会支部。春季懇親会。山森利一(『報知新聞』外報部長)が「支那政情視察のために来津したので歓迎会を兼ねる。山森の「最近北京に於ける各方面の視察南北支那の確執三民主義と共産主義の関係」などを談。姚震(段祺瑞派の智謀・大審院判事)の「現在支那政界に対する所感」。(７日)早大校友会・天津青年会の主催で公会堂で講演「大和民族の使命と対支政策」。聴衆1000名。	24名。うち非内地人１名(姚震)。	「日本倶楽部」。「支那料理」。
撫順校友会。春季大会。	13名。内地人のみ。	「炭坑ホテル」。
北部台湾校友会。早大学生の台湾見学旅行団(滝沢教授・学生21名)の歓迎会。(17日)基隆港で出迎え。(18日)歓迎会。写真(11頁)。	(18日)校友37名。うち台湾人２名(張清漢・蔡添丁)。	一流台湾料理亭「蓬莱閣」３階。
上海早稲田会。会則の変更などを協議。	15名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海早稲田会。オリンピック大会早大選手歓迎について理事幹事会。	６名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海早稲田会。極東選手権競技大会出場の早大役員選手48名の招待会。。	24名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
天津早稲田校友会。秋季大会。	18名。内地人のみ。	旅亭「敷島」。
大連支部校友大会。極東オリンピック大会に出場した蹴球選手一行18名の歓迎会。校友会支部長選出＝千葉豊治。	42名。内地人のみ。	市内の仙境ラヂユーム温泉。すき焼き、酒、ビール。
香港校友会。早大ラグビー遠征団の歓迎会。邦人ラグビー倶楽部有志・選手個人との関係者有志・校友の合同で開催。合計41名。	10名。内地人のみ。	「千葉館」。すき焼き。
大連校友会。「支那視察」目的で大連寄航の信夫淳平教授、満鉄情報課長主任の校友寒河堅吾の歓迎会。	22名。内地人のみ。	「市内一流の支名料亭泰華楼」。
上海早稲田会。上海野球界に尽力した校友・岸一郎が満鉄神戸支店支配人に栄転のため送別会。「支那の時局談に花が咲き」。「支那側の校友諸君も出席」「本会は会毎に支那側の校友諸君の出席が多くなって行く嘻ひを茲に報告する」。	19名。うち「支那側」校友３名(陳国権・鮑文・呉蘊齋)。	「日本人倶楽部」。「支那料理」。
広東早稲田会。大森元(日清汽船)の送別会。「共産党暴動突発四五日後の事にて、時局段に花を咲かせ」た。	６名。内地人のみ。	沙面「三河屋ホテル」。
青島校友会。佐野元温(三菱商事会社青島支店次席)の朝鮮転出の送別会。	23名。内地人のみ。	料亭「第一楼」。
「平壌校友会会則」。全10条。事務所＝平壌府里門里60番地平壌大同門郵便所内。役員は任期２年、会長＝市橋斎、副会長＝鄭奎鉉、相談役＝中丸好太郎・水島寛治・木村省三・江上成義、幹事＝加藤虎清・森本昇。		
大連校友会。荒木章(満鉄勤務)の欧州留学の送別会。安部磯雄の衆議院議員立候補に対して「恩師安部先生に対して、当校友会は政党政派を超越して、先生の立候補を祝ひ、且つ御当当選を祈る」旨の電報を打つことを動議可決・資金寄進。	46名。内地人のみ。	市内「西園亭」。
校外教育普及宣伝のために青柳篤恒教授来訪。元山→大邱。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1926	T15	11	381	47-50	1926. 7.10-31		(「軍事教育第1回鮮満見学」)	(「軍事教育第1回鮮満見学」)				
1926	T15	12	382	16-17	1926.10.23	台北						
1927	S2	1	383	21	1926.11.22		京城					
1927	S2	1	383	21	1926.11.26		京城					
1927	S2	1	383	21・25	1926.12.4			天津				
1927	S2	4	386	49								
1927	S2	4	386	49-50	1927.2.20			広東				
1927	S2	6	387	33	1927. 5.3、5.7			天津				
1927	S2	6	387	33-34	1927.5.7			撫順				
1927	S2	9	391	11-14	1927. 7.17-18	台北					(早大台湾見学旅行団)	
1927	S2	10	392	21	1927.6.29			上海				
1927	S2	10	392	21	1927.7.19			上海				
1927	S2	10	392	21-22	1927.9.2			上海				
1927	S2	10	392	30-31	1927.9.7			天津				
1927	S2	10	392	31-32	1927			大連				
1927	S2	10	392	32	1927			香港			(早大ラグビー遠征団)	
1928	S3	1	395	12-13	1927.12.3			大連			(信夫淳平教授)	
1928	S3	2	396	12-13	1927.12.12			上海				
1928	S3	2	396	14	1927.12.7			広東				
1928	S3	2	396	14-15	1927.12.23			青島				
1928	S3	4	398	32	1927		平壌					
1928	S3	4	398	38	1928.2.2			大連				
1928	S3	4	398	40-42	1928. 2.7-11		(青柳篤恒教授の校外教育普及宣伝)				(青柳篤恒教授)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
元山校友会。青柳教授の歓迎会(青柳は3回目の元山来訪)。(7日)青柳教授、元山到着→中学校講堂で中学生・商業学校生のために講演「反省の日本」(「支那を中心として我国民殊に青年の奮起を促」すもの)→小学校大講堂で、早大出版部主催、『元山毎日新聞』社・元山校友会後援で民衆教育普及のための「講演と映画の夕」開催。青柳教授の2講演「開放途上の支那」・「余が独学時代の回顧」。映画「早稲田の輝き」上映(約1時間)。聴衆2000名→(8日)元山高等女学校で女学生の為の講演「亡き母の感化」(約2時間)→商業会議所会議室で校外生の懇談会・早稲田大学同攻会元山友部発会式に出席→校友会・官民有志歓迎会。主賓=青柳教授・高澤源三郎(日清生命満鮮支社長・京城校友会常任幹事)・山口毅(早大出版部員)。山口の説明・操縦で映画「早稲田の輝き」上映。「我校友にとって最も懐しい母校の発展の模様、尊敬の的であった懐しい故大隈総長の有りし日の面影に接した時は、実に涙ぐましい感激そのものであった。新しい校友の如きは故総長の動いて居らゝは始めて観たと云って大変な喜びであった。映画の最後の字幕の校歌の表はるゝ時、校友の口からは期せずして校歌は合唱された。」(40−41頁)→(9日)大邱へ。	(8日)校友8名。内地人のみ。	「朝鮮一と言はるゝ料亭」「丸芳楼」。
大邱校友会。青柳教授の歓迎会。来訪前より原辰雄(大邱早大校友会幹事)が講演会会場などを交渉、中野作楽・鳩谷征二(校友)は市内各官庁学校会社其他に宣伝ビラ6000枚配布。(9日)青柳の講演会(18−23時)。聴衆1400名。青柳教授の講演「極東外交の推移と反省の日本」(極東における日本の地位と日本国民の覚悟)。映画「早稲田の輝」を山口早大出版部員の解説で上映。大邱マンドリンクラブの合奏で「校歌「都の西北」の合奏に依り聴衆は直に観衆と変り、早稲田気分に陶酔し、校友の「都の西北」のコーラスに映画を終り」(42頁)。青柳の講演「予が独学時代を回顧して」。「この日の先生の御講演に感激した当地の某実業家の如きは、早速早大出版部講義録中の七科の申込みをした事程、左様に多大の感激を聴衆に与へた」。(11日)大邱早大校友会で歓迎会。	(11日)15名。うち朝鮮人1名(韓翼東)。	「原竹」。
北京早稲田会。「当地にては日本人校友の数少きと中華人校友の数余り多きとにて、最近校友互に相遇ふ機会屢々なるにも拘らず、校友会としての集会を見ることがなかった。」(44頁)。鈴木謙(三菱公司次席)の東京三菱本社への転任の送別会を兼ねて午餐会開催。	6名。内地人のみ。	校友・原田梁二郎(日本興業銀行北京駐在員)宅。
早大旅行団(25名)歓迎会。奉天総領事・校友の林久次郎の主催。	10名。	奉天総領事館。
大連校友会。早大旅行団(23名)歓迎会	28名。内地人のみ。	市内「青年会館」。
台湾北部校友会。夏季大会。益子逞輔(在京幹事)の上京日程に合わせて急遽開催。「顔は知らないでも名乗りは始めてでも、其処がたゞ校友だと云ふ縁から集まる者始めから一家身内の心安さ」(30頁)。「台湾支部会員の宿望である高田総長其他母校教授の渡台講演につきての希望やら意見を交換し、出来得れば今秋総長一行を台湾に迎へたいとの支部の意向を述べ、その折衝を益子氏に一任」(30頁)。	32名。	台北市「第一の支那料亭江山楼」。
上海早稲田会。例会。「再び中国人側の上海在住の校友諸君に本会に入会勧誘促進の議が出て陳国権君に助力をお願ひする事になる」。	14名。うち1名「中国人側」(陳国権)。	長崎料理。
上海早稲田会。欧州視察帰途に立ち寄った北澤新次郎教授の歓迎会。北澤談=「産業組織論」や最近のヨーロッパ各国の社会状況・思想。	10名。うち1名「中国人側」(陳国権)。	「日本人倶楽部」。長崎名物しっぽく料理。
青島校友会。1928年度第1回会合。中川喜一郎校友の上海税関転出の送別会を兼ねる。二次会=「円卓を取りまひて卓を叩き『都の西北』を幾度繰返し歌った事だらう」(9頁)。	20名。内地人のみ。	青島神社境内の料亭「金の家」。夜桜見物をしつつ、鯛「ちり」→二次会=旗亭「第一楼」。
「時局懇談会」の名の名称の下に、早大青島校友会と外大連合校友会。校友の民政党議員=山地只一・松村謙三・神田正雄の三代議士、および外語出身などの民政党代議士2名が来訪。民政党より済南事件調査と山東の現状視察ために派遣。当時の雰囲気=「山東は挙げて済南事件を中心として渦を巻き悲憤の涙、慷慨の気に居留民の血は煮えくり返って居た。其時に現政府の対支政策に共鳴し田中首相を謳歌しつゝある山東の地に反対党の代議士がやって来たのだ。居留民は好感を以て迎える道理はない。此際校友会として歓迎会など催したら青島の人々いや山東省全体の邦人から何んな目に会ふか知れたものじゃないと云ふ物凄い雰囲気の中だ」。名目は「時局懇談会」として早大青島校友会と外語校友会と合同で開催。「政友会代議士との会合よりも余程有意義なものではあるのだ」。会合の目的=「済南事件の真相を母国の朝野に伝へ此際現政府にして一歩対策を誤らんか山東居留邦人の浮沈死活は固より帝国の已得権−地置−威信に関する重大なる結果を齎す事となるべきを力説し正鵠を失せざる対支政策の樹立に努力せられん事を懇望する」(10頁)。	主賓5名のほか、早大校友18名(内地人のみ)、外語8名。合計31名。	「グランドホテル」→一部の校友と二次会=旗亭「第一楼」。
青島校友会。夏季校友家族大会。二台の乗合自動車に分乗してテント張りの会場へ移動して、舟遊び・水泳・釣魚・西瓜取・宝探しなど。	52名(校友会員、家族、在学生を合わせて)。	台西鎮海岸。
青島校友会。「御大典奉祝」校友大会。会費8円。	16名。内地人のみ。	「第一楼」。
青島校友会。1928年11月現在校友会員33名。名簿掲載。	33名。	
大連校友会。大連で開催の日仏陸上競技及び全満水泳大会に出場の早大選手の歓迎会。	主賓=早大水泳選手14名。校友43名、内地人のみ。	市内「泰華楼」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1928	S3	4	398	40-42	1928. 2.7-11		元山					
1928	S3						大邱					
1928	S3	4	398	44	1928.2.18			北京				
1928	S3	9	403	8-9	1928.7.19			奉天				
1928	S3	9	403	11	1928.7.23			大連				
1928	S3	11	405	30	1928.8.7	台北						
1928	S3	11	405	30-31	1928.8.29			上海				
1928	S3	11	405	31	1928.9.6			上海			(北澤新次郎教授)	
1928	S3	12	406	9	1928.4.17			青島				
1928	S3	12	406	10-11	1928.5.31			青島				
1928	S3	12	406	11	1928.8.19			青島				
1928	S3	12	406	11-12	1928.11.18			青島				
1928	S3	12	406	12-13	1928.11			青島				
1928	S3	12	406	14	1928.9.13			大連			(早大水泳選手一行)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
上海早稲田会。有志忘年会。少し前に「支那協会」の猪俣・山田・平野・服部４氏が「支那見学」のため来訪、歓迎会席上で「是非かういふ催しの際は支那校友を多く有する我が早稲田会には是非支那校友諸兄の出席を仰いで支那研究の来る後進の為指導の衝にあって貰いたい」との希望あり。ちょうど校友・陳国権が栄転（国民政府鉄道部管理司審核科長）のため祝賀も兼ねた有志忘年会開催。席上、上海早稲田会として「中日校友大会親睦会開催の必要が提唱」されて、以後、陳国権・陳日平の奔走で気運促進へ。	14名。うち「支那側」校友２名（陳国権・陳日平）。	料亭「月廼亭」。
上海早稲田会。中日校友大親睦会。陳国権・陳日平により中日校友全部を招待。	21名。うち「中国校友」６名。	「東亜酒楼」。
上海校友会。新年会。校友・横田英治が日清汽船会社上海支店長として赴任してきた歓迎会を兼ねる。「今後毎月一回支那側と日本側と交替で例会を開催する様決議」。２月は「支那側の幹事の斡旋で二月中旬開催する」ことを決定。	21名。うち「中国校友」３名（陳国権・李祖虞・陳日平）。	「日本人倶楽部」。
「早大同学季会春例会議記録」。中文の会議録。「早大同学会簡章」（全12条の会則）掲載。「通訊」（ニューズレター）の発行などを協議。	20余人。	「西園酒家」。
大連校友会。早大水上部選手（沢柳敏之・ほか11名）が満鉄から招聘されて大連訪問中なので、新年会を兼ねて歓迎会。	24名。内地人のみ。	「青年会館」（校友・中川竹太郎の経営）。
天津早稲田会。春季大会。	17名。内地人のみ。	旗亭「敷鳥」。
長春早稲田校友会。春季大会。昨年度校友23名中、転勤６名・新校友３名のところ、今回さらに校友・日野懋（満鉄長春駅勤務）の鉄嶺転出と、校友会に鄭家屯公主嶺が加わったため合計23名。日野の送別会を兼ねる。	16名。内地人のみ。	料亭「開花」。
大連校友大会。校友会本部に推薦すべき本年度推薦校友、役員満期改選（重任）。	62名。内地人のみ。	料亭「西園亭」。
武漢早稲田会。創立。昨年秋に漢口総領事として校友・桑島主計が赴任、総領事による在漢校友招聘の晩餐会開催。これを期として武漢早稲田会の創立を決定、「武漢早稲田会会則」（全９条）制定、役員選出。事務所＝東京建物会社内（漢口日本租界中街）。	11名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。「支那料理」・老酒。
南京の「国民政府部内の純支那側のみの校友会」。早大で「支那研究の主任教授」青柳篤恒教授とその子息四郎の歓迎会。参加校友＝菅鏡（外交部国際司長）・丘莘畇（僑務委員会常務委員）・蔡培（交通部参事）・劉伯昌（律師〔弁護士〕）・丘仰飛（軍官団上校科長）・寶覚蒼（交通部参事）・向大廷（交通部科長）・雷嘯岑（内政部参事）・李培天（蒙蔵委員会委員）・徐羽波（大正15年まで修業）・沈炯（目下在学中）。欠席校友＝連聲海（鉄道部政務次長）・殷汝耕（交通部航通司長）・張軼欧（工商部商業司長）。ただし、連聲海は南京滞在中の一切の接待役を引き受け鉄道部官舎に教授親子を招待。殷汝耕・張軼欧は丘莘畇宅（南京城内鼓楼岡丘）で開催の丘莘畇・蔡培・菅鏡３氏主催の晩餐会に出席。写真（29頁）。	11名。国民政府内部の校友のみ。	南京城内府東街「青年会蜀峡川菜館」。四川料理と紹興酒。
平壌校友会。秋季総会（昨年秋以来の開催）。早大、蹴球部選手（17名。島田孝一教授の引率）の歓迎会を兼ねる。役員改選＝秋谷隆清・市橋齋（常任）・百瀬計馬・鄭奎鉉・高田三良（常任）。	12名。うち朝鮮人１名。	「赤かべ」。平壌牛肉、ビール、サイダー。
上海校友会。青柳篤恒教授とその子息四郎の歓迎会。青柳は「母校の命を奉じ現代支那政局視察研究のため南京政府を来訪」。出席者＝中村彌次郎（三井物産人参部長）・雲雀與太郎（大倉組支店長）・陳国権（滬寧鉄路上海局長）・井村薫雄（『上海毎日新聞』編輯長）・中島三郎（三井物産）・谷本多喜治（日華紡織）・佐立住江（商工会議所）・武田健次（三菱銀行）・横田英治（日清汽船会社上海支店長）など20余名の「日支両国校友参会」。	20余名。「日支両国校友参会」。	「日本人倶楽部」。四川料理。
台北校友会。秋季大会。全国図書館協議会に出席の４校友＝小林堅三（早稲田大学図書館主事）などの歓迎会を兼ねる。校友会台湾支部幹事長＝坂本信道。坪谷善四郎より「母校の近況」・「高田、坪内、市島、浮田、四元老の古稀祝賀会催しの事」・「高田総長記念事業寄付金募集の事」・「新卒業生就職難につき、援助を請ひ度き事」を述べる。	41名。うち台湾人４名（郭發・黄周・李金鐘〔台湾民報社〕、彭本發〔書店〕）。	台北市大稲埕「蓬莱閣」。台湾料理。
樺太豊原校友会。秋季例会。樺太支部長の新任＝竹本正栄（弁護士）。	15名。内地人のみ。	旗亭「みどり」。
広東留日早大同学会。発会式。広東出身の早大への留学生の会。会名・会則を議決、役員選挙。	30余名。広東出身留学生。	早稲田鶴巻町「広東楼」２階。
校友会青島支部。原田忠雄の大日本紡績大阪本社栄転・船津文雄の山西省南昌塩務稽校所への栄転の送別会。	22名。内地人のみ。	「グランドホテル」。
上海校友会。校友会理事・顕原忠隆（大日本麦酒会社上海支店長）の東京日黒本社への栄転の送別会。	16名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。長崎名物で当倶楽部自慢の「しっぽく」料理。
奉天校友会。校友50名に達し在奉天の各大学校友会で最大規模の校友会となる。	29名。うち１名非内地人（丁鑑修）。	「奉天一流の金柳亭」。
武漢早稲田会。漢口総領事の校友・桑島主計がイタリア大使館参事官に栄転のため送別会。	12名。内地人のみ。	旗亭「祝宮」。
大邱校友会。総会。早大教授林癸末夫博士の歓迎会を兼ねる。林教授は、夫人同伴で「朝鮮民報」社主催の第８回夏季大学の講師として招聘。（13日）林教授、大邱到着→（14－16日）第一小学校講堂で講演「産業合理問題」「危険思想の安全化」。校友・中野策楽（国際通運大邱支店長）・原辰助（『朝鮮民報』理事）の案内で15日銀海寺、17日慶州方面を視察→（18日）校友会朝鮮支部長・高橋源三郎（日清生命満鮮支店長）の出迎えで京城へ。	13名。うち朝鮮人１名（韓翼東）。	料亭「明石」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1929	S4	3	409	12	1928. 12. 23			上海				
1929	S4	3	409	12	1928. 12. 23〔ママ〕			上海				
1929	S4	3	409	12-13	1929. 1. 10			上海				
1929	S4	3	409	13-14	1929. 1. 13			上海				
1929	S4	3	409	16-17	1929. 1. 24			大連			(早大水泳部)	
1929	S4	6	412	23-24	1929. 5. 5			天津				
1929	S4	7	413	14	1929. 5. 13			長春				
1929	S4	7	413	15-16	1929. 5. 17			大連				
1929	S4	7	413	16-17	1929. 5. 18			武漢				
1929	S4	10	416	28-29	1929. 8. 17			南京			(青柳篤恒教授)	
1929	S4	10	416	36	1929. 9. 20		平壌				(早大蹴球部)	
1929	S4	11	417	25-26	1929. 8. 4			上海			(青柳篤恒教授)	
1929	S4	11	417	36	1929. 10. 9-10	台北						
1929	S4	12	418	11-12	1929. 10. 2				豊原			
1930	S5	3	421	29	1930. 2. 4			(広東)			広東出身留学生	
1930	S5	5	423	30	1930. 3. 4			青島				
1930	S5	5	423	30	1930. 2. 17			上海				
1930	S5	6	424	16-17	1930. 3. 23			奉天				
1930	S5	8	426	9	1930. 5. 30			武漢				
1930	S5	9	427	23	1930. 8. 13-18		大邱				(林癸末夫教授)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
長春校友会。山本教授が引率する織田主将以下の陸上競技日本代表一行の歓迎会(一行は8月にドイツで開催の国際学生陸上競技大会に出席予定)。(23日)到着。(24日)校友会の斡旋でトラックで模範競技練習→官民校友合同大歓迎会。校友会から一行に対して旅行中の必要品を贈る。		「大和ホテル」。
長春校友会。「母校満鮮視察団」一行16名の斡旋と昼夜の饗応。「満州事情に付き談笑」。		
長春校友会。校友の平尾康雄・藤原龍一の撫順・遼陽転勤の送別会。	12名。うち非内地人1名(啓彬)。	「大和ホテル」。
大連校友会。満鉄招聘で夏期大学講師として招聘された安部磯雄、早大剣道部「満鮮遠征軍」玉利主将以下25名の歓迎会。参会者は「主客合せて実に壹百余名お膝下の東京乃至は大阪ならばいざ知らず、遠く殖民地の一角に如斯く多数の同門の士一堂に会し膝を交へて歓談の出来るなどとは早稲田ならでは見られぬ情景、流石に母校の力の大いなるが思はれる。」安部「最近のアメリカに於ける母校々友会の情況より説き起して早稲田が如何に世界的なるかを語り、更に早稲田のスポーツを説いて『スポーツマンシップ』と『ステーツマンシップ』とは同じものだ。早稲田の校友先輩が社会のあらゆる方面にチャンピオンを押し立て、フエーヤープレイを演ぜられん事が望ましい」。校友側から剣道部員の母校応援歌合唱を所望し、「一行二十五人前面ステーヂに並んで大いに蛮声を張り上げ、更ににに興乗って早稲田名物の『オケサ』を踊り出し断然喝采を博す。最後に一同校歌を合唱し母校並に安部先生及び剣道部の万歳を三唱」。「大連校友会始って以来の豊かな集ひであった」。	校友(満鉄側)=39名、内地人のみ。校友(市中側及学生)=34名、内地人のみ。学生2名。来賓=安部教授・早大剣道部25名。	「満鉄社員倶楽部大食堂」。
坪谷善四郎(人事嘱託)「朝鮮中国巡廻の旅」。朝鮮と中国地方(本国)で校友卒業生の就職依頼。岡山・広島・宇部・下関・門司→朝鮮(釜山・大邱・京城)。坪谷「来年度の卒業生の就職依頼の為に」「各都市を巡り」。「今回は特に従来就職依頼の為に出たことの無かった方面のみを巡った」。「巡回したる各都市にては、到る処の校友諸君が、忙しい中にも能く世話して、私が出張の使命を遂行する為に、あらゆる便利を計って呉れられたこと、、日清生命保険会社の支社がある所の京城、広島、岡山の各市では、各支社長が、最も熱心に、母校の為に心配して下さったことは、何れも私の衷心より感謝する所である」。「今度の巡回中に、私は約百ヶ所ほど廻ったが、何所も緊縮時代とて、即時に採用を申込まる、所は稀であったがそれでも慶尚南道庁(釜山)で内地の校友一人、釜山の弁護士安武千代吉君方で朝鮮人の校友を一人採用せられた。其他の各方面にも、従来は唯だ書面だけを送って依頼したのが、今回は親しく重役諸君に面会して頼み、また既に其所に勤務して居る校友諸君にも面会して斡旋を頼んだので、将来には相当の反響はあらうと思ふ」。		
釜山校友会。京城出発まえに緊急で歓迎の小校友会。帰途に歓迎の校友大会を開催。広瀬博(朝鮮汽船会社長)・森安綱太郎など参加。水野巌(釜山商業会議所副会頭。校友水野次郎の父)の案内。2名の採用決定(内地人1名・朝鮮人1名)。	小校友会=約10名。校友大会=約20名。	
京城校友会。歓迎の校友大会。森辨治郎(朝鮮郵船会社長)。権藤四郎介(『朝鮮新聞』副社長)・高澤源三郎(日清生命保険会社支社長)など参加。	約20名。	
高田早苗総長来台。高田早苗「台湾感想」。塩澤・青柳教授、望月軍四郎(日清生命社長)、伊丹安広(日清生命社員・もと早大野球部キャプテン)が同校。目的=「同地〔台湾〕の校友諸君と相見えるが為であった」。台湾は近いが渡台すれば3週間から1個月は必要となるので「早稲田大学からは今日迄一度も台湾に人を派遣したことがなかった、然るに同地には三百余名の校友が居らゝのであるから、是非一度は総長その他に来て貰ひたいと言ふ希望が屢々あって、殊に台湾に於ける大成火災海上保険会社専務取締役であって、台湾と東京との間を頻繁に往復さゝ校友益子逞輔君が、屢々同地校友の希望を代表して促された」ため実現。「大体から言って、台湾はさう治め難いやうな所でない感じがした、第一物資が豊である、而して総督府が治めてゐる民族の大多数は、勉強で常識に富んでゐる南部の支那民族である、支那民族は朝鮮民族に比して、勉強と常識といふことに於ては、数等優ってゐるやうに考へられる、朝鮮民族は高い文化を生んだ尊重すべき民族に相違ないが、然し長い過去の専制抑圧の為に、頭が鋭敏になり過てゐる、又勤勉といふ程度に於ても支那民族以下である、然し乍ら所謂台湾人と内地人を比較して見ると内地人は二十一萬以内、本島人は四百十萬余といふのであるから、台湾政治の局に当る者が、内地人と台湾人とを頭の中で区別するやうな狭い了簡では、そこから種々の間違が起るうやうに考へられる、又内地人が台湾人を抑制しやうとか、利益を壓断しやうとか言ふやうな不了簡があらうものなら、台湾の将来は太平無事であるとは言へまいと思ふ、朝鮮が往々にして治らない一つの重大な原因は、朝鮮に於ける内地人の心得違ひといふことにありはしまいかと思ってゐるのである。無論台湾に於ける内地人にも台湾人にも漸次に地方自治権を與へることにしなければならぬ、又将来適当な時機に於ては、代議士を帝国議会に出させるやうにしなければならぬ、別に台湾議会を作る事は、私としては賛成が出来ないやうに考へられる、私は講演の時にも、結局内地人台湾人の区別撤廃といふことを述べたのであった、父は大明母は日本といふ国姓爺鄭成功の心を持つて心とせよ、台湾神社に次いでは鄭成功を祭ってある開山神社を内地人台湾人の守神とせよと説いたのであった、又台湾に於ける内地人の事業の将来を考へて見ると、之は決して楽観を許さないと思ふ、何となれば、台湾人は内地人よりも勤倹であり、内地人よりも勉強であり、而して此頃は過去に於て内地人でなければ出来なかった仕事をやるやうになって、台湾人の大工、台湾人の左官、台湾人の豆腐屋等が出来て、それらが進出して内地人のそれよりも繁昌するといふことである、それは内地人が台湾人よりも贅沢で、台湾人よりも不勉強だから必然生ずる結果であるから、如何とも致し方が無いのである、此点に付ては内地人の反省を求めるより方法はない」。 10月11日に東京駅出発、10月31日まで往復殆ど3週間。東京→門司→基隆→台北。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1930	S5	10	428	23	1930. 6.23-24			長春				
1930	S5	10	428	23	1930.7.16			長春				
1930	S5	10	428	23	1930.7.25			長春				
1930	S5	11	429	8-10	1930.8.20			大連			（安部磯雄、早大剣道部）	
1930	S5	11	429	26	1930. 9.27-10.16		（人事嘱託・坪谷善四郎の校友就職依頼行脚）				（人事嘱託・坪谷善四郎の校友就職依頼行脚）	
1930	S5	11					釜山					
1930	S5	11					京城					
1930	S5	12	430	2-8	1930. 10.11-31	（高田早苗総長来台）					（高田早苗総長来台）	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
奉天校友会。「南北支那地方視察」のため来訪の永井柳太郎政務次官の歓迎。	25名。内地人のみ。	「大和ホテル」。
高田早苗総長来台。同道者＝青柳篤恒教授・塩澤昌貞教授(第二代総長)・望月軍四郎(日清生命保険会社長)・伊丹安広(望月社長秘書。校友・旧早大野球部キャプテン)。案内は校友・益子逞輔(大成火災専務)。青柳教授「高田総長台湾遊記」。各地校友「台湾における諸校友会－高田総長一行を迎へて」。基隆・台北→高雄→台南→台中→台北。		
(11日)東京出発→(13日)神戸出帆、吉野丸で台湾へ→(16日)一行、基隆港到着。数隻のランチで校友が港外まで出迎え。スクールカラーの三角旗を振り、校歌を合唱。吉野丸が着岸すると船内に校友が詰め掛ける→基隆駅から列車で台北へ。駅では校友が校歌斉唱→台北駅到着。校友・官民名士の出迎え。写真班の撮影など、自動車で旅館・吾妻へ→台湾神社参拝→総督府を正式訪問(石塚総督上京中で不在。人見総務長官・各局長らと)→総督官邸で晩餐会。主人＝人見長官。官民・校友多数→吾妻旅館に投宿→(17日)多数の校友同行して博物館・植物園→建功神社参拝→大稲埕・艋舺の台湾人街見学→更生院(阿片中毒者収容)。杜聡明医学博士に会う→三井製茶所・龍山寺→台湾北部校友大会。高田総長はＪＦＡＫで「新旧の辨」講演放送を終えてから紋付姿で来場。総長を待つ間に映画「わせだの輝き」(早大出版部提供)の上映、早稲田関係のレコードをかけて「盛んにワセダの雰囲気を醸」す。坂本校友会幹事長挨拶、総長演説。校友の寸劇「わせだスピリット」上演。校友会写真(46頁)→(18日)中央研究所→専売局→台北帝国大学。幣原総長らと午餐会→校友会主催「早稲田大学大講演会」。医学専門学校の階段講堂にて。聴衆1000人。西岡英夫(校友会幹事)、開会宣言。坂本信道(校友会幹事長)、開会の辞で早大の歴史と教旨三大綱領を解説、青柳教授「明日の満洲」講演。塩澤教授「国際経済観と国民経済観」講演。高田総長「模範国民論」講演、最後に「内地人と本島人の融和問題」につき鄭成功を模範とすべきと演説。映画「わせだの輝き」上映。写真(36頁)→北投温泉・八勝園に投宿→(19日)淡水へドライブ→北投温泉・八勝園で片岡三郎台北州知事(校友)の招宴→鉄道ホテルで官民合同の高田総長歓迎会。130名参加。発起人代表＝幣原台北帝大総長。写真(38頁)→寝台列車で高雄へ。写真(36・37・46頁)。	(17日台湾北部校友会大会)校友150名のうち130名。うち台湾人５名(陳火塗・王経鏃・謝倉・邱炳輝・張清漢)。(19日官民合同歓迎会)130名。	(16日)晩餐会＝総督府官邸。(17日)台北校友大会＝大稲埕「蓬莱閣」。台湾料理。(18日)午餐会＝台北帝大。(19日)北投温泉「八勝園」。晩餐会＝台北「鉄道ホテル」。
(20日)高雄駅到着、校友はじめ官民数十名で歓迎→吾妻旅館で高田総長は半日休養。青柳・塩澤・望月は屏東へ(台湾製糖会社→午餐→屏東公園→「蕃屋」でパイワン族の会見)→晩、高雄市校友大会、総長以下一堂出席→吾妻旅館に投宿→(21日)高雄港湾の観察→太田吾一(高雄州知事)の招宴午餐→台南へ。	(高雄市校友大会)30余名。	(20日)校友大会＝「花壇」。(21日)午餐＝「寿山館」。寿山の山上にあり、1923年皇太子来台時の宿泊所。
(21日)午後、台南駅到着。官民・校友(20名)の歓迎→台南神社参拝→開山神社参拝→大講演会。台南公開堂にて。南部台湾校友会と共栄会の共同開催。聴衆1500名。青柳教授「明日の満洲」講演。塩澤教授「産業の合理化」講演。高田総長「模範国民論」講演→南部台湾校友会。台南校友大会→旅館東館に投宿→(22日)台南見物デー。塩水養殖試験場→安平港→赤崁城址→孔子廟・開帝廟・五妃廟→明治公学校→名尾良辰台南州知事の午餐招宴。知事不在のため内海内務部長が主人役→台中へ。	(台南校友大会)30名。うち台湾人４名(劉明哲・林章達・徐先燾・徐光燿)。	(21日)台南校友大会＝「大書院」(公会堂裏手)。日本間。(22日)午餐会＝台南知事官邸。「支那料理」。
(23日)台南から台中へ。塩澤・望月は嘉義で農事試験場視察のため下車、のち台中の旅館・春日館にて合流→台中神社参拝(台中公園内)→台湾中部校友大会。映画「わせだの輝き」上映。写真(48頁)。青柳教授の み中座して台中州教育課主催の講演会で「甦生途上の支那」講演。市民会館にて→青柳、再度校友会大会に合流→(24日)台中中学校→水越幸一台中州知事の午餐招宴→台北へ。	(台中校友会)約26名。うち台湾人８名(黄呈聡・林仲輝・葉啓仁・呉衞秋・呂世明・呂磐石・林呈旺・陳煥章)。	(23日)校友大会＝「香園閣」(台中公園内)。(24日)午餐会＝「冨貴亭」。
(24日)稲和会の晩餐会。美妓による坪内逍遥の「新曲浦島」・「台湾民謡」の歌舞、高田総長の小謡、揮毫→(25日)草山温泉。休養デー。高田総長、終日揮毫に励む→(26日)辜顕栄の希望で、その経営・普請中の孔子廟を参観→台湾美術展覧会→趣味の雅宴。校友・益子逞輔の招宴。官民の内台文人墨客が参加。林本源家は門外不出の貴重な書画を総長のために披露→(27日)総督府訪問、離台の挨拶→校友と小宴。霧社事件の発生を知る→台北駅出発。官民校友数百名、見送り。校友数十名は基隆まで同校→基隆着。蓬莱丸の搭乗。「岸壁には堵をなせる校友、紫紺地に白くＷを染め出せる三角旗を打ち振りゝゝ、声を限り校歌を高唱」→基隆港出帆。青柳の手記＝「数十名の校友。二艘のランチに分乗して、旗を振り、校歌を唱ひ、波を蹴ゝて、何処までもと追ふて来るではないか。次第に彼等の旗は小さく見ゆる、彼等の声は遠く聞ゆる」「われらが総長は、ふと僕を顧みて、『涙ぐましいほどの光景だ』との、たゞ一言を漏らされた。僕の、老総長の側に侍すること、今に至る茲に三十有余年、かゝる言葉を聞いたことは、たゞの一度もない！」→蓬莱丸船上で、原住民青年２名と会見(天皇の全国青年団親閲式に参加のため、台湾青年団代表者10名のなかの２名)。	(24日)稲和会晩餐＝22名。内地人のみ。	(24日)晩餐会＝料亭「梅本」。(26日)雅会＝「江山楼」。(27日)小宴＝旅館。
青柳先生歓迎会。在校時に青柳教授の知遇を受けた「早稲田清韓協会」と、「早稲田日清協会」・「早稲田支那協会」関係者で台北在住校友の主催。「明治三十七年清韓協会設立当時の、懐旧談」など。出席者＝常見辨次郎・花香伯貢・大木康孝・脇秀男・小島武嗣・伊賀崎岱助・古川二郎。	７名。内地人のみ。	台北市西門町の旗亭「丸新」。
奉天校友会。大会。会長＝石田武彦。	22名。内地人のみ。撫順校友会３名・本渓湖校友３名の出席含む。	奉天十軒房「金龍亭」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1930	S5	12	430	28	1930. 11. 9			奉天				（永井柳太郎政務次官）
1930	S5	12	430	35-51	1930. 10. 11-31	（高田早苗総長来台）					（高田早苗総長来台）	
1930	S5					基隆・台北						
1930	S5					高雄・屏東						
1930	S5					台南						
1930	S5					台中						
1930	S5					台北・基隆						
1931	S6	1	431	10	1930. 10. 26	台北					（青柳篤恒教授）	
1931	S6	1	431	13-14	1930. 11. 27			奉天				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
長春校友会。満鉄の招聘で早大剣道選手25名が齋藤範士の引率で長春訪問。(25日)一行、長春到着→(26日)午前、市中見学。「支那の百貨店」へ買い物。学生が大学でならった「支那語」・ロシア語が通じず→午後、オール長春との試合、早大の大勝→歓迎会。武徳会長春支部・満鉄剣道部・早大校友会の合同で開催。		「支那一流」の「賓宴楼」。
長春校友会。満鉄夏季講師として招聘された安部磯雄社民党首の歓迎会。講演＝８月31日・９月１日。歓迎会＝９月１日。		「大和ホテル」。
長春校友会。忘年会。校友・国重久の大連満鉄本社転勤の送別会を兼ねる。1930年度末校友会員＝19名(うち非内地人１名＝啓彬)。	19名。	「サロン、モンナミ」。
台湾北部校友会。早大野球部(高杉先生・矢田マネージャー・森主将以下16名)が『台湾日日新報』社主催で来台。台北を皮切りに南北で転戦、７勝１敗。「競技の上にも見学の上にも紳士的なスポーツマンシップを発揮して島内人士をして讃嘆せしめ台湾野球界のために益する処甚大なりしのみならず亦以って吾が母校の名誉のためにどれだけよき印象を植ゑつけてくれたか知れぬことを感謝」。(１月４日)校友会を兼ねて招待晩餐会。主賓＝高杉部長以下選手一行。	(１月４日歓迎晩餐会)約70余名。	「台北鉄道ホテル」の大食堂。
台湾北部校友会の「大、昭会」(大正・昭和の卒業者)の新年懇親会。鈴木義弘(日清生命台北支店勤務)の高雄栄転・庄司武志(日清生命台北支社勤務)の外交員への転職の送別会を兼ねる。	32名。内地人のみ。	「台北一のそばや(早稲田の三朝庵を思ひ浮び)」で「よせ鍋」。
「野球部台湾転戦記」(台湾支部報)。台北→高雄→屏東→高雄→台南→嘉義→台北。試合結果は早26－CB５(１月１日)、早４－鉄８(同２日)、早12－CB11(同３日)、早７－鉄６(同４日)早５－オール高雄３(同５日)、早27－オール屏東２(同７日)、早26－オール嘉義１(同８日)、早９－鉄３(同11日)で、全８戦、早大が７勝１敗〔早＝早大。CB＝台湾の社会人野球団の団名。総督府逓信局の球団。鉄＝鉄団(くろがねだん)同じく鉄道局の団名〕。		
(12月30日)野球部、基隆到着。『台湾日日新報』社大沢副主筆・関係社員、坂本台湾北部校友会長以下多数の校友が歓迎。基隆駅で基隆在住校友の「都の西北」合唱の見送り→台北駅着。校友・『台日』社員・野球関係者・ファンなどが出迎え。台北音楽団が「都の西北」を演奏するなかを一行が下車、校友数十名はエールを高唱し「早稲田気分既に汪溢」→台湾神社参拝→総督官邸で石塚総督・人見長官を訪問→『台日』社に河村徹社長を訪問→旅館・吾妻→ユニホームを着て圓山球場で練習。ファン多数→『台日』主催の歓迎会→大稲埕の台湾人街を散策して旅館へ→(12月31日)午前、知己・校友来訪→午後、圓山球場で練習。ファン多く、鉄道部では臨時列車を出す盛況→(１月１日)試合第一戦。早大26－CB団５。ファン3000名→(２日)試合第二戦。早大４－鉄団８→(3日)試合第三戦。早大12－CB団11。→(４日)試合第四戦。早大７－鉄団６。２日の雪辱戦に「此の日圓山球場の観衆は本島球界史を飾る画期的のものであった」→校友歓迎会→夜行列車で高雄へ。		(12月30日)「江山楼」。台湾料理。(１月４日)「鉄道ホテル」。
(１月５日)一行、旅館・吾妻に到着→西子湾球場で試合第五戦。早大５－オール高雄３→ユニホームのまま自動車で寿山登山→高雄体育協会支部・早大校友会主催の歓迎慰労会→(６日)屏東へ。		高雄駅前「滋養軒」。
(１月６日)一行、屏東に到着。官民有志の歓迎。自動車で台湾製糖へ、製糖状況の説明を受けたのち「蕃屋」を視察→試合第六戦。早大27－オール屏東２→体育協会屏東支部・校友会主催の歓迎慰労の晩餐会→高雄へ、旅館・吾妻に投宿。		屏東「開花楼」。
(１月６日)晩、屏東から戻り、旅館・吾妻に投宿→(7日)列車で台南へ。		
(１月７日)一行、台南到着。休養視察美。早大校友会員・体育協会支部員・「台日」支局委員・ファンの出迎え→自動車で台南州庁訪問→台南神社、同神社内御遺跡所〔北白川宮を祭る〕を参拝、開山神社〔鄭成功を祭る〕、孔子廟、赤嵌城を巡視、台南公園→校友の招待による午餐会→安平でゼーランディア城蹟を見学、商品陳列館で土産物を見る→列車で嘉義へ。	(午餐会)校友その他30名。	(午餐会)「愛生堂喫茶部」。
(１月７日)一行、嘉義到着、各地で歓迎を受けたのち旅館・青柳に投宿→(８日)試合第七戦。早大26－オール嘉義１→嘉義温泉で体育協会支部・校友その他有志の歓迎慰労会→(９日)希望者のみ植物園など視察→列車で台北へ。		嘉義温泉。「七面鳥のスキ焼」。
(１月９日)一行、台北到着。自動車で専売局植物園内の商品陳列館、台北帝大、龍山寺など市内視察→旅館・吾妻に投宿→(10日)試合第八戦。早大９－鉄団３。全試合終了。→『台日』社主催の慰労送別会。記念撮影、別室における台湾の活動写真見物など→(11日)見学デー。「烏来蕃社」見学〔ウーライの原住民居住地区の見学〕。「蕃屋、籾つき、蕃童教育所」などを見学→公共浴場で午餐→片山三郎台北州知事(校友)の晩餐会→(12日)体育協会主催の午餐会→基隆へ。「基隆迄は校友台日社員多数見送り午後四時一行を乗せた吉野丸は都の西北の校歌を高らかに歌ひつゝ雨の基隆を静に劇的シーンを以て出て行ったのであった」。		(10日)「鉄道ホテル」。(11日)「草山温泉衆楽園」。(12日)「鉄道ホテル」。
上海早稲田会。新年小集。昨年秋開催の上海三田稲門軟球野球の収支決算報告などあり。	12名。うち非内地人１名(李袒虚)。	旗亭「三福」。
長春校友会。猪崎勇(長春地方事務所勤務)の大石橋地方係長への栄転・佐藤雄三(長春領事館在勤)のアモイへの栄転の送別会。	８名。内地人のみ。	料亭「寿し竹」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1931	S6	2	432	17-18	1930. 8. 25			長春			(早大剣道部)	
1931	S6	2	432	18	1930. 8. 30-9. 1			長春				
1931	S6	2	432	18	1930. 12. 14			長春				
1931	S6	3	433	11-12	1930. 12. 30-1931. 1. 12	台北					(早大野球部)	
1931	S6	3	433	12-13	1930. 1. 21	台北						
1931	S6	3	433	35-37	1930. 12. 30-1931. 1. 12	(早大野球部)					(早大野球部)	
1931	S6					台北						
1931	S6					高雄						
1931	S6					屏東						
1931	S6					高雄						
1931	S6					台南						
1931	S6					嘉義						
1931	S6					台北・基隆						
1931	S6	4	434	47	1931. 1. 26			上海				
1931	S6	4	434	54	1931. 3. 14			長春				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
上海早稲田会。加藤照吉(郵船会社船客主任)・菅原芙次郎(半田棉行支配人)の送別会。昨年秋に上海で開催した三田稲門戦の懐旧談や、上海民団に当選した佐藤今朝見・谷本多喜治の選挙談、「支那内政問題」など論談。	19名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
京城校友会。春期大会並観桜会。校友数300有余名に達し、会員名簿作成や、日清生命満鮮支社楼上に校友クラブを開設、これを好機に開催。幹事＝古城亀之助(京城商業会議所副会頭)。	64名。うち朝鮮人校友５名(張容泰・林大阡・金英鎮・金圭冕・千柱東)。	「清雪洞白雲荘」(山峡の旗亭)。模擬店や演舞場の設備もあり。
「稲昭会」。京城校友のうち、昭和期卒業の「若い者の世界」「若人」の会。住永惇二(第一銀行)・齋藤(「朝鮮日日」)・黒田(日清生命)の援助など。事務所＝京城旭町一丁目百三十番地・寺田宅。	12名。内地人のみ。	料亭「加茂川小荘」。
台湾北部校友会。春の校友会。片山三郎台北州知事の退職・「内地」帰還の送別会を兼ねる(1924年渡台から足掛け８年在台)。写真(15頁)。	61名。うち台湾人１名(張清漢)。	「鉄道ホテル」。
上海早稲田会。早大教授・五来欣造が渡欧の途中に寄航したので歓迎会開催。「政治談や支那時局談、支那婦人思想論等に種々意見を交換」。	９名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。「支那料理」。
全羅南道校友有志懇親会。全羅南道内居住の校友50余名あるも会合の機会がなかったが、全羅南道知事・馬野精一(校友)の首唱で校友有志懇親会開催。	20名。うち朝鮮人２名(千珍喆・尹大鉉)。	光州黄金町の旗亭「北村楼」。
台湾北部校友会。家族懇親会。校友各自が家族同伴で参加。余興＝総督府より特別貸与された映画「台湾の旅」上映、柴山武矩の漫談、西岡英夫の童謡、若い校友のナンセンス幼稚園劇、牧田平太郎が撮影した今春の早大野球渡台湾遠征の16ミリ映写など。16ミリ映写時「時宛も早慶戦の優勝を連想して校友諸兄は自然と応援歌を合唱し、歓喜を上げて幕を閉じ、速見〔国彦〕君のリーダーで一同起立して校歌を合唱し、坂本〔信道〕幹事長の音頭で校友会万歳を三唱して、大盛会裡に終った」。写真(20頁)。	40校友家族、合計150余名。	新設の「教育会館」。
上海校友会。早大柔道選手18名・德三宝先生一行が南京より来訪。(５日)上海日本北部小学校講堂で、上海校友会・尚武会・有段者会の主催で柔道大会を開催。各国領事・工部局幹部・「支那政府」要人・邦人有力者を招待→歓迎会。参加者＝(来賓)德三宝先生・柔道選手18名、(主催者側)上海尚武会幹部10数名、(上海有段者会)10数名、上海早大校友。	校友16名。うち非内地人１名(陳国権)。	「日本人倶楽部」。「支那料理」・老酒。
群山早稲田会設立準備会。在群山の校友は職業・年齢を異にし面識ないため相互意思疎通がなかったが、３シーズンぶりの早慶戦優勝をきっかけに設立の議おこる。事務所＝香原二雄宅(群山府海山町)。	９名。うち朝鮮人１名(徐鳴全)。	料亭「花月」。
台湾北部校友会。家族懇親会。基隆で海水浴、釣り、遠泳などののち団体競技の紅白戦。写真(22頁)。	33校友、家族42名。	ティーパーティー。新鰹の刺身など。
京城校友会。有志懇談会。校友会幹事・中島司が「鮮支人衝突事件の真相調査其他の公務を帯びて久々に来城」したのを歓迎。中島「母校の近況、殊に総長問題の経過」など。	12名。内地人のみ。	漢江河畔「龍鳳亭」。漢江を俯瞰でき高燥景勝の一角にある大広間で浴後に浴衣で。
樺太支部豊原校友会。校友・代議士の坂東幸太郎の歓迎会。	17名。内地人のみ。	「豊原カフェープリンス」階上の大ホール。
早稲田大学京南鉄道校友会(京釜線天安)。早大教授・西條八十の歓迎会。天安在住の校友・井上賢太郎が経営する「温陽温泉」に西條を招聘。	８名。内地人のみ。	「神井館堂」。
高雄校友会。明治・大正・昭和卒業年順に着席。幹事吉田卒士民、会長小平又二。李瑞雲(萬丹庄)より「盛会を祈る」として寄付金20円。	22名。うち台湾人１名(潘家和)。	西仔湾海岸の「濱之家」(右手に絶景の寿山、左手に高雄港口の灯台)。
日清生命保険株式会社の新年広告。東アジア地域の支社長・支部長名＝黒田為雄(満鮮支社長)・百束於菟雄(台北支社長)・飯塚鉱作(高雄支部長)。		
台湾中部校友会。原重義の離台送別会。	16名。うち台湾人１名(呂世明)。	「弘園閣」。
青島校友会。	25名。	
衆議院議員に当選した校友は65名。うち、坂東幸太郎(北海道二区)・永井柳太郎(石川県１区)などの植民地問題関係者や、牧山耕造(長崎県２区)などの朝鮮関係者も含む。		
台湾北部校友会。春季大会。昨春『台日』が招聘した早大野球チーム遠征のフィルム上映。「早稲田大学台湾北部校友会規約」(全10条)を議定。幹事25名を改選(うち台湾人１名)＝伊賀崎基助・花香伯貢・速水久彦・西岡英夫・張清漢・岡部要之助・脇秀男・唐沢信夫・梶原稔・田上志平・常見辨次郎・松倉照三郎・松本源吉・古川二郎・後藤曦二・五野毅亀・安谷屋繁・坂本信道・桜庭順三・佐藤重成・宮本繁造・宮地蒼生夫・重松頼広・百束於菟雄・鈴木新吾。幹事長交替＝７年間幹事長だった坂本信道が辞意、常見辨次郎が就任。写真(40頁)。推薦校友２名＝柯文寶・松村靖。	65名。うち台湾人２名(王経綸・柯文寶)。	台北大稲埕「江山楼」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1931	S6	5	435	27	1931. 3. 16			上海				
1931	S6	6	436	9-10	1931. 4. 24		京城					
1931	S6	6	436	13-14	1931. 5. 3		京城					
1931	S6	6	436	15, 18	1931. 5. 5	台北						
1931	S6	6	436	16-17	1931. 5. 5.			上海			(五来欣造教授)	
1931	S6	7	437	49-50	1931. 5. 16		全羅南道					
1931	S6	8	438	18-20	1931. 6. 27	台北						
1931	S6	8	438	23	1931. 7. 3-5			上海			(早大柔道選手一行)	
1931	S6	9	439	20-21	1931. 7. 18		群山					
1931	S6	9	439	22, 24-25	1931. 8. 2	台北						
1931	S6	9	439	25-26	1931. 8. 6		京城					
1931	S6	9	439	26	1931. 8. 7				豊原			
1931	S6	10	440	24-25	1931. 9. 4		天安					
1931	S6	10	440	25-26	1931. 9. 5	高雄						
1932	S7	1	443	広告欄		台北・高雄	「満鮮」	「満鮮」			日清生命保険	
1932	S7	2	444	14	1931. 12. 5	台湾中部						
1932	S7	2	444	18-19	1931. 12. 25			青島				
1932	S7	3	445	52-53	1932. 2. 20						衆議院議員当選校友一覧	
1932	S7	4	446	39-40	1932. 2. 20	台北						

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
京城校友会。春季大会。幹事改選。衆議院議員選挙で「内鮮融和」・「満蒙問題の根本解決」を二大スローガンとして立候補・当選した朝鮮出身代議士・朴春琴、および「満洲国の建設をまのあたりにみて」、「今日徒らに内鮮各校友会を別にするが如きは我大早稲田のため甚だ遺憾なること」を黒田為雄常任幹事などが主張、その結果、「朝鮮側から初めて数名の新幹事が選出せられ茲に目出度内鮮合流し渾然たる大京城校友会の進展を約束」。新幹事15名(うち朝鮮人5名)＝長谷井市松・土橋士一・千葉隆・中原元次・中島健次・村田武夫・黒田為雄(常任幹事)・丸中徳三・藤本寛寧・古城亀之助・李内燾・金圭冕・金逵浩・崔斗善・鮮干金。蓄音機で応援歌演奏。	37名。うち朝鮮人5名(張容泰・金圭冕・金逵浩・金英鎭・鮮干金)。	南大門通「蓬莱閣」。
上海早稲田会。春季大会。本年第1回目の会合。4月に帰国したものの「上海事変」のため送別会をしなかった前幹事・中村弥次郎への記念品贈呈を決議。	22名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。「支那料理」の卓をかこむ。
「満洲国」の校友紹介「面影」欄。「満洲国」交通部総長・丁鑑修。青柳教授の談話による丁鑑修の紹介。丁鑑修＝明治43年早大専門部政治経済科卒業、奉天を中心に主に経済界に活動(中日合弁張嶺鉄鉱公司総弁、銀行の公理など)。「南満洲校友会支部」の幹事をずっと務める・「毎年少なくも一回多きは二回三回と、彼地に視察研究に行く母校の学生がある度毎に、その日本人たると支那人たると別らなく、最も懇切に世話をし、愛撫して呉れたのは同君であった。苟くも満洲に遊ぶ母校の学生にして、丁鑑修君の温容を知らざる者はない」。		
「満洲国」の校友紹介「面影」欄。「満洲国」国務総理秘書官長・鄭垂。青柳教授による談話で鄭垂の紹介。鄭垂＝明治43年早大大学部政治経済学科卒。テニス・ゴルフをするスポーツマンであるとともに、ボートのチャンピオン。父親が「満洲国」国務総理の鄭孝胥で、その秘書官長になるとともに、宣統帝溥儀の運動相手としてテニス・ゴルフをなす。校友・大隈会館の深沢政介とボートを通じた友。深沢の談話＝「政治科に支那人のボートの選手」がいるときき、向島の合宿で会うと「少しも支那人らしくない」容貌で、「小倉袴をはいて、腰に手拭をぶら下げ、朴歯の下駄を履き、言葉も流暢な日本語で、これが支那人とは何うしても受取れなかった」。		
「満洲国」の校友紹介「面影」欄。「満洲国」執政府禁衛軍第一混成団長兼侍従武官・憲原。青柳教授と校友・川口準太郎の談話による憲原の紹介。憲原＝前清朝の肅親王の第11王子。日本留学10数年で陸軍士官学校と早大に学ぶ。「川島芳子」の7つ年上の兄。在学時には川口の家には兄妹ともに訪れ「満蒙の独立」などについても語り合う。早大では東洋哲学を研究するも、1931年7月に暑中休暇で「満洲」に帰省したあと退学。		
奉天校友会。春季大会。青柳篤恒教授の歓迎会を本渓湖・撫順・鉄嶺在住の校友と合同で開催。青柳から「母校の近況並に来満の使命に関する」講話。	奉天＝14名、本渓湖＝3名、撫順＝3名、鉄嶺＝2名。内地人のみ。	十間房「金龍亭」。
台湾北部校友。家族懇親会。ピクターホンで早大エール演奏。模擬店、ピクニック、運動会など。写真(16頁)。		台北市近郊新店ラインに沿った水源地の原始林の緑の森。
高雄校友会。「満蒙問題」・「母校の体育部のスポーツ浄化問題」などで大気焔。写真(17頁)。	21名。うち台湾人2名(潘家和・五連生)。	高雄駅前「滋養軒」。
台湾北部校友会。五・一五事件により齋藤実挙国一致内閣成立により永井柳太郎が拓相就任したため、遥祝式。「永井氏年来の蓋蓄たる植民政策に待望する所亦多大」であり、新拓相への後援会として開催。常見辨次郎幹事長「先輩の栄達を祝福する事正に父兄の其を祝するに似たものがある」。永井へ祝賀打電「閣下今回の御入閣は、母校の名誉と本島統治の為我等在島校友として、二重の欣び」。	41名。うち台湾人6名(彭木發・張清漢・柯文寶・楊景山・黄周・黄呈聡)。	台北市「鉄道ホテル」大広間宴会場。
京南鉄道早稲田会。春季大会。樹下義雄(群山桟橋勤務)の退職・帰郷の送別会を兼ねる。	12名。内地人のみ。	料亭「三福」。
大連市嶺前稲門会。南部大連(旧・嶺前屯)在住の校友会20名ほどで会合。大連市全校友は200名を超え春秋二期会合を開くも、物足りないため、1916年頃から開催。	20名。内地人のみ。	校友・松山忠二郎氏邸。
大連市嶺前稲門会。家族野遊会。		老虎灘会石漕屯海浜。
長春校友会。青柳篤恒教授が「満洲国の教育視察と在満軍人の慰問」で「満洲国」首都の「新京」(旧長春)を訪問、歓迎会を「日満入り乱れて」開催。丁鑑修(「満洲国」交通総長)・憲原(同執政府禁衛軍第一混成団長兼侍従武官)・鄭垂(「満洲国」国務総理秘書官長)、賀嗣章なども参加、「会する者総て在学中先生に愛育されたもの」。	12名。うち「満洲国」側4名(丁鑑修・憲原・鄭垂・賀嗣章)。	「当地一流の支那料理亭賓宴楼」。
早大・早大校友会連合で開催。永井柳太郎拓相・斎藤隆夫内務政務次官・堤康次拓務政務次官・沢本興一外務参与官・松村謙三農林参与官・木村小左衛門拓務参与官、堀切善次郎法制局長官、就任。出席通知180名に対し230名参加。	233名。	「上野精養軒」。
拓相就任の永井につき、高田総長などの寄稿。		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1932	S7	4	446	41-42	1932. 2. 27		京城					
1932	S7	6	以下、号数不明	26	1932. 4. 28			上海				
1932	S7	6		37				「満洲国」				
1932	S7	6		38				「満洲国」				
1932	S7	6		38-39				「満洲国」				
1932	S7	7		17-18	1932. 4. 6			奉天			(青柳篤恒教授)	
1932	S7	7		16・18	1932. 5. 8	台北						
1932	S7	7		17-19	1932. 5. 21	高雄						
1932	S7	7		19-20	1932. 6. 1	台北						
1932	S7	7		20-21	1932. 5. 4		京南鉄道(群山)					
1932	S7	7		34	1932. 6. 11			大連				
1932	S7	7		34-35	1932. 6. 19			大連				
1932	S7	7		38	1932. 4. 8			長春(新京)			(青柳篤恒教授)	
1932	S7	7		39-48	1932. 6. 28						拓相・政務官・法制局長官就任祝賀会	
1932	S7	7		49-62	1932. 6. 28						「永井柳太郎君を語る」	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
大連校友会。春季大会。青柳篤恒教授の来訪の歓迎会を兼ねる。役員改選、新支部長＝篠崎嘉郎(商工会議所書記長)、幹事長＝伊藤成章(満鉄鉄道部)。青柳教授談＝母校の現在・「満洲国」訪問の趣旨。「当日は満洲国成立後第一回の校友会でしかも支那に関する御造詣深い青柳先生を御迎へしたのであるから、自然話題は新国家の将来日満関係の前途等」。校友会事務所変更＝(新)大連市西広場・日清生命保険会社大連支店内→(旧)大連市大黒町十四番地・宮谷公雄方。	41名。内地人のみ。	「西園亭」。
新京校友会。「満洲国建国」第1回大会。長春校友会時の会員は10数名のみだったが、「建国なり新満洲国の官吏並に新京を目指して来」たものなどで40数名まで急増。丁鑑修・林棨(「満洲国」の第1回日本派遣の正副使節)、「満洲国」国務総理秘書官長・鄭垂、侍従武官庁・憲原など。	29名。うち「満洲国」側6名(丁鑑修・憲原・鄭垂・賀嗣章・林棨・徐静知)。	料亭「八千代館」。
「丁、鄭両君の母校訪問」。「満洲国」特使として日本訪問中の丁鑑修・副使の林棨、校友として母校早大を来訪。到着時、正門前に学生が歓迎→恩賜館に入る。取り巻く学生に対してベランダから丁鑑修の呼びかけ「今日の満洲国には人材が極めて少ない。諸君は学校に於て大いに勉強して、満洲国に来て、建学の精神を奉じて吾々を援けてください」。数千の学生が校歌を合唱・「満洲国万歳」三唱→演劇博物館・図書館・大隈講堂を見物→大隈会館で田中総長らと午餐。書斎床の間に「満洲国」執政溥儀の幅→田中穂積総長挨拶→丁鑑修挨拶「満洲国が出来た原因」は「満洲人が満洲を治める、即ち民族自決に外ならないのであります。それに付て日本の御世話になったといふ訳であります」→林棨「満洲国に於ける司法権の独立に渾身の努力を致したい」→大隈侯臨終の間で青柳教授と談。青柳「大隈老侯は明治維新の元勲として維新の大業に参画された。君は満洲国建国の大業に参画されてゐる。その境遇は全く相似たものがある」と述べると、「丁君は教授の手を握って感激の涙を落し、青柳教授も釣込まれて泣いて了ふといふ劇的なシーンを演出」→大隈庭園で記念撮影→警視総監の歓迎会へ。丁鑑修は母校基金として500円寄付。写真(39・40・41頁)。		早大恩賜館・大隈会館など。
「学生機の満洲訪問」。学生航空連盟の早大機・明大機が「満洲国」訪問・「在満皇軍慰問」のため、7月2日立川飛行場を出発。「都の西北」合唱裡に離陸。7月14日新京着、8月2日に代々木練兵上に着陸、歓迎会。田中穂積総長より「満洲国」執政溥儀にあててメッセージ。		
南満洲本渓湖校友会。	7名。内地人のみ。	本渓湖の料亭「玉屋」。
樺太豊原校友会。昨年会則を制定。現会員34名。氏名・職業記載あり。樺太庁官吏・王子工場勤務など。	34名。内地人のみ。	
「満洲国」の校友紹介「面影」欄。「満洲国」最高法院長・林棨。中華民国福州出身。早大と福州との縁故強し＝陳寶琛が福建に師範学校・高等中学学堂などを設立した際の日本からの招聘教員は全部早大出身(総教習＝桑田豊蔵、矢沢千太郎など)、明治38年に高田早苗・青柳篤恒教授が「支那の南北を抜渉」した際にも福州の陳寶琛を訪問、そのため福州の日本留学青年は早大へ入学。林棨＝明治37年早大邦語政治科卒。卒業後、中華民国の司法界へ＝大理院推事、北京の江蘇湖北高等審判庁長を13年強。1926年天津で弁護士開業、宣統帝の皇室法律顧問。「満洲国」建国後に最高法院長に就任。早大訪問時の談＝従来「支那」では司法権の独立は「軍閥によって阻害」され実行困難だったが、「満洲国に於ては、是非此司法権の独立の実を挙げたい」。		
元山校友会。夏季大会。林癸未夫教授の歓迎会を兼ねる。	16名。内地人のみ。	「丸芳本店」。
釜山校友会。早大野球団の新進第二軍の「満鮮」各地遠征。急遽、釜山鉄道倶楽部(野球チーム)との試合を要請。京城校友会と早大母校を仲介した折衝で文部省の許可を得て試合実現。赤松教授・野球団一行、釜山到着→午餐会。主客40名→釜山府公設球場で試合。早大10－釜山鉄道倶楽部0。渡辺知事なども観戦→釜山埠頭から門司へ。「埠頭には送る校友送らるゝ一行船のドラが鳴ると頓せずして校歌が出た熱情溢るゝ、両者の合唱に千余の乗客を恍惚たらしめた情景は釜山開港以来未曾有の事である」。		
「満洲国」文教部日本教育視察団、早大来校。図書館・大隈講堂・演劇博物館など参観後、大隈会館にて茶菓を呈す。来校者9名＝許汝棻(文教部次長)・上村哲彌(文教部学務司長)・許樹百(文教部次長秘書)・福井優(文教部編審官)・高鴻威(奉天教育庁学務科長)・洪福麟(吉林教育庁教育科長)・鄒海瀛(吉林省立第一師範学校長)・林鵬(東省特別区医専校長)・陳俶達(国務院総務庁秘書処)。写真(9頁)。		
「満洲国」特派赴日考察司法事宜一行、早大来校。図書館・大隈講堂・演劇博物館など参観後、大隈会館にて茶菓を呈す。来校者5名＝馮涵清(「満洲国」司法総長)・木村達雄(司法部秘書)・王允卿(司法部法令審議委員会副委員長)・程義明(司法部総務司事務官)・姜金書(司法部法務司代理民事第一科長)。写真(9頁)。		
高雄校友会。早稲田高等学院剣道部一行(齊村師範・学生11名)の歓迎会。席上、高雄校友会の親睦目的で野球倶楽部の組織を提案、賛成を得る。	19名。内地人のみ。	栄町「マルナカ」。
南洋稲門会。パラオで発会式。主に南洋庁勤務者。	6名。内地人のみ。	パラオ島コロール街の旗亭「徳乃家」。
台湾北部校友会。母校創立五十周年祝賀会。秋季大会及び家族懇親会を兼ねる。余興＝西岡英夫の童話、琵琶、寸劇、舞踏、手品、「土人ダンス」など。運動会。最後に校歌合唱、母校の万歳三唱。	170名(家族含む)。	北投温泉「無名庵」(後藤新平の旧別邸。純日本造り)。模擬店＝おでん、さつま汁、うどんそば、汁粉、台湾料理、ビール、酒、紅茶、菓子。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1932	S7	8		28-29	1932. 4. 16			大連			(青柳篤恒教授)	
1932	S7	8		29	1932. 5. 7			新京(長春)				
1932	S7	8		39-41	1932. 7. 4			(「満洲国」)			「満洲国」特使丁鑑修・副使林棨、早大訪問。田中穂積総長・青柳教授など。	
1932	S7	8		51	1932. 7. 9-8. 2			「満洲国」			(学生航空連盟)	
1932	S7	9		12	1932. 7. 21			南満洲本渓湖				
1932	S7	9		19	1932				豊原			
1932	S7	9		31	1932			「満洲国」				
1932	S7	10		24-25	1932. 8. 7		元山				(林癸未夫教授)	
1932	S7	10		24-25	1932. 8. 10		釜山				(早大野球団二軍)	
1932	S7	12		7,9	1932. 10. 25			(「満洲国」)			「満洲国」文教部次長来校	
1932	S7	12		7,9	1932. 12. 1			(「満洲国」)			「満洲国」司法総長来校	
1932	S7	12		26-27	1932. 9. 5	高雄						
1932	S7	12		27-28	1932. 9. 8					パラオ		
1932	S7	12		41-43	1932. 10. 16	台北						

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾北部校友会。校友・松ケ崎明長(雅号「亜旗」)の台展特選入選祝賀会。松ケ崎＝「黄衣の少女」洋画特選第一席、台湾滞在中。	18名。内地人のみ。	台北市表町「ボタン」。
朝鮮総督府逓信局早稲田校友会。第２回会合。現在会員数12名。会則あり(全11条。1932年12月９日施行)。	９名。うち１名朝鮮人(呉龍鐸)。	京城の料亭「幾羅具」。
「満洲国代表鮑観澄氏来校」。来校者＝鮑観澄(「満洲国」代表)、孫錯(秘書官)、馬佩衡・福島潔(事務官)、胡小石(秘書)。恩賜館で青柳教授・大島副幹事が出迎え→貴賓室で田中穂積総長、金子・塩澤・平澤各理事、東亜協会関係者、校賓望月軍四郎(日清生命保険)と交歓→演劇博物館→理工学部で山本理工学部長の説明で目新しい設備を参観→図書館→大隈会館で青柳教授の統率する東亜協会の学生の一部30名が出迎え、学生が「満洲語」で歓迎の辞、鮑観澄も「満洲語」で謂話→食堂で田中総長、鮑観澄の辞。写真(９頁)。		早大恩賜館・大隈会館など。
青島校友会。忘年会。現在会員数38名。常任幹事＝中川勝夫。	24名。内地人のみ。	料亭「第一楼」。
満洲本渓湖校友会。新年会。	６名。内地人のみ。	「寶山亭」。
台中校友会。軟式野球チーム「ＷＯＢ」を組織、二中グランドにて二中職員団と対戦。Ｗ旗を新調して家族総出で応援。ＷＯＢ16－二中職員団４。		台中二中グランド。
台中校友会。軟式野球チーム「ＷＯＢ」、幸町球場で天狗団と対戦。ＷＯＢ10－天狗団４。		幸町球場。
安東校友会。創立総会。安義校友会を解消。会則を決定。常任幹事＝大江新。	12名。内地人のみ。	「安東倶楽部」。「すきやき」で祝賀。
平壌校友会。新年会。従来は早大大学部・専門部卒業生で組織してきたが、工手学校卒業生からも合流希望、承認。	16名。	料亭「赤壁」。
台北稲和会。益子逞輔の来台の歓迎会を兼ねて例会開催。原口竹次郎の「非常時局に対する知識階級者の覚悟並に連盟脱退賛成論」、古川二郎の「太平洋戦略論の紹介」。須田斌一の「防空戦術論」など。	15名。内地人のみ。	北投「松島」。
武漢早稲田会。同仁会漢口医院事務長として校友・別府熊吉(前厦門領事)の親睦会。校友の清水八百一漢口総領事より紹介。	８名。内地人のみ。	清水八百一漢口総領事官邸。「支那料理」。
大連校友会有志会。大連支部長の篠崎芳郎、大連商工会議所書記長を会頭・副会頭とともに軍部から迫われたため、校友で慰安会開催。写真(29頁)。	19名。内地人のみ。	「大和ホテル」の別室。
早大出身民政党代議士の懇親会。朝鮮関係者の牧山耕造、永井柳太郎など。	22名。	「烏森湖月」。
新京校友会。中野正剛歓迎会。(22日)中野、新京到着、「満洲国」交通総長・丁鑑修、徳丸常任幹事など約10名の校友で出迎え→大和ホテルに投宿→(23日)校友会主催で官民座談会(大和ホテルにて)→校友歓迎会。	(23日)校友歓迎会＝20名。	料亭「千鳥」。
新京校友会。忘年会。新京地方事務所長に就任した荒木章の歓迎会を兼ねる。会員65名程度のところ出席者33名の盛会。	33名。	「賓宴楼」。
新京校友会。新年会。校友４名の入営送別会を兼ねる。	20名。	カフェー「精養軒」。
新京校友会。校友・郷垂(「満洲国」総理の長男・満洲航空会社社長)の病死に対して、告別式発起人として校友会参加、式典委員担任、弔辞の朗読など。		「護国般若寺」。
新京校友会。会員数は「満洲国建国」前20名以下→「満洲国建国」後の1932年末60名→1933年４月現在で判明するだけでも早大校友80余名・工手学校卒業生稲友会員20余名で合計100名突破。		
南洋稲門会。春季例会。校友・服部寅雄が南洋長官に随行して東京に昨年秋以来の出張から帰庁したので歓迎会を兼ねる。写真(15頁)。	６名。内地人のみ。	パラオ島コロール街の旗亭「鶴乃家」。
台湾北部校友会。春季大会。会務報告、幹事改選、推薦校友決定など。	44名。うち台湾人２名(呂燦石・張清漢)。	淡水河畔の景勝地に新築の「紀州庵」の百畳敷の大広間。食事は時節柄簡易折詰料理、二合瓶日本酒、サンドイッチ(会費１円50銭)。
台湾北部校友会。早大拳闘部一行(山本良葛監督・選手５名)の拳闘講演会および歓迎会。(15日)一行、台北着→台北ホテルに投宿。(19日)拳闘公開大会を台北市栄座で開催。校友は事前に早大拳闘後援会を組織。1000人の観衆。台北第一中学校一行353名団体見学。新聞各紙で紹介記事→有志で歓迎会。	(19日)有志歓迎会＝37名。	台北市内「永楽」。
満鉄八稲会。昭和８年に満鉄が大量採用した早大校友15名(事務系等13名・技術系等２名)で組織。第１回会合。	15名。内地人のみ。	「カフェーアジヤ」。
満鉄新入社員歓迎校友会。昭和８年度採用の早大校友＝事務系統12名・技術系２名・其他鉄道省より６名(大連在勤者のみ)で合計20名。満鉄勤務大連在勤校友の主催で新入社員の歓迎茶話会。	新入社員校友＝20名、主催者校友27名、合計47名。	「満鉄社員倶楽部」第二集会室。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1932	S7	12		52-53	1932. 10. 29	台北						
1933	S8	1		28-29	1932. 12. 9		京城(逓信局)					
1933	S8	2		9	1933. 1. 19			(「満洲国」)			「満洲国」代表鮑観澄来校	
1933	S8	2		14	1932. 12. 18			青島				
1933	S8	3		29	1933. 1. 21			満洲本渓湖				
1933	S8	3		30-31	1933. 1. 21	台中						
1933	S8	3		30-31	1933. 2. 5	台中						
1933	S8	3		37	1933. 2. 4			安東				
1933	S8	4		39-40	1933. 1. 26		平壌					
1933	S8	5		28	1933. 3. 8	台北						
1933	S8	5		28-29	1933. 3. 17			武漢				
1933	S8	5		29-31	1932年末			大連				
1933	S8	5		30	1933. 3. 24						民政党校友会	
1933	S8	6		13	1932. 10. 22-23			新京				
1933	S8	6		13	1932. 12. 20			新京				
1933	S8	6		13	1933. 1. 9			新京				
1933	S8	6		13	1933. 2. 13-26			新京				
1933	S8	6		14	1933. 4. 23			新京				
1933	S8	6		15,22	1933. 4. 15					パラオ		
1933	S8	6		16-18	1933. 3. 12	台北						
1933	S8	6		18-19	1933. 4. 15-19	台北					(早大拳闘部一行)	
1933	S8	6		24	1933. 4. 25			満鉄				
1933	S8	7		17	1933. 4. 26			満鉄				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
京城校友会。林原憲貞(京城校友会幹事を20数年間担任)が鉄道局副参事から関東軍交通監督部に栄転し新京へ赴任するため、送別会開催。写真(31頁)。	15名。内地人のみ。	本町「喜久家」。
「満蒙展覧会」を早大図書館大ホールで3日間開催。楼門・ポスター・美人画・風俗写真・陸軍省の原画・珍看板・満蒙資源統計図・参考書などを展示。総入場者数=5,699名、田中総長や理事・幹事も来場し「学園内に於て一大センセイションを起しました」。		早大図書館大ホール。
安東校友会。早大より渡俊治先生が「満支」視察のため来訪したので歓迎会を兼ねて夏季例会。	11名。内地人のみ。	料亭「東明」。
豊原校友会。早大野球部二軍(寺澤野球部長・選手部学生19名)が豊原来訪、試合。18日に校友会による歓迎会。写真(18頁)。	選手一行19名、校友20名。内地人のみ。	旗亭「梅林」。
稲和会。早大教授・三宅當時の歓迎会。	13名。内地人のみ。	台北市内川端町「紀州庵」、納涼船を新店渓に浮かべる。折詰、麦酒、酒。
釜山校友会。早大野球部二軍(20名)歓迎慰労会。公設グランドで釜山鉄道軍と対戦。	選手一行20名、校友20名。内地人のみ。	「釜山鉄道ホテル」。
大連校友会。「満蒙学術調査団」を2ヶ月間引率し「未踏の地満洲国熱河省内要所を仔細に探求、我国学界に偉大なる貢献を与えた」徳永団長が大連来訪、役員有志で懇親会開催。	20余名。	「支那料理」の「遼東飯店」。
大連校友会。秋季総会。役員改選、旧支部長・篠崎嘉郎→新支部長・井上輝夫、幹事長・伊藤長三郎(重任)。規約制定(全12条)。	53名。内地人のみ。	「ヤマトホテル」。
青島校友会。全校友42名中25名参加。常任幹事=中川勝男。前交通総長代理で現膠満鉄局委員の陸夢熊も参加。最後に「陸夢熊氏の発声で一同校歌を合唱し早稲田大学万歳を三唱して記念撮影」。写真(17頁)。	25名。うち非内地人1名(陸夢熊)。	料亭「第一楼」。
武漢早稲田会。新年宴会。清水漢口総領事、谷口・生田副総領事も参加。会場には早稲田の紅白の旗。写真(21頁)。	10名。内地人のみ。	旗亭「福宮」。和室。
早大奉天校友会。新年宴会。会長=石田武亥。奉天の校友会員数90余名にのぼる。	36名。内地人のみ。	奉天「精養軒」。
早大奉天校友会。早大スケートホッケー部選手一行の来訪のため、校友会主催の歓迎会。木谷辰巳(満鉄体育顧問・校友)挨拶、奉天医大スケートホッケー部長・三浦博士の挨拶。スコア=早大7－医大1。	主客合計32名。	「支那料理店」の「洞庭春」。
大連校友会。早大スケート選手一行(喜多荘一郎教授・朝長実監督・選手12名)の歓迎会。スケートの成績は13勝1敗1引分け。1月16日に帰京の途につく。	選手一行14名、校友44名。内地人のみ。	料亭「いろは」。
樺太豊原校友会。校友会会長=青木益太郎の真岡高等女学校長への栄転・会員の田畑頼衛の敷香人絹パルプ会社への栄転の送別会。新会長=五月女傳一。会員のほぼ全員出席。	27名。内地人のみ。	料亭「大和」。
朝鮮京南鉄道早稲田会。大会開催。会長=井上賢太郎の発案で国旗・校章旗を背景に記念撮影(23頁)→温泉で入浴→宴会。スピーカーで「都の西北」を流し、一堂起立で高唱。	12名。内地人のみ。	同社兼営の「温陽温泉神井館」。
新京校友会。校友・河野安通志(日本野球界の元老。校友)の歓迎会。河野は大連における実満野球戦の審判長として訪問、6月23－25日に新京で年中行事として開催される『大満蒙新聞』社主催の「日満対抗野球春季定期戦」(西公園グランドにて)開催のため、招聘観戦を依頼、観戦記・座談会など開催。(23日)早大校友会新京支部の河野氏歓迎会。(24日)校友・丁鑑修「満洲国」交通部大臣の招待宴。(25日)新京地方事務所長・校友会副支部長=荒木章、恩師である河野を主賓として校友数名を招待し午餐会開催。	(23日)18名。うち「満洲国」側2名(丁鑑修・張実)。(24日)14名。うち「満洲国」側1名(丁鑑修)。	(23日)「扇房亭グリル」。(24日)「賓宴楼」。(25日)「大和ホテル」。
大連校友会。春季総会。早大野球部(引率者・松本厚志、マネージャー・牟田正孝、主将・小林政綱以下24名)が「満倶実業両軍と対戦」のため大連来訪、歓迎会を兼ねる。議事=幹事・支部幹事選出(会員の転出のため)→野球部とともに晩餐会。	選手一行26名、校友53名。内地人のみ。	「大連ヤマトホテル」大食堂。
鉄原早稲田会。発会式。鉄原=京元線の最首邑、朝鮮中央部。	4名。内地人のみ。	「萬徳亭」。
大連校友会。「全満洲柔道軍」と対戦のため大連来訪中の「東京学生柔道連盟」一行のなかの校友・引率者=高広三郎(連盟理事長)と早大柔道部選手4名の歓迎会。	選手一行5名、校友12名。内地人のみ。	「ヤマトホテル」。
大連校友会。杉森孝次郎教授(満鉄夏期大学講師として招聘)・久保田明光教授(満洲棉花問題調査のため大連来訪)・今田竹千代(杉森教授随員。第二高等学院学生主事)・篠崎嘉郎(日満実業協会常任幹事)の4氏の歓迎晩餐会→懇談会で2教授・篠崎を中心に「満洲問題の意見を交換」。	来賓4名、校友17名。内地人のみ。	(歓迎晩餐会)「大連ヤマトホテル」のルーフガーデン。(懇談会)同ホテルの第一応接室。
樺太大泊稲門会。夏季総会。会員と帰郷学生との懇親会を兼ねる。	16名。内地人のみ。	旗亭「菊水」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1933	S8	7		31	1933. 5. 28		京城					
1933	S8	7		70	1933. 5. 25-27			(「満蒙」)			「満蒙展覧会」	
1933	S8	9		14-15	1933. 7. 10			安東			(渡俊治教授)	
1933	S8	10		18-19	1933. 8. 10-18				豊原		(早大野球部二軍)	
1933	S8	10		19-20	1933. 8. 15	台北					(三宅當時教授)	
1933	S8	10		21	1933. 8. 23		釜山				(早大野球部二軍)	
1933	S8	12		15	1933. 10. 16			大連				
1933	S8	12		15-16	1933. 10. 27			大連				
1934	S9	2		17-18	1933. 12. 25			青島				
1934	S9	3		21	1934. 1. 15			武漢				
1934	S9	3		22	1934. 1. 15			奉天				
1934	S9	3		22	1934. 1. 17			奉天			(早大スケートホッケー部)	
1934	S9	3		28	1934. 1. 24			大連			(早大スケート部)	
1934	S9	8		22	1934. 5. 7				豊原			
1934	S9	8		23	1934. 5. 23		京南鉄道(温陽温泉)					
1934	S9	8		34	1934. 6. 23-25			新京				
1934	S9	8		35-36	1934. 6. 27			大連			(早大野球部)	
1934	S9	8		38	1934. 7. 7		鉄原					
1934	S9	9		17	1934. 7. 15			大連			(早大柔道部)	
1934	S9	9		29	1934. 8. 17			大連			(杉森孝次郎・久保田明光教授)	
1934	S9	9		30	1934. 8. 19				大泊			

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
哈爾賓校友会。福田秀太郎「哈爾賓だより」。「満洲事変」後にハルビン在留邦人増加、校友の往来も盛んになるとともに、石川常長(航業連合局に「満洲国」鉄路総局派遣員として赴任。1920年商科卒)がもと大連校友会幹事として校友会経験を持ちハルビン校友会の復興を提唱。校友で文壇人である木村毅が満鉄の招聘でハルビン訪問を機として校友懇親会を開催。校友・押野慶浄(明治42年英文科卒)のハルビンにおける西本願寺の活動について。	約10名。内地人のみ。	松花江の納涼船「三江」。ウオッカ。
ハルビン来訪の校友。福田秀太郎「哈爾賓だより」。布利秋＝極東地理学界理事。木村毅＝文壇人、満鉄招聘で文化事業として南北満各地で文芸講演会を開催、「北満」ジャムスでは移民団視察、1934年7月19日「日満倶楽部」での座談会で「明治文化史」を説くとともに「満洲に独立した植民地文学の発生」を希望(『改造』8月号にジャムス移民団談を掲載)。		
稲和会(台北市在住の校友で老人組)。寺阪定蔵(蓬莱丸事務長)を招聘して懇話会。	10名。	北投温泉の料亭「花月」。
咸北早稲田会。発会式。由来は「清津校友会」で、1929年以来、規約なしに適宜親睦し『早稲田学報』にも未掲載だったが、「北鮮にもワセダマンありとの意気を示せよ」との意見を受け発会。	15名。内地人のみ。	清津府内の料亭「都」。
(黄海道)海州校友会。第1回開催。会長＝高橋謙三、顧問＝半場平七、幹事＝西村清・金相殷。	13名。うち朝鮮人2名(金相殷・金文詳)。	料亭「千鳥」。
新京校友会。田原春次「新京の校友」による現状報告。校友会支部で氏名判明者250名、工手学校200余名、就職志願で「フラ、ゝやって来る」者20－30名で、「一切合切の稲門関係者五百人に達する」。東京帝大卒＝「満洲国」政府の官吏・日本在満機関公吏等約1000名、東亜同文書院出身＝800名、早大校友は第三の規模。250名校友＝大半が官公吏で「内地各市の校友支部には見られない満洲風景である。官吏中の大臣は、交通大臣の丁鑑修氏と最高法院長の林啓(「棨」の間違い)氏で、日本人系満洲官吏の中では、早大出としては、司長即ち内地の各省の局長級のものは一人もゐない。それと云ふのが帝大のように内地で知事や局長の古手となったのが入満したのでなく、大抵、満洲へ行ったのちに官吏になった人が多いのと、年齢も三四十歳どこが多い関係にもよるであらう」。一部校友の紹介＝荒木章(満鉄新京地方事務所長)・得丸助太郎(新京地方委員会副議長)・松澤光茂(国務院総務庁情報処総務科長)、民間側では「日清生命の内田氏外二氏、シボレーやフォードの自動車会社の人々」、新聞関係者＝『大満蒙新聞』編輯局長・松浦朗と黒川保男、『新京日報』社長・箱田琢磨、『大阪朝日新聞』の吉田滓、『報知新聞』の中西真など。		
北満稲門会。創立総会。従来の哈爾賓校友会を拡大発展。幹事5名＝石川常長(航業連合局)・小日山武夫(哈爾賓水運局)・田中正隆(哈爾賓放送局)・矢島正(東亜烟公司)・陣内政雄(『大満蒙新聞』社哈爾賓支局)。さしあたり邦人で学園関係者30名で。「満人」および奥地で活動するものは追って調査。会則(全5条)決定。	19名。内地人のみ。	哈爾賓道裡田地街「大吉楼」。
校友会新京支部。十月定例会幹事会。在新京校友二百数十名に達し「早稲田会館」成立の急務を論議、方法手段を討議し、近くに実行委員選出すべきとの議論。	14名。内地人のみ。	「扇房亭グリル」。
校友会新京支部。幹事9月定例会。	8名。内地人のみ。	「扇房亭グリル」。
大連校友会。秋季総会。「満洲実情調査」のため大連来訪の校友で代議士の永田善三郎の歓迎会を兼ねる。支部長＝井上輝夫。役員改選。	40名。内地人のみ。	中央公園「西園亭」。
北満稲門会。福田秀太郎「哈爾賓だより」。ハルビンにおける校友の歴史と、北満稲門会の現状。ハルビン在住校友の始まり＝1912年に泉領事館補と西本願寺布教師の押野慶浄→1914－15年＝『西伯利新聞』(のちの『哈爾賓日々新聞』)主筆・長瀬春風、同編輯長・三瓶與十松、北満電気庶務課長・中島孝夫、同社員安部政次郎(現哈爾賓鉄路局員)など。長瀬は早大出身の沖禎介と横川省三の事跡を収集し一冊を編み紹介→シベリア出兵(1918－1922年)時に校友増加、領事館書記生・岸本元一など、約20名→1920年早大教授平沼・塩澤・服部来訪、大歓迎会→革命・排日時代へ。『哈爾賓日日新聞』社長兼主筆の佐藤四郎、「大に排日政権と闘ひ、在留邦人の進展に尽したことも、在哈校友勢力の発展史上見逃し難いこと」→「満洲事変」後、在留邦人増加。校友も増加。「従来、満鉄にゐた校友諸君の猛者連を最先として、続々南満より移動し、また哈爾賓を中心として満洲国関係各方面、各機関に於ける校友の新就職者が決して少くない」、「その他、新聞社、新聞支局、また各種実業会社にも、教育界にも夫々、校友が入込んでゐる。」→1934年9月25日、北満稲門会の設立。北満稲門会の関連地域＝新京・吉林を含まない、其の以北一帯の満洲で、ハルビンを中心に。		
「満洲国」早大出身日系武官の親睦会。1934年1月に軍官・軍需官として「満洲国」入り。「話の中心は満洲国に対する経済政策から満洲問題楽観悲観に対する」もの。写真(14頁)。	9名。内地人のみ。	奉天銀座(春日町)「千里十里亭」。
日蘭会商関係者を中心とした稲門会。集会者5名でジャーナリスト多し＝姉歯準平(政府委員、在スラバヤ領事)、山中清三郎(政府顧問、三井物産蘭印総支配人)、神田正雄(『東京日日新聞』・『大阪毎日新聞』特派員)、鈴木正文(『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』特派員)、谷口五郎(『大阪朝日新聞』通信員、『日蘭商業新聞』客員)。欠席2名＝斎藤正雄(蘭印東印度の邦字新聞『爪哇日報』経営)、松原晩香(雑誌『爪哇』発刊、日印会商に特派員として活躍)。写真(15頁)。	5名。内地人のみ。	爪哇(ジャワ)の首府バタビヤ市ノールワイク街「ホテルネザーランデン」。
京南鉄道沿線早大校友会。第一回連合大会。	22名。うち朝鮮人2名(李載驍・金鉄洙)。	温陽温泉「神井館」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1934	S9	9		38-39	1934. 7. 20			哈爾賓（ハルビン）				
1934	S9	9		38-39	1934年夏			哈爾賓（ハルビン）				
1934	S9	10		26	1934. 8. 30	台北						
1934	S9	11		15-16	1934. 7. 21		咸鏡北道					
1934	S9	11		18-19	1934. 8. 25		（黄海道）海州					
1934	S9	11		38	1934. 11.			新京				
1934	S9	12		10-11	1934. 9. 25			北満（哈爾賓）				
1934	S9	12		22	1934. 10. 27			新京				
1934	S9	12		22	1934. 9. 25			新京				
1934	S9	12		36	1934. 11. 12			大連				
1934	S9	12		39-41	−			哈爾賓・北満				
1935	S10	1		14	1934. 7. 22			「満洲国」				
1935	S10	1		14-15	1934. 10. 29					バタビヤ		
1935	S10	1		15-16	1934. 11. 3		京南鉄道（忠南）					

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
早大校友会新京支部。副支部長・荒木章が満鉄新京地方事務所長から満鉄本社学務課長に栄転のため送別会開催。荒木＝新京体育連盟を結成しスポーツに尽力、「満洲青年同志会」を組織。「満鉄学務課長の椅子が私学出身者として同氏によって始めてかち得られたを知るとき快心の笑みがもらされる」。写真(16頁)。	34名。うち非内地人2名(支部長＝丁鑑修・「満洲国」交通部大臣。顧問＝林啓(「棨」の誤り)・「満洲国」最高法院長)。	「大和ホテル」。
台湾北部校友会。早大野球チーム一行(山本忠興博士引率、選手20名)来台。試合結果は、早4－鉄8(1月3日)、早11－CB10(同4日)、早7－鉄0(同5日)、早7－CB2(同6日)、早5－高雄3(同7日)、早8－台南州庁団1(同8日)、早4－台南州庁団2(同10日)、早13－塩水港製糖(同11日)、早8－専売1(同12日)、早18－花蓮港5(同15日)で、全10戦、早大が9勝1敗。12月29日野球チーム一行、台北到着→6日高雄→台南→嘉義→台北→18日離台。写真(47頁)。		
(1934年12月30日)台湾北部校友会。野球チーム一行の歓迎会。学術大会で来台の山本研一理工科教授も出席。	選手一行20名、校友66名。うち台湾人3名(楊肇基・廖洽義・王経綸)。	旗亭「蓬莱閣」。台湾料理。酒、サイダー、茶。
(1935年1月12日)稲和会。野球チーム一行の歓迎会。フィルム3本鑑賞。台湾教育会所蔵のフィルム(阿里山・新高山・屏東・台東などの風景実写)を西岡英夫会員の斡旋により技術者が出張して観覧。台湾電力会社所蔵のフィルム(日月潭水電工事進捗状況の実写)を同社の後藤曦二会員の説明で観覧。牧田平太郎会員が小型活動写真機で撮影した野球試合の映写。	21名。内地人のみ。	台北『北投台電倶楽部』大広間(校友で稲和会会員の後藤曦二が台湾電力の技師である関係から)。牛肉鍋焼、酒、サイダー。
各地で公演。台北＝台北放送局でラジオ放送「テレビジョンの近状」、基督教青年会で「科学と宗教」。台南＝台南高等工業学校で講演。ほか、台湾電気協会や淡水の中学校でも講演。		
早大校友会奉天支部。新年会。校友増加で把握しきれず、連絡方法として奉天の3新聞に広告掲載。役員改選、会長＝石田武亥(奉天商工会議所会頭)の重任、副会長＝平塚安彦(小寺洋行主)。大連校友会会長・井上輝夫も奉天来訪中のため出席。写真(51頁)。	80名。非内地人1名(陳炳昌)。	附属地「洞庭春」。「女気抜きの支那酒に支那料理」。
天津早稲田会。新年会。常任幹事＝矢沢千太郎。	25名。内地人のみ。	「日本倶楽部」内の「武齋館」。
豊原校友会。娯楽会を兼ねて、本年第一回定期総会。会費減額・慶弔内規制定。役員改選(重任)、会長＝五月女傳一、常任理事＝高木実。	21名。内地人のみ。	旗亭「竹駒」。
大泊稲門会。会長＝谷島豊四郎。	12名。内地人のみ。	旗亭「菊水」。
大連支部。大連支部幹事・『大連新聞』経済部長の岩永虎吉が新京の満洲電業公司に入社するため送別会を開催(岩永は在大連10年)。大連支部若手の提案により4か条の申し合わせを可決＝「一、会終了後、毎回校歌必唱の件」「一、休暇帰省の学生を糾合、夏季開催の件」「一、一月十日故大隈侯追悼式執行の件」「一、毎月例会費減額の件」。	41名。内地人のみ。	「ヤマトホテル」。
大連支部。故坪内逍遥博士追悼会。2月28日に逝去した坪内博士の文勲追悼のため3月4日早大で大学葬を行うのに合わせて、大連の大蓮寺で追悼会を執行。弔辞を本校校友会に送る。コロンビヤレコードに残された「ハムレット」(石田貞蔵校友持参)で追憶。大連市長からの花輪、『満洲日報』社長・村田氏その他参会。	45名。内地人のみ。	大連「大蓮寺」。
北満校友会。坪内逍遥追悼会。読経・焼香後に、坪内先生記念会開催。押野慶浄(校友・西本願寺住職)「坪内先生の生涯と日本文化の偉業」、福田秀太郎他校友男女兄姉「逍遥先生訳沙翁劇一場朗読」、校友・粁屋七一郎「追悼演芸長唄(坪内先生新作)」など。		哈爾賓軍官街「西本願寺」。
台湾緑会。早大法科出身者の会(法科の象徴である緑にちなむ)。会員25名(うち台湾人1名＝張清漢)。伊勢田嘉一(明治39卒。日本樟脳会社台北支店長)・柴田種吉(明治39年。京染の台北出張所長)・跡部慎蔵(明治40年卒。台北地方法院検察局)など、「同じ学園に学び同じ科を専攻した者の集りのことゝて実に和やかな雰囲気」。	12名。内地人のみ。	台北栄町「ミカド」。鍋焼(神戸牛)。
校友会朝鮮支部。春季大会。支部幹事改選。常任幹事5名(内地人のみ)、幹事15名(うち朝鮮人2名)。	35名。うち朝鮮人1名(韓圭復)。	市内料亭「花月本店」。
大連校友会。四月例会。会費の低減断行で若手出席多し。宴会時には「レコードは絶へず『都の西北』のメロディを漂はし、彌が上にも早稲田気分をそそる」。	33名。内地人のみ。	「天満屋ホテル」。
稲和会。(4月16日)校友・佐伯淑郎が日清生命保険株式会社常務取締役として台湾における同社視察のため初渡台、稲和会会員を招待。(4月28日)佐伯を招待して歓迎午餐会。賓客＝佐伯・島田三(日清生命保険株式会社台北支社長)・梶原実(同次席)。坂本信道幹事「稲和会が常に日清生命保険会社台北支社の方々に、多大の配慮斡旋を受けていることを謝」す。	(28日)14名。内地人のみ。	(16日)旗亭「竹の家」。(28日)「モンパリ」の「モダンな三階大広間」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1935	S10	2		16-17	1935. 1. 9			新京				
1935	S10	3		46-51	1934. 12. 29-1935. 1. 18	(早大野球チーム来台)					(早大野球チーム・山本忠興博士)	
1935	S10					台北					(早大野球チーム・山本忠興教授、山本研一理工科教授)	
1935	S10					台北						
1935	S10					全台湾					(山本忠興教授)	
1935	S10	3		50-51	1935. 1. 11			奉天				
1935	S10	3		53	1935. 1. 18			天津				
1935	S10	3		62	1935. 2. 2				豊原			
1935	S10	3		63	1935. 2. 9				大泊			
1935	S10	4		44	1935. 2. 27			大連				
1935	S10	4		44-45	1935. 3. 4			大連				
1935	S10	4		49	1935. 3. 15			哈爾賓・北満				
1935	S10	5		27-28	1935. 3. 16	台北						
1935	S10	5		29	1935. 3. 23		京城					
1935	S10	5		33-34	1935. 4. 10			大連				
1935	S10	6		22	1935. 4. 16・28	台北						

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
稲和会。台湾中部大震災の弔慰視察のために民政党から特派されてきた校友・代議士の永田善三郎の歓迎会。永田＝25年前に台湾に在住、『台南新報』や『台湾日日新報』政治経済記者。	14名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」。
台湾北部校友会。台湾中部大震災の弔慰惨害視察のために拓務大臣の命で来台した校友・桜井兵五郎拓務政務次官の歓迎茶会。茶会後に総督の招宴があるため簡易な形式。	31名。	「鉄道ホテル」階下社交室。冷えたウーロン茶と菓子、アイスクリーム、西瓜。
満鉄新入校友歓迎会。本年度の新入校友は22名の盛況。	新人校友21名、旧校友24名。	大連市「天満屋ホテル」。
上海早稲田会。新年宴会を兼ねた総会。役員改選、会長＝浅羽三郎。事務所＝三隆洋行内(上海泗涇路36号)。新幹事７名推薦。会員名簿完成。会員の談、木下毅(『大阪朝日新聞』上海支局長)の「支那奥地」視察談、上海民会議員として活動している佐藤今朝見の「目睫の間に迫った当地民会議員選挙」話など。	18名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。「支那料理の卓」、老酒。
上海早稲田会。春季懇親会。上海の在留邦人の年中行事として春秋二回ずつ行う「三田、稲門野球試合」の第５回開催日を６月２日にする提議に賛成、５月16日に三田側と打ち合わせ会を開くこととし、出場者選定。	21名。うち非内地人１名(林木石)。	「日本人倶楽部」。「畳の上でシッポク料理」。
上海早稲田会。早大教授原田実・講師和田小次郎が欧米留学の途中上海寄航、有志で歓迎会。原田教授は上海民団立学校教職員のための講演を依頼され、中部小学校講堂で教育に関する講演、約100名の教職員全員出席。	８名。	北四川路「味雅酒楼」。「純粋の支那料理」。
大連校友会。笠置山(相撲取・校友)の後援相撲総見、および歓迎会。新横綱武蔵山一行の大連興行３日目に校友席を取り総見。終了後、笠置山および大連実満野球戦の審判員として大連来訪中の校友２名＝井口新次郎(『大阪毎日新聞』)・川久保喜一(神戸商大野球監督)の計３名の歓迎会を、６月例会を兼ねて開催。	30名。内地人のみ。	連鎖街「めいぢ食堂」(校友・臼杵伊三郎の経営)。
大連校友会。春季総会。	82名。内地人のみ。	中央公園「西園亭」。
上海早稲田会。「三田、稲門戦」(２日開催予定を雨天延期)。３邦字新聞と『大阪朝日新聞』・『大阪毎日新聞』上海支局の後援で開催、「新聞の宣伝よろしきを得て、当地の一大名物となってゐる」。ユニホームに「ＭＩＴＡ」・「ＴＯＭＯＮ」、応援団には小旗が配布されスクールカラーにＷとＫを染め抜く。試合スコア＝三田７－稲門３。→三田・稲門合同懇親会。エール交換・スクラムなど。写真(16頁)。	(合同懇親会)合計50余名。稲門側＝19名。	(試合) 公園の新野球場。(合同懇親会)「日本人クラブ」の大広間。「支那料理の卓」。
上海早稲田会。福田由治(日本郵船上海支店勤務。15年間勤務)が横浜支店へ栄転するので送別会開催。	14名。内地人のみ。	海寧路の料亭「魚つね」。
金南順天早稲田会。発会式。会員10名全員参加、「今後は母校を基礎に相提携日鮮融和の指導者たる可く口約」。四次会まで行う。写真(17頁)。	10名、うち朝鮮人５名。	邑内「喜楽会館」。
校友会新京支部。春季総会。「満洲国」前交通部大臣・丁鑑修が実業部大臣に就任したため祝賀会を兼ねる。役員改選、支部長＝丁鑑修を再選、副支部長＝得丸助太郎(再任)・清水豊太郎(新任)、幹事長＝鯉沼兵士郎(新任)。顧問＝林棨・吉田淳。新京校友会員約250名に達す。写真(18頁)。	56名。うち非内地人５名(丁鑑修・李東済・荘壽爾・華栄陳・除世智)。	「新京記念公会堂」。
新京校友会。笠置山(本名＝中村勘治。相撲取・校友)が東京大相撲武蔵山一行の地方巡業で新京に来訪したので歓迎会開催。校友会から笠置山にペナント・記念品贈呈。	16名。内地人のみ。	「扇房グリル」。
校友会朝鮮支部。幹事・丸中徳三が殖産銀行平壌支店長代理に栄転するので校友会有志で送別会。	15名。うち朝鮮人１名(千柱東)。	市内料亭「花月支店」。
大連校友会。７月例会。「都の西北」「紺碧の空」レコードで会場は早稲田気分横溢。	22名。内地人のみ。	「天満屋ホテル」。
拓務稲門会。懇親会。会員数19名。拓務省創設時に20余名→10名前後まで減少→1934年秋、校友である桜井政務次官・佐藤参事官就任後に活況。写真(15頁)。	15名。うち朝鮮人１名(南振祐)。	日比谷「鶴水」。
清羅早稲田校友会。清津・羅南地方の校友および夏期規制学生。写真(17名)。	13名(帰省学生１名)。内地人のみ。	清津府内料亭「都」。
校友会大連支部。支部長・井上輝夫(満洲製麻株式会社専務取締役)が大連商工会議所副会頭に就任の祝賀と、早大蹴球部一行(加藤健児監督、渡邊芳夫マネージャー、選手16名、日本蹴球協会代表・小野卓爾)の大連来訪の歓迎のため会を開催。	来賓20名、校友32名、合計52名。うち非内地人１名(張星賢)。	「大連ヤマトホテル」。
豊原校友会。早大教授・中村進午博士、日大の加藤・松原教授とともに豊原来訪のため、日大と合同主催で歓迎会。	早大・日大の主客合計で25名、うち早大校友11名(内地人のみ)。	「アヅマ会館」。
豊原校友会。現在会員40余名、会員相互連絡・親睦のための「早大豊原校友会倶楽部」を開設。場所＝豊原町一条南三丁目「豊交会」階上。期日＝毎月第二土曜日午後１－９時。設備＝囲碁・将棋・麻雀など、その他名士を招聘し座談会開催。会費＝出席の際には夕食代50銭持参。		「早大豊原校友会倶楽部」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1935	S10	6		22	1935. 5. 7	台北						
1935	S10	6		22-23	1935. 5. 10	台北						
1935	S10	6		23-24	1935. 4. 17			満鉄				
1935	S10	6		32-34	1935. 1. 18			上海				
1935	S10	6		34	1935. 5. 1			上海				
1935	S10	6		34	1935. 5. 6			上海				
1935	S10	7		13-14	1935. 6. 10			大連				
1935	S10	7		15-16	1935. 5. 25			大連				
1935	S10	8		15-17	1935. 6. 9			上海				
1935	S10	8		17	1935. 6. 22			上海				
1935	S10	8		17	1935. 6. 16		金南順天					
1935	S10	8		17-18	1935. 6. 16			新京				
1935	S10	8		19	1935. 6. 23			新京				
1935	S10	8		23	1935. 6. 27		京城					
1935	S10	8		30	1935. 7. 10			大連				
1935	S10	9		15	1935. 7. 19							拓務省
1935	S10	9		15-17	1935. 7. 20		(咸北)清羅					
1935	S10	9		18	1935. 7. 26			大連			(早大蹴球部)	
1935	S10	9		23-24	1935. 8. 5				豊原		(中村進午教授)	
1935	S10	9		24	1935. 9.				豊原			

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾北部校友会。校友家族共栄会。校友の家族の懇親会。余興・海水浴など。校友に葉書で告知するとともに、『台湾日日新報』紙上に記事通告。	校友30名(内地人のみ)、家族86名、合計116名。	基隆海水浴場クルベー浜の海浜「港湾」。折詰弁当、麦酒、サイダー、茶。
稲和会。会発起人の一人でもある常見辦次郎の高雄転任の祝賀会。	20名。内地人のみ。	カフェー「トモエ」。
(爪哇)スラバヤ稲門会。調査視察のため爪哇に訪問する南洋事情研究会学生2名の親睦晩餐会。スラバヤ滞在時には校友・富井常臣宅に宿泊。バンドン以北の調査時には『バダビヤ爪哇日報』主筆・松原晩香(校友)が世話。写真(23頁)。	8名。内地人のみ。	料亭「吉雲居」。
大連支部。夏季校友大会。今夏より帰省中の早大学生を交えて懇親会開催、早稲田高等師範部教授・渡邊藤吉が大連来訪中なので合わせて歓迎会。→工学部教授・上田輝夫が「満洲電気大会」出席のため大連来訪のため、座談会開催。	(歓迎会)41名、内地人のみ。	大連市「扶桑仙館」。
樺太敷香校友会。桜井拓務政務次官の来訪の歓迎会。写真(31頁)。	8名。内地人のみ。	旗亭「白鶴」。
田中穂積総長「鮮満北支を視て―十月二十四日大隈小講堂における講演」。1935.9.7-10.10「鮮満北支」旅行。田中「満洲事変」後に「満洲国が建設されるやうになりまして、老侯〔大隈〕の遺業を継いで居ります早稲田学園としては、何といふても新に出来た帝国の健実な発展の為めには人材が一番必要であるに相違ないから、此方面に努力をしなければならない義務があると考へまして、青柳教授を満洲の建設当初視察に彼の地に送ったのであります。当時青柳教授が帰って報告をして下すった所によれば、今日は未だ建国匆匆のことで殆んど混沌状態であるから、今学校当面の責任を荷って居る者が行って見た所で仕方があるまい、稍や秩序が立つやうになってから行った方が宜かろう、と云ふ青柳教授の報告を受けまして、段々年を重ねたのでありますが、迫々満洲帝国の建設も其の緒に付き秩序も整って参りましたので、向うに居ります校友諸君から幾度か私に参るやうにといふ切なる勧誘を受けたのであります」。さらに「夏休を利用して学園の青年学徒が海外各方面へ視察研究の為めに活躍する送別会が六十余名の学生諸君によって大隈会館で開かれ」たのに出席し「非常に感激」。「此の送別会に出席致して見て、どうしても日本の今日の国情はもう段々と国内も就職難になって来たから、高等教育を受けた青年学徒の如きは将来大いに海外に活動すべき使命を持って居る。幸にして国運隆盛の此の機運に乗じて青年学徒が進んで民族発展の第一線に立つと云ふ勇気がないと云ふことでは相済まない」「青年学徒の卒業後に於ける活動の舞台は海外にあると云ふ考へを深く致しました。それには遠い所は暫く措いて最も日本の国防の上から言うても、又経済的発展文化的発展の上から言うても、重要な場所であり、而して二千数百名の学園の校友が活動して居られる鮮満北支を視察することが急務である」ということで視察に出発。旅程中の校友会＝(朝鮮)釜山、京城、仁川、元山、清津、平壌→(満洲)新義州・安東県、奉天、撫順、新京、哈爾賓、奉天→(北支)天津・北平・済南〔1泊のみで校友会は未開催〕、青島、大連、旅順。30日の旅行に16ケ所の校友会に出席。朝鮮＝「内鮮の融和は着々事実に行はれて居ります」「どうも朝鮮の現状を見ますと、植民政策の模範は日本である、迚も英吉利は及ばない」。「満洲」＝「日本が文武両方面に亙って、全力を挙げて提撕して居ります以上、早晩必らず立派な成果を挙ぐるに相異ないと信ずる」「既に朝鮮に於て我々大和民族の能力が立派に証明されたのでありますから、満洲に於ても亦必ずそこに立派なものを作り上げる力を持って居ることを信じて疑はないのであります」。「北支五省」＝「自治案は非常な名案である、けれどそれは実行は余程困難である」「先づ何よりも満洲帝国を一日も早く立派なものに仕上ぐると云ふことが急務であって、立派な満洲帝国を目前に見れば如何に辛棒強き支那の人々でも現在の如き塗炭の苦しみに甘んじ得べき筈はないのであって、必ずや日本の文化的、経済的指導を請求する日の来ることは明らかなりと私は信ずる」。「中華民国」＝胡適との対話で、田中総長「極東の情勢世界の大勢から考へて日本と提携さるゝことが民国にとって一番有利であると確信する」と1時間ほど説明→、胡適「我々中華民国の人間は最大限度の希望として、如何にかして中華民国の独立を維持したい。然るに此最大限度の念願さへ力を以て圧迫さるゝと云ふに至っては何とも忍び得られないと云ふ頗る悲壮の話でありました」→田中総長「世界第二の大国で四億の民衆と四百余州を領有して居る中華民国が、自国の独立を維持するのが、最大限度の希望だなどとは悲しむべきことであって、退いて自国の独立を保つのみでなく、進んで日本と提携して、東洋の文化を発揚して世界の文化に貢献する使命があるではないかと私が申しましたが、胡適君は苦笑して答へなかった。即ち当夜の会談の雰囲気から判断しましても、早晩日本の力を借るゝと云ふことは已むを得ざるの勢であると云ふことを集られた人々も感じて居るではないかと、私は推測したのでありまして、如何に北支五省が天恵の資源に富んで居りましても、自力では到底開発は覚束ない。是非とも他国特に日本の力に俟たざるを得ないことは明かでありますから、必ずしも急ぐに及ばない」。結論＝「旧式の帝国主義の領土欲を離れて、文化的に、経済的に平和的に、大和民族の活躍すべき舞台は殆ど涯てを知らないのでありまして、我々は極東の先覚として後進の為めに力を借して文化の向上と経済の発展に尽すべき重大なる使命を荷うて居る。即ち大和民族の前途、国運の前途は非常に有望である。是れから早稲田大学を卒業する有為の青年は民族的発展の第一線に立って大に海外に発展すべき責任があると云ふやうな感想を齎して私は帰った次第であります」。		大隈小講堂。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1935	S10	9		26	1935.8.18	台北						
1935	S10	9		26-27	1935.8.18	台北						
1935	S10	10		22-23	1935.7.27					スラバヤ(爪哇〔ジャワ〕)		
1935	S10	10		23	1935.8.21		大連				(早稲田高等師範部教授・渡邊藤吉、工学部教授・上田輝夫)	
1935	S10	10		31	1935.9.19				敷香			
1935	S10	11		2-20	1935.11.24(講演会)		(田中穂積総長「鮮満北支」視察)	(田中穂積総長「鮮満北支」視察)			(田中穂積総長「鮮満北支」視察)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
田中穂積総長「鮮満北支」視察。各地校友寄稿の「鮮満北支に於ける田中総長歓迎会」。(朝鮮)釜山→大邱→京城→仁川→金剛→元山→清津→平壌→(「北支」)新義州安東→奉天→新京→天津→済南→青島→大連。		
(9月7日)田中総長、東京出発→(10日)時化のため下関発連絡船欠航の後、10日朝入港→(10日)鉄道会館で校友歓迎会(土師盛貞慶尚南道知事・土屋府尹陪席)→市内視察、龍頭神社参拝→自動車で大邱へ。道中、古跡・全南蔚山の城跡(慶長の役・加藤清正篭城戦跡)・仏国寺・石窟庵→仏国寺ホテルで昼食→慶州博物館→邱蔚間国道をドライブ、車中より朝鮮人の市を視察→大邱へ。		
(9月10日)夜、大邱到着。旅館・田中屋に投宿。校友と会見。時化で釜山到着が遅延した関係で校友歓迎会はなし→(11日)大邱神社参拝→鉄道で京城へ。		
(9月11日)午後、京城着。多数校友・日清生命社員の出迎え。駅長室で校友に会見→朝鮮神社参拝。京城校友会の古城亀之助・平田堅利両幹事の案内→朝鮮ホテルで休憩→総督官邸で宇垣一成朝鮮総督の歓迎宴→京城放送局から「世界の変革と日本の使命」を朝鮮全土へ放送→校友・森辨治郎(朝鮮郵船社長)の主催による総長一行歓迎会→朝鮮ホテル投宿→(12日)博文寺慶会楼博物館→総督府に宇垣総督・今井田政務総監・渡邊学務局長を訪問→府内各新聞社・主要な銀行会社を歴訪→普成専門学校(校友の金性洙が経営)参観。学生に約1時間講演→普成専門学校主催の午餐会→京城校友会主催の歓迎会。平田堅利(常任幹事)開会の辞。古城亀之助幹事の校友代表歓迎の辞。田中総長の談話「私学の権威我らが母校の隆昌現況を実例を挙げて縷々詳述せられたる後、躍進又躍進の途上に在る吾半島在住校友各位の益々自重奮闘を懇切に熱望」。総長一行は「朝鮮料理と妓生の流暢なる内地語による歌舞並に舞姫の古雅なる朝鮮舞鼓に興ぜられ」。中枢院参議・韓圭復(1903年政経卒・もと道知事など経験)の乾杯の音頭。権藤四郎介による母校万歳三唱、森辨治郎の総長万歳三唱など→校友・中原元次の招待宴→朝鮮ホテルに投宿→(9月13日)徳寿宮・仁政殿・秘苑参観→『朝鮮日報』社主催の招待宴→鉄道で仁川へ。	(9月12日)京城校友会主催歓迎会=103名。うち朝鮮人25名。	(9月11日)宇垣総督歓迎宴=総督官邸。晩の歓迎会=料亭「千代本」。(9月12日)普成専門学校主催午餐会=「白雲荘」。京城校友会歓迎会=朝鮮料亭「名月館」。中原の招待宴=料亭「喜楽」。(9月13日)『朝鮮日報』社主催の招待宴=「銀月荘」。
(9月13日)午後、仁川駅に到着。官民有志・校友の歓迎。京城から吉田秀次郎(前仁川商工会議所会頭)・太田忍(仁川商工会議所会頭・校友父兄)が先導。桑野健治(仁川校友会幹事)の肝いりで新調した仁川校友会旗を先頭に出迎え→仁川神社参拝→自動車で市内視察、税関構内の開門式ドック視察→月尾島山頂の展望台。港内一円を視察眺望。太田忍が説明→仁川校友会主催歓迎会。校友会会長=後藤連平。写真(29頁)→午後9時すぎ仁川出発→京城で小休憩→金剛へ。	(仁川校友会主催歓迎会)主賓=田中総長・大島庶務課長・吉田秀人維持員(日清生命専務取締役)・平田堅利京城校友会幹事。校友=14名。内地人のみ。父兄=5名。特別参加=永井仁川府尹。吉田秀次郎(前仁川商工会議所会頭)。	仁川校友会主催歓迎会=料亭「うろこ」。
(9月14日)早朝、金剛駅着。途中出迎え=小林儀三郎・西田共二(元山校友会幹事)、康高城郡守、国本・原田支局長→温井里に到着。金剛山観光→温井里ホテルに投宿。康高城郡守より、金剛山史跡伝説や江原道内における行政・教育・産業などにつき聴取→(15日)温井里出発、途中で元山校友会幹事などと同道。		
(9月15日)午後、元山駅到着。多数校友の歓迎、駅長室で校友らと会見→元山中学校を参観、講演→元山神社参拝→元山港湾を視察、海水浴場・松清園に上陸→ホテルで休憩→官民合同歓迎会→清津へ。		官民合同歓迎会=府内料亭「丸吉」。
(9月16日)午前、清津到着。校友の出迎え→国際ホテルで休憩→清津神社参拝→国際港・清津を視察。元山府内務課長・松村の説明。「対北満及欧州連絡港としての経済的発展性を聴取」→林兼商店清津工場・朝鮮油脂会社を視察→府尹主催の歓迎会→清津校友会歓迎会。田中総長談「吾等殖民地に居住するもの、態度につき御高話あり実にしんみりとした会合となった」。写真(30頁)→平壌へ。	(清津校友会歓迎会)来賓=田中総長・大島庶務課長・吉田秀人維持員・平田堅利京城校友会幹事。校友=13名、うち朝鮮人1名(白仁進)。	府尹主催の歓迎会=「国際ホテル」。清津校友会歓迎会=料亭「高秝庵」。
(9月17日)午後、平壌駅到着。駅長室で校友に会見→三根旅館に投宿→(18日)府庁・新聞社を歴訪→平壌中学校校庭の化石林を参観→女子高等普通学校を視察。校長=百瀬計馬(校友)。朝鮮人女学生に訓話→博物館・牡丹台名所旧跡探勝→大同江で船を浮かべて自然観賞。校友の市橋・松井の厚意による→海軍燃料廠平城鉱業部視察(船橋里)→平壌校友会の歓迎会→三根旅館に投宿→(19日)早朝、平壌を出発、新義州へ。		(9月18日)平壌校友会歓迎会=府内料亭「七秝館」。
(9月19日)昼前、新義州駅到着。新義州と安東の校友出迎え→鉄道ホテルで休憩。校友と会見→新義州府内視察→プロペラ船で鴨緑江(「鮮満」国境)を渡り安東に上陸→安東神社参拝→鎮江山から新旧市街を眺望→安東ホテルで休憩→校友会の歓迎会→安東を出発。多数校友見送り→五龍背の宿泊場へ。		校友会歓迎会=料亭「すみれ」。
(9月20日)夕方、奉天駅到着。石田奉天校友会支部長は本渓湖まで出迎えて同道→奉天校友会主催歓迎会。写真(31頁)→大和ホテルに投宿→(21日)奉天神社・忠霊塔・総領事館・守備隊司令部・省公署など主要機関を歴訪。手塚・皆川両奉天校友会副会長、鉄路総局校友の案内→北稜へ観光→(22日)撫順見学。撫順の校友が奉天まで出迎え、奉天校友も3名随行。奉天校友会支部事務所=市場正門通り福本装飾店内。	(奉天校友会歓迎会)来賓=田中総長・大島庶務課長・吉田秀人維持員。校友=78名、うち非内地人3名(徐星祥・啓彬・陳炳章)。	奉天校友会主催歓迎会=(会場未記載)「支那料理」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1935	S10						（田中穂積総長「鮮満北支」視察）	（田中穂積総長「鮮満北支」視察）				
1935	S10						釜山					
1935	S10						大邱					
1935	S10						京城					
1935	S10	11		26-38	1935. 9. 7- 1935. 10. 10		仁川					
1935	S10						金剛					
1935	S10						元山					
1935	S10						清津					
1935	S10						平壌					
1935	S10							新義州・安東				
1935	S10							奉天				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
(9月23日)早朝、新京駅到着。校友で「満洲国」実業部大臣・丁鑑修など歓迎。奉天まで得丸助太郎新京校友会副支部長・今坂徳次郎新京稲門倶楽部幹事長が出迎え、同道。出迎え＝丁鑑修(「満洲国」実業部大臣。新京校友会支部長)・林柴(「満洲国」最高法院長・新京校友会顧問)・吉田淳(『大阪朝日新聞』総視局長・新京校友会顧問)・清水豊太郎(中銀庶務科長・新京校友会副支部長)を始め校友多数出迎え→→新京ヤマトホテルに投宿→新京神社・新京忠霊塔→国都建設局。鄭国都建設局長・結城総務処長より「国都の発展状況」の説明→文教部。阮文教部大臣・久米総務司長より「新興満洲国の教育状態」を聴く→阮文教大臣の招宴午餐会→自動車で南嶺へ。「満洲事変当時の激戦地を展望」→校友会新京支部の歓迎大会。田中総長の激励「こゝに新興満洲国国都に於いて活躍する校友諸君の勇姿に接するを欣快とすると、あだかも慈父が愛児をねぎらふが如く又教へるが如くに、懇々として説き激励すれば、列席者は感泣する」。写真(33頁)→(9月24日)「満洲国」国務院。長田総務庁長に面会、「国家各方面の大貌を聴取」。張総理大臣に面接、握手→宮内府。「満洲国」皇帝溥儀に拝謁→前「満洲国」総理大臣・鄭孝胥を自宅に訪問→「満洲国」実業部大臣・丁鑑修を訪問→長田総務庁長の招待午餐会→関東軍司令部。南次郎全権大使に面接。谷参事官と会見→関東局。大野事務総長を訪問→大同学院。院長・井上中将に面会、「親しく同国の性質を聴取」→丁鑑修「満洲国」実業部大臣主催の招待晩餐会→新京飛行場。旅客機に乗りハルビンへ→ハルビンで1泊後、列車アジア号で新京駅着、さらに「北支」へ南下。	(9月23日)校友会新京支部歓迎大会)来賓＝田中総長・大鳥庶務課長・吉田秀人雑持員・柿内靖(日清生命大連支社長)・高橋亀吉。校友＝39名、うち非内地人3名。稲門校友＝14名、内地人のみ。(9月24日)丁鑑修「満洲国」実業部大臣主催招待宴。主賓＝田中総長・大鳥庶務課長・吉田秀人雑持員。来賓＝張「満洲国」総理大臣・阮「満洲国」文教部大臣・鄭国都建設局長・島田少佐。校友＝18名、うち非内地人2名(胡清・賀嗣章)。	(9月23日)阮文教大臣の招宴午餐会＝「鹿鳴春飯店」。校友会新京支部歓迎大会＝「新京ヤマトホテル」。(9月24日)長田総務庁長の招待午餐会＝「大陸春飯店」。丁鑑修「満洲国」実業部大臣主催の招待晩餐会＝旗亭「八千代館」。
(9月30日)天津校友会歓迎会並に秋季校友大会。写真(35頁)。(日付不詳)多田司令官と面会、「北支五省」の「自治案」につき語る。(日付不詳)校友の殷汝耕・江庸・陳博生などの発起で中山公園の宮殿で北平の要人とともに晩餐会。河北主席＝商震、思想家の胡適など含めて14・5名。田中「私は支那語は一も分らないので校友の殷汝耕君、此人の日本語は洗練されたもので、日本人でも稀に見る位な日本語であります。それに学園から留学して居ります郭明昆君此人の北京官話が又立派なものでありますので此の二人の通訳で二三時間話を致しました」「無遠慮に中華民国の為めに忠実と信ずる所を陳べ」て、胡適と対立(『早稲田学報』1935年11月号、19頁)。	来賓＝田中総長・大鳥庶務課長・吉田秀人(日清生命専務取締役)・柿内靖(日清生命大連支社長)。校友＝日本人側28名、「支那人」側4名、特別加入＝3名。	料理屋「敷島」。
(10月1日)夜、済南到着。青島校友会から田邊郁太郎・北野幹事、膠済鉄路局委員中国側代表・校友の陸夢熊の代理として鉄路局員松永、および済南校友3名が案内→鶴家旅館→西田済南領事が訪問、「北支時局や山東事情など」語り合う→(2日)城外附近視察→早朝、済南駅出発、青島へ。		
(10月2日)早朝、青島駅到着。途中の滄口駅より陸夢熊が同道。出迎え校友多数→グランドホテル→青島校友会歓迎晩餐会。写真(36頁)→(3日)鉄路局に陸夢熊を訪問→青島市政府→日本総領事館。田尻総領事代理と会見→市中見物。砲台・忠魂碑・日独戦跡跡→青島神社参拝→陸夢熊の招待午餐会→夕方、大連へ。	(2日)青島校友会歓迎晩餐会。20数名。(3日)陸夢熊の招待午餐会。「中国側と日本側の校友と共に午餐」。	(2日)青島校友会歓迎晩餐会＝「グランドホテル」。(3日)陸夢熊の招待午餐＝「亜東飯店」。「支那料理」。
(10月4日)正午、奉天丸に搭乗して青島から大連埠頭に到着。校友会大連支部は事前の幹事会を開催し総長の視察・歓迎に関して打ち合わせ済み。井上輝夫支部長・伊藤幹事長らはランチにて大連港外まで出迎え、本船に移乗しサロンで総長を歓迎→奉天丸、着岸。「田中総長は井上支部長等の案内にてデッキに現れ、岸壁に佇立せる多数の校友群を発見して帽を取り双手を挙げて会釈さるれば岸壁に集団せる約一百の校友は支部旗、小旗を打ち振りて『早稲田大学総長田中先生万歳』を三唱し一同これに和し一時は全く『都の西北早稲田の森』をこゝ大連埠頭に現出したかのやうであった。」→上陸、埠頭貴賓室で校友その他と挨拶→ヤマトホテル→忠霊塔・大連神社参拝→満鉄会社を訪問。松岡洋右総裁と会見・懇談→大連校友会歓迎晩餐会。「会場正面には校友会旗を高く掲げ早稲田気分を横溢せしめ」る。田中総長挨拶「わが早稲田大学は大隈老侯の申されたやうに東西古今の文化の洽融を理想とする学園なるを以て新興満洲国の現勢を視察して教育奉国に邁進せねばならぬと同時にわが日本帝国の生命線の第一線に活動せられつゝある校友諸君にお目にかゝるのが目的で今次の旅行を思ひ立った」。写真(37頁)→(5日)埠頭ビル屋上から大連港を大観。「大連市の発展情勢を下瞰視察」。井上支部長が説明→大豆工場会社の製油工場視察→満鉄社員消費組合を訪問、組合内を一巡、昼食→満蒙資源館→実業同志会主催の座談会。ヤマトホテルにて→(6日)旅順戦跡などを視察→校友有志の総長歓校友会→(7日)亜米利加丸に乗船し内地へ。	(4日)大連校友会歓迎晩餐会。主賓＝田中総長・大鳥庶務課長・吉田秀人(日清生命専務取締役)。早大柔道部一行(高広三郎引率、選手5名。満洲遠征中)。校友＝111名、内地人のみ。(6日)校友有志の総長歓校友会。主賓＝田中総長・大鳥庶務課長。校友＝20名、内地人のみ。	(4日)大連校友会歓迎晩餐会＝「遼東ホテル」大食堂。(6日)校友有志の総長歓校友＝中央公園内「西園亭」。
台湾北部校友会。衆議院議員・永井柳太郎(もと拓務大臣)が「台湾始政四十周年記念博覧会」視察のために渡台するので歓迎会(講演会開催は日程の都合上拒絶される)。写真(17頁)。	89名。うち台湾人8名。	大稲埕「蓬莱閣」の大広間。台湾料理(10卓)。
台湾北部校友会。社会大衆党中央執行委員長で衆議院議員・安部磯雄が「台湾始政四十周年記念博覧会」視察のため来台(18年ぶり)するので、YMCA台湾基督教青年会と相談して歓迎会開催。22日にYMCAの歓迎会(蓬莱閣・台湾料理)、23日に早大校友会歓迎会。11月22日は台湾で初めての地方選挙実施、在台内地人校友2名の当選(古川二郎・唐沢信夫)も祝賀。	42名。うち台湾人5名。	「鉄道ホテル」大食堂。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1935	S10	11		26-38	1935. 9. 7- 1935. 10. 10			新京				
1935	S10							天津				
1935	S10							済南				
1935	S10							青島				
1935	S10							大連				
1936	S11	1	491	16-17	1935. 11. 8	台北						（永井柳太郎）
1936	S11	1	491	17-19	1935. 11. 23	台北					（安部磯雄）	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾北部校友会。11月22日実施の台湾初の地方選挙の当選者＝唐沢信夫・古川二郎の市議当選祝賀会。	35名。内地人のみ。	「巴会館」三階大広間。
スラバヤ稲門会。坂井吉次の大阪商船香港支店への栄転の送別会。姉歯準平領事(校友)も出席。写真(21頁)。	7名。内地人のみ。	料亭「吉雲居」。
上海校友会。忘年会を兼ねて例会。会員名簿配布。浅羽三郎会長より辞任希望、同文書院々長・大内暢三に会長就任を依頼することとなる。支部事務所の変更＝上浦文路三四三号・須藤洋行内(須藤素一幹事)。	16名。内地人のみ。	乍浦路「ライオンカフェー」。スキ焼。
樺太大泊稲門会。忘年会。	13名。内地人のみ。	旗亭「岡の家」。
サイパン早稲田会。創立、第一回懇親会。校友・中川雄二(郵船社員)を中心に創立。	11名。内地人のみ。	旗亭「蓮月荘」。
豊原校友会。春季総会。	26名。内地人のみ。	旗亭「竹駒」。
稲和会。山本耕三(台湾商工銀行監督課長)が東京出張詰所への転勤のため送別会を兼ねて春宴。校友・原口竹次郎が衆議院議員選挙に立候補の勧誘を受けた話なども。	17名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」(新装)。
校友会奉天支部。「八日会」。毎月八日に昼食時間を利用して１・２時間程度各種会談(昨年の田中総長来訪以来開始)。奉天の３箇所のデパート食堂で食べ回る。	25－26名。	奉天の３箇所のデパート食堂。
校友会奉天支部。冬季オリンピック(ガルミッシュで挙行)のスケート選手激励会。	20数名。	「大和ホテルグリル」。
校友会奉天支部。「北支」視察の途中奉天来訪の杉森教授との座談会。	10数名。	奉天駅前「大丸旅館」。食事代用に「すし」。
校友会奉天支部。新年宴会。校友・中野忠雄の父が経営する銘酒「鳳凰」より四斗樽１本の特殊寄贈あり。	56名。内地人のみ。	料亭「金城館」。
仁川校友会。春季総会。新年宴会を兼ねる。新会長＝桑野健治(旧会長・後藤の死去のため)。	11名。内地人のみ。	山手町「鱗」。
豊原校友会。幹事・南島省三は1931年同会改組以来幹事だったが、北海道で伯父の漁業を手伝うために、樺太電気株式会社を退職し豊原を離れるため送別会を開催。	25名。内地人のみ。	「プリンス会館」。
豊原校友会。２月例会。スローガン「鍛えよ冬に」をかざして白姫山スキー行。	５名。内地人のみ。	「白姫荘」(鉄道経営)・ツンドラ温泉。
在台北早大校友逍遥会。坪内逍遥博士一周忌の追悼行事。台北放送局ＪＦＡＫ(ラジオ)から、地元演芸放送の時間の割愛を受けて、坪内の名訳「沙翁」全集から「ヴェニスの商人」法廷の場を、早大校友により放送(配役など記載あり)。午後８:30－９:20(50分間)。		台北放送局ＪＦＡＫ(ラジオ)。
在台北早大校友逍遥会。坪内逍遥博士一周忌の追悼行事。台北放送局ＪＦＡＫ(ラジオ)が成功裡に終了したので、更に追悼記念講演会を開催。校友の弁士４名(各40分)＝安藤正次(台北帝大教授)「文章道から観たる逍遥博士」・河合譲(台北高商教授)「明治文化と逍遥博士」・工藤好美(台北帝大助教授)「逍遥博士再考」・原口竹次郎(総督府統計官)「坪内先生の御性格の一面」、司会＝西岡英夫。「思ふほど来聴者はいなかったが、然し真面目で熱心な知識階級人のみ、女性を交へて百数十名」。写真(56頁)。		栄町「朝日小会館」三階の広間。
豊原校友会。三月例会。囲碁大会。	10名。内地人のみ。	校友・小林圭一宅。
新京校友会。定例廿日会。野村茂理(新京地方事務所社会主事。約３ヵ年在職)が満鉄留学生として東京派遣(１年間)されるので送別会を開催。	22名。うち１名「満洲国」人(丁鑑修)。	「新京公会堂」食堂。
新京校友会。支部長・丁鑑修(「満洲国」実業部大臣)の「豪壮なる私邸」の新築落成の招待。	14名。被招待者は内地人のみ。	支部長・丁鑑修宅。
台湾北部校友会。笠置山(本名＝中村勘治。相撲取・校友)が東京大相撲武蔵山・男女川両横綱一行の地方巡業で台北来訪(３月31日)したので、笠置山の後援会＝笠置山会を組織し、総見物・歓迎会開催。総見物＝海老茶色にWを白地に抜いた幔幕など、総見物人員200有余名の校友とその家族。母校の徽章のある化粧廻し→歓迎午餐会。	39名。内地人のみ。	台北市内「モンパリー」三階広間。
満洲大震政会。発会式。「大震政会」は大正13年度政治経済学部卒業生で組織され東京で毎月例会を開催しており、そのなかで「満洲国」に在住のもので組織。	10名(新京６名、奉天１名、大連３名)。内地人のみ。	「満洲中央銀行倶楽部」。
朝鮮支部。春季大会。支部幹事改選。選考委員＝権藤四郎介。支部幹事＝20名(うち朝鮮人１名＝金弼洙)。	56名。うち朝鮮人６名。	市内料亭「銀月沿荘」。
大連校友会支部。春季校友大会。役員改選、新支部長＝小栗半平、幹事長＝伊藤成章。常任幹事４名＝加藤達次郎・佐賀七郎・花岡収造・渡部忠江。	52名。内地人のみ。	中央公園「西園亭」。
大邱昭和稲門会。創立第一回会合。昨秋の田中総長の大邱訪問を機に昭和年度における稲門出で大邱府内在住者で創立の気運。レコードで「都の西北」・「紺碧の空」などを流す。当日、大邱府会議員に当選した内山喜三郎(校友)なども参加。写真(31頁)。	10名。内地人のみ。	料亭「よし乃」。
豊原校友会。五月例会。会員・出口徳治宅で開催。囲碁・将棋・麻雀など。晩餐。豊原憲兵隊分隊長・城大尉の講演「北樺太の実情」。(大泊校友会幹事・長船威憲(大泊高等女学校教諭)も参加。	17名。内地人のみ。	会員・出口徳治宅。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1936	S11	1	491	19	1935. 12. 11	台北						
1936	S11	1	491	20	1935. 11. 22							スラバヤ
1936	S11	2	492	20-21	1935. 12. 14			上海				
1936	S11	2	492	26	1935. 12. 26				大泊			
1936	S11	3	493	11	1935. 11. 24					サイパン		
1936	S11	3	493	14	1936. 1. 25				豊原			
1936	S11	3	493	15	1936. 1. 28	台北						
1936	S11	4	494	48	1936. 2. 8			奉天				
1936	S11	4	494	48	1935. 12. 27			奉天				
1936	S11	4	494	48-49	1936. 1. 20			奉天				
1936	S11	4	494	49	1936. 1. 20			奉天				
1936	S11	4	494	50	1936. 1. 29		仁川					
1936	S11	4	494	51-52	1936. 2. 14				豊原			
1936	S11	4	494	52	1936. 2. 15-16				豊原			
1936	S11	4	494	55-56	1936. 2. 28	台北						
1936	S11	4	494	56-57	1936. 2. 29	台北						
1936	S11	5	495	36	1936. 3. 7				豊原			
1936	S11	5	495	36	1936. 3. 20			新京				
1936	S11	5	495	36	1936. 2. 23			新京				
1936	S11	5	495	37-38	1936. 4. 5	台北						
1936	S11	5	495	50-51	1936. 4. 22			「満洲国」				
1936	S11	6	496	17	1936. 3. 28		京城					
1936	S11	6	496	17-18	1936. 4. 30			大連				
1936	S11	6	496	31-32	1936		大邱					
1936	S11	7	497	15	1936. 5. 9				豊原			

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
豊原校友会。早高学院柔道部一行(河津教授引率・11名)の豊原来訪の歓迎。一行、大泊港に到着、校友・猪股派駅長の案内で駅長室で休憩→『樺太日日新聞』記者・校友の奥山欣二の出迎・案内で豊原へ→豊原到着、校友を案内役として自動車に分乗し旧市街・王子製紙工場・公園・樺太庁を見学→樺太神社参拝→豊原中学校武道場で稽古、歓迎茶話会→校友会主催の歓迎晩餐会。	柔道部一行11名、校友22名、武徳会5名、合計38名。内地人のみ。	豊原駅階上食堂。
稲和会。校友・徳永義久が浅野セメント株式会社の社員異動により台北店長からから京城(かつて在勤)へ異動するので送別会。	22名。内地人のみ。	市内寿町「モンパリー」の日本間の広座敷。「同家独特の和食の膳」。
上海早稲田会。春季総会。「三田・稲門野球試合」の打ち合わせ会を兼ねる。	12名。内地人のみ。	「日本人クラブ」。
上海早稲田会。「三田・稲門野球戦」(新公園の芝生グラウンド)。校友会で応援団。試合は1対1でドローゲーム。試合終了後、両校懇親会、「応援歌の応酬や、オケサのやりとり」。	13名。内地人のみ。	「日本人クラブ」。
校友会新京支部。春季総会。役員選挙、支部長=「満洲国」実業部大臣・丁鑑修(重任)、副支部長=鯉沼兵士郎。	17名。内地人のみ。	料亭「千鳥」。
校友会新京支部。顧問の吉田淳が、『大阪朝日新聞』満洲総視局長から本社東亜問題調査会常任幹事に新任されたので送別会午餐会を開催。	18名。内地人のみ。	「新京記念公会堂」。
稲和会。会員・喜多一郎が『大阪毎日新聞』台北支局長から本社へ栄転のため送別会を開催。	13名。内地人のみ。	旅亭「モンパリー」。
大連校友会。小栗半平大連支部長維持員幹事招待会。「国を隔てゝ幾山河、紅い夕陽の満洲に、国士気取りで勤めては居るもの、、やっぱり国を離れた寂しさは誰でもあるもの、今日は皆さんが晴々とした気分で先輩は弟か子供にでも会はれた様な気持ち後輩は親か兄にでも会った気持ち、植民地に於ける校友の集まりは心のオアシスと申すも過言ではありません」。「校歌の合唱の際の国際風景」=「校歌始まるに及び控室其他娯楽に興ででて居た外人一斉に清聴、或者はパンフレットを握りタクト棒の代りとし、或者は空手を振って之れに和す、給仕、見習悉く呆然たり。我が校歌の轟く所大和民族あり、大和民族のある所必ず国威の沿ねきを思はしめた」(文責=五十嵐四郎)。	45名。内地人のみ。	「星ケ浦ヤマトホテル」。
満洲大震政会。新京夏季大会。今井克彦の延吉栄転の送別会。写真(15頁)。	6名(写真より)。	新京特別区の某亭。
樺太敷香早大校友会。会則(全7条)を制定、役員任命。顧問=鵜沢宇八(代議士)、常任幹事=竹村熊太郎。事務所=敷香町拓殖銀行行舎・近藤周治(拓殖銀行支店長)方。	8名。内地人のみ。	旅亭「ひさご」。
清津校友会。秋季大会。懇親会。	10名。内地人のみ。	清津料亭「水月」。
稲和会。校友・須田斌一(在台8年余)の名古屋転勤の送別会。会員・後藤曠二の撮影による小形活動写真などあり。	17名。内地人のみ。	旅亭「竹の家」。
豊原校友会。校旗入魂式。樺太神社で豊原校友会の会旗に入魂式を実施。会旗=スクールカラーと校章、佐間三男(豊原校友会の元老的存在)の寄贈、校友・河上勇のデザイン→祝宴会。写真(27頁)。	(祝宴会)25名。内地人のみ。	(校旗入魂式)樺太神社。(祝宴会)「アヅマ会館」。
台湾北部早大校友会。原口竹次郎の送別会。	33名。	「鉄道ホテル」大食堂。
台湾北部校友会。秋季校友家族会。写真(14頁)。	校友48名。家族合計150名。	北投温泉「無名庵」。
稲和会。校友・片山三郎の歓迎会(1931年離台)。	12名。内地人のみ。	料亭「竹の家」。
稲和会。原口竹次郎(在台18年)の送別会。北部校友会開催の送別会のあとに二次式で。	10名。内地人のみ。	料亭「日本亭」。
新京校友会。忘年会。写真(30頁)。	49名。うち非内地人1名(華栄棟)。	料亭「一つ家」。和室。
満洲早稲田柔道会。第1回会合。「満洲の地で働いてゐる吾々学友而も同じ柔道場で育った吾々」で組織。	9名。内地人のみ。	
満洲間島省龍井稲門会。第1回会合。会長=入江千治(年長者)。写真(29頁)。	7名。うち非内地人1名(白南薫)。	料亭「曙楼」。
木浦支部、事実上の発会式、申し合わせ成立(活動・会費・役員など)。支部長=磯井正一。	15名。うち非内地人1名(許秉沫)。	カフェ「登喜輪」。
稲和会。新春宴。校友・益子逞輔が、台北で開催される大成火災保険会社の総会に常務取締役として出席のため来台、会員・坂本信道の彰化銀行重役に就任、祝賀会を兼ねる。	20名。内地人のみ。	台北近郊の温泉地「草山」の「巴旅館」。温泉浴。牛肉鋤焼、寄鍋。
吉林早稲田校友会。第1回懇親会。事務所=吉林九緯三号・中村縣(校友)方。	16名。内地人のみ。	「松江倶楽部」。
北満稲門会齊々哈爾校友会。会員20名。	18名。うち非内地人1名。	市内「湖月」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1936	S11	7	497	15-16	1936. 6. 3				豊原		(早高学院柔道部)	
1936	S11	7	497	24	1936. 5. 28	台北						
1936	S11	8	498	15	1936. 5. 8			上海				
1936	S11	8	498	15	1936. 6. 28			上海				
1936	S11	9	499	10	1936. 5. 25			新京				
1936	S11	9	499	10	1936. 6. 10			新京				
1936	S11	9	499	22-23	1936. 7. 17	台北						
1936	S11	9	499	32	1936. 8. 12			大連				
1936	S11	10	500	14-15	1936. 8. 4			新京				
1936	S11	10	500	20-21	1936. 8. 31				敷香			
1936	S11	10	500	23	1936. 9. 12		清津・羅南					
1936	S11	11	501	23	1936. 9. 21	台北						
1936	S11	12	502	26-27	1936. 10. 18				豊原			
1937	S12	1	503	13-15	1936. 11. 18	台北						
1937	S12	1	503	15-16	1936. 11. 22	台北						
1937	S12	1	503	19	1936. 11. 10	台北						
1937	S12	1	503	19-20	1936. 11. 18	台北						
1937	S12	1	503	30-31	1936. 12. 13			新京				
1937	S12	3	505	24-25	1937. 1. 16			満洲(大連)				
1937	S12	3	505	28-29	1937. 1. 15			間島省龍井				
1937	S12	4	506	60-61	1937. 1. 31		木浦					
1937	S12	4	506	64-65	1937. 2. 26	台北						
1937	S12	4	506	65-66	1937. 2. 22			吉林				
1937	S12	4	506	66	1937. 2. 24			齊々哈爾(チチハル)				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
朝鮮支部大会。春季大会。支部規則制定、支部幹事改選、評議員改選。評議員３名＝古城亀之助・長谷井市松・金弼洙。懇親会では麒麟麦酒・朝鮮麦酒会社から寄贈麦酒あり。	60名。うち朝鮮人３名(崔斗善・崔澍夏・金弼洙)	府内「白水」。
満鉄早大校友会。新入社員16名が入社、歓迎会を開催。	新社員16名、満鉄校友21名、合計37名。内地人のみ。	新京特別市内本郷町「群英楼」。「支那料理店」。
北平支部日支合同校友会。「支那側校友に呼びかけて日支国交明朗化は早稲田校友からとのスローガンを掲げて、他校に先鞭をつけ日支合同校友会を開催することになった」。「支那」側＝湯鉄樵・李宜琛。倉田熊延(日清生命副参事)が「満鮮」視察を終えて来平、参加。写真(28頁)。	10名。うち「支那」側２名(湯鉄樵・李宜琛)。	東城三條胡同「カッフェー弥生」。和室。
上海早稲田会。邦字新聞「上海日報」社の招聘で、早大ア式蹴球チーム一行(島田孝一部長、選手20名)の上海訪問の来征。(４月15日)一行、上海到着、校友や各国新聞社の歓迎→常盤旅館に投宿→(16日)上海神社参拝、陸戦隊訪問、日本人墓地の「上海事変戦没将士」忠魂碑に献花→上海市政府訪問、兪鴻鈞市長代理に挨拶→海軍武官室・総領事館・居留民団・各新聞社訪問→仏租界「逸園(カニドローム)」で練習→４月17・22・25・28日・５月１日、「フレンチ倶楽部」「中国大学連合軍」・中国東華軍」・「英国ローヤル軍」・「全上海軍」などの「支那人チーム、外人チーム」と対戦、３勝１敗１引分け。「スポーツを通して親善」。(４月26日)校友会・上海日本人基督教会青年会・「上海日報」社の主催で選手歓迎会。合計100名が出席。(４月28日)校友・須藤素一宅で有志校友で歓迎会。(29日)蘇州見学。	(26日)早大ア式蹴球チーム一行21名(うち１名非内地人＝金容植)、校友22名。(28日)選手一行のほか校友６名。	(26日)「日本人倶楽部」。「支那料理の卓」。(28日)校友・須藤素一宅
新京満洲大震政会(大正13年政経学部会)。英帝戴冠式拝観団引率のため新京を来訪した笠井寛(『大阪毎日新聞』記者)の歓迎会。		
校友会新京支部。常任幹事などで協議。従来の支部＝日清生命新京支社を廃止により新事務所＝『満洲商工日報』社に新置。	10名。内地人のみ。	「扶桑グリル」。
台北校友有志。校友・内田茂(大阪商船専務)の来台のため歓迎会開催。	10名。内地人のみ。	旗亭「日本亭」
大連支部。春季大会。写真(17頁)。	116名(明治時代卒業校友12名、大正時代卒業校友35名、昭和時代卒業校友64名)。内地人のみ。	西公園内「西園亭」。和室・座敷。
豊原校友会。春季総会。大泊校友会との合同開催。役員改選、会長＝五月女傳一(重任)。	28名(大泊校友９名含む)。	「幸亭」。
北満稲門会。故坪内先生追悼会。哈爾賓オフキチェルスカヤ(軍官街)西本願寺で執行。追悼会導師＝押野慶浄(住職・英文明治42年卒)。追悼演芸会。		哈爾賓オフキチェルスカヤ(軍官街)「西本願寺」。
北満稲門会。第二回総会。主任幹事＝石川常長(大正９年、商科卒)。北満稲門会幹事(会長)に押野慶浄を推薦。	約30名。	「名古屋館ホール」。
哈爾賓稲門会。田中穂積総長、哈爾賓来訪。	40名。	「哈爾賓鉄道クラブ」。
北満稲門会。新年会。		「ハルビン日満倶楽部」(旧・ハルビン文化協会)
哈爾賓市公署在勤者稲門会。在勤者25名中17名出席。	17名。	ハルビン道外「金波楼」。
朝鮮海州校友会。校友・坂上満壽雄が黄海道警察部長から総督府電気課長へ栄転するため送別会開催。写真(13頁)。	13名。うち朝鮮人３名。	「海柳閣」。
稲和会。例会。校友・喜多収一郎が新設の台湾拓殖株式会社台南支店の初代支店長として抜擢栄転のため祝賀送別会を兼ねる。	21名。内地人のみ。	「牡丹新館」２階１室。円卓で台湾料理、焼鳥、関東煮(おでん)、握り寿司、蕎麦、酒、麦酒、汁粉、団子、ハムサラダ。
校友会新京支部。青柳篤恒教授が「北支視察」し教え子の殷汝耕に日本刀寄贈の帰途、新京を訪問したので歓迎午餐会を開催。支部長・丁鑑修の挨拶あり。青柳の「北支の状態」つき談＝「朝鮮が満洲国の新興により完璧を期した如く満洲国を永久不動の国家たらしむるには冀東、冀察両政権の確保によってのみ得られる」。写真(28頁)。	16名。うち１名「満洲国」関係(丁鑑修)。	「中央飯店」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1937	S12	5	〔以下、号数不明〕	33-34	1937. 4. 17		京城					
1937	S12	5		43	1937. 4. 17			満鉄				
1937	S12	6		28-29	1937. 3. 12			北平				
1937	S12	6		31-33	1937. 4. 15-5. 2			上海			(早大ア式蹴球チーム)	
1937	S12	6		33	1937. 4. 23			新京				
1937	S12	6		41	1937. 5. 19			新京				
1937	S12	7		26-27	1937. 6. 8	台北						
1937	S12	8		17-18	1937. 6. 5			大連				
1937	S12	8		26	1937. 1. 23				豊原・大泊			
1937	S12	8		46	1935. 3. 15			哈爾賓				
1937	S12	8		46	1935. 4月初頭			哈爾賓				
1937	S12	8		46	1935. 9. 25-26			哈爾賓				
1937	S12	8		46	1937. 正月			哈爾賓				
1937	S12	8		46	1937. 7. 4			哈爾賓				
1937	S12	9		12-13	1937. 7. 7		海州					
1937	S12	9		13-14	1937. 7. 14	台北						
1937	S12	10		27-28	1937. 7. 17			新京			(青柳篤恒教授)	

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
台湾北部校友会。帰省学生歓迎会。「日支事変」後の戦時体制下で夏季校友大会も見合わせていたところ、「今年は趣きを変へて帰着在学生の諸君を迎へ、校友会を開いて若き学徒と一夜を、朗かに楽しく語り送るの議が提出され、幹事会の決議で開催」決定。昨年、慶応大学出身の台北三田会で帰省学生招聘の会があったのを参考に。	学生20名、校友36名。	「台北市公開堂」2階の中食堂。
高雄校友会。河合譲(台北から高雄に新設の商業学校校長として赴任)・三谷清一(三菱東京本店から高雄支店に赴任)の2校友の歓迎会。会長＝常見辨次郎。写真(22頁)。	18名。内地人のみ。	西仔湾邊「濱廼家」。和室。
台湾北部校友会。校友で代議士の西岡竹次郎・信太儀右衛門の歓迎茶話会。両代議士は衆議院が上海・台湾に派遣した出征将兵慰問団として来訪。西岡は茶話会後にＪＦＡの台北放送局から慰問団長として上海戦況視察団を放送。９月７日以後に応召入営した校友は10名、歓送会開催は困難なので校友会から祝出征の旗を贈呈し、留守家族を訪問し慰問など。	19名。内地人のみ。	「鉄道ホテル」。麦酒、サンドウィッチ、アイスクリーム、果物、菓子。
北満海拉爾校友会。発会式。校友・高須安一がチチハル視察終了後にハイラル訪問。「満洲国」協和会の海拉爾本部の招聘で20日間朗詠講習のため。	４名。内地人のみ。	「入船料理店」。
台北在住の校友有志。校友・中野正剛代議士が民間使節として欧米渡航の際に基隆に寄航したので歓迎午餐会開催。	20名。内地人のみ。	大稲埕「江山楼」。台湾料理。
龍井稲門会(東満洲間島龍井)。第４回懇親会。	９名。うち朝鮮人４名。	「登喜和」。
早大北京校友会。「通州事件遭難」の示村直・木村重充、承徳で客死した倉田能延の３校友の追悼会→追憶式。会食。	７名。内地人のみ。	(追悼会)東四六條胡同「本願寺」。(追憶式)王府井大街「頤園飯荘」。
早大北京校友会。校友・山田祐三(「早稲田大学新聞」北支特派員)の歓迎会。山田＝「山西方面の戦蹟視察談」、(校友)吉武朝四郎・福島武男の「通州一番乗体験談」、奥田直文幹事の「北京籠城談」など、「現地ならでは味ははれぬ時局談」、北京に早大分校設立を学校当局に提議する件を議論し、山田に伝達を依頼。		校友・奥田直文幹事宅(東交民巷の横浜正金銀行支店内)。
早大北京校友会。「皇軍慰問」のため北京来訪中(12月３－17日)の内ケ崎三郎文部政務次官・五明忠一郎秘書官の歓迎会→講演会。内ケ崎の演題「東亜文化の復興」。こののち、吉武朝四郎校友は上海税関へ、奥田直文校友は正金銀行奉天支店へ、中村作次校友は朝鮮銀行天津支店へ栄転移動のため、幹事は奥田から福島武雄に交代。支部事務所変更＝福島武雄方(北京京城史家胡同佃公館)。	５名。内地人のみ。	(講演会)三條胡同の「日本人倶楽部」。
奉天支部。年末集会。会員270名。	13名。内地人のみ。	料亭「金城館」。
吉林稲門会。第２回総会。写真(28頁)。	15名。内地人のみ。	料亭「華仙」。
北部台湾校友会有志。校友・小島六郎(「読売新聞」社従軍記者。運動部兼東亜部に所属)が上海方面から台湾に来訪したので歓迎会開催。小島による戦況実視談・戦地の珍話・「皇軍将兵の武勇談」「戦争に絡まる種々の秘話」などを聞く。	21名。内地人のみ。	「台北市公開堂」の一室。公会堂専属の「モンパリ」の洋食。
校友会奉天支部。新年例会。新聞広告で開催告知。「殖民地独特の転勤移動の激しさのため、顔ぶれも昨年と一変したかの感あり、誠に奇異にも感ずるのだが、一堂に会すれば忽ちにして母校早稲田の一色に談合融和し、老若、上下を分たづ歓談尽くるを知らない情景である」。	35名。うち非内地人１名。	
樺太豊原校友会。春季総会。作間三男顧問の市会議員当選、五月女傳一会長の高等官三等栄進の祝賀会も兼ねる。「軍歌校歌合唱裡に散会」。	28名。内地人のみ。	旗亭「竹駒」。
樺太豊原校友会。元同校友会会長・前「樺太日日新聞」主筆・現中央情報社長の菱沼右一が豊原を来訪したので招待宴。写真(20頁)。	16名。内地人のみ。	「カフェープリンス」。
シンガポール校友会。上海戦線の「皇軍慰問」と香港・シンガポール視察のために来訪した田川大吉郎代議士の歓迎会。シンガポール校友会事務所移動＝新嘉坡産業館長事務取扱・楯朝二郎方。	５名。内地人のみ。	カトン海岸の料亭「玉川」。
稲和会。春宴。	17名。内地人のみ。	「カフェー永楽」。
台北瀛士会。帰台の新卒業生祝賀歓迎会を兼ねて開会。「長いこと非常時の緊張裡に開会を遠慮したが、有頂天騒ぎでなしに真面目に集って会食懇談するのは悪くはなからうと」開会。『台湾民報』社会部長・郭の「ユーモアたっぷりな社会縦横談」など。	12名。台湾人のみ。	「山水亭」。
龍井稲門会(「満洲国」間島省龍井)。春季会。外務省書記生の校友・高田徳蔵が「満洲国」地方法院書記官長へ転身、新任の龍井税関長の校友・平田五郎の歓送迎会を兼ねる。	９名。非内地人２名。	「登喜和」。
朝鮮支部総会。春季大会、観桜。幹事40名改選、うち朝鮮人幹事５名。昭和・朝鮮麦酒会社より麦酒８打の寄贈あり。	60名。うち朝鮮人10名。	「南山荘」。
満鉄新入社員歓迎会。校友17名入社。	新入社員校友16名、校友15名、合計31名。	新京特別市内東郷町「群英楼」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1937	S12	10		32-34	1937.8.27	台北						
1937	S12	11		21-22	1937.5.30	高雄						
1937	S12	11		24-25	1937.9.29	台北						
1937	S12	11		26	1937.10.16			(北満)海拉爾(ハイラル)				
1937	S12	12		26-27	1937.11.17	台北						
1937	S12	12		27	1937.11.13			(満洲間島)龍井				
1938	S13	1		20	1937.10.30			北京				
1938	S13	1		20	1937.11.15			北京				
1938	S13	1		20-21	1937.12.11			北京				
1938	S13	1		25-26	1937.12.3			奉天				
1938	S13	2		28	1937.12.20			吉林				
1938	S13	2		29-30	1938.1.13	台北						
1938	S13	3		19	1938.1.14			奉天				
1938	S13	3		19	1938.1.15				豊原			
1938	S13	3		19-20	1938.1.17				豊原			
1938	S13	3		23	1937.12.25					シンガポール		
1938	S13	3		34-35	1938.2.15	台北						
1938	S13	4		35-36	1938.3.26	台北						
1938	S13	4		36	1938.3.26			(満洲間島)龍井				
1938	S13	5		17-18	1938.4.23		京城					
1938	S13	5		21	1938.4.20			満鉄(新京)				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
北部台湾校友会。校友会幹事・高橋茂義が日清生命保険株式会社台湾支社次席から東京本社へ栄転するので送別会。	13名。内地人のみ。	台北市川端町「紀洲庵支店」の奥座敷で川魚料理。
京城校友会。早大水泳部一行(白石教授引率)が京城来訪のため歓迎校友会開催→(26日)京城プールで全朝鮮軍との対抗競技。	校友・学生合計50余名。	「雅叙園」。
北京早稲田校友会。早大教授・佐藤武夫工学博士が北京来訪のため歓迎会。「母校の発展振り」を聞く。「明治の末葉に母校を出た者にとっては浦島太郎の様のもの」。写真(12頁)。	13名。内地人のみ。	「森隆飯荘」。「支那料理」。
裡里校友会。懇親会。殖産銀行支店長に校友・中村静一を迎えるなど新人も増加。		料亭「一楽」。
裡里校友会。校友・造田公平の出征歓迎送別会。	13名。内地人のみ。	料亭「末広」。
台湾北部校友会。早大柔道部選手一行(氏家謙曹部長・徳三宝師範の引率、選手9名)が台湾来訪のため歓迎午餐会。台北武徳殿で観衆の前で練習(台湾側は選手が召集されたため、練習のみ)。	選手一行11名、校友29名、武徳会1名、合計41名。	「モンパリー」。
清津校友会。協議事項＝咸北支部設立の件、毎月1回例会開催の件。幹事全員留任。清津府在住校友は20数名に達し、「会を重ねる毎に新会員の出席ありて先輩後輩の区別なく全く水入らずの会合」。 写真(19頁)。	15名。うち非内地人1名。	「音羽花壇」。
台北在住校友有志。早大自動車部員4名が「耐暑熱自動車操縦の経験」をすべく来台、歓迎午餐会を開催。	15名。内地人のみ。	「台北市公会堂」一室。
台湾北部校友会。校友大会。幹事長・坂本信道が彰化銀行専務取締役に昇任し台中へ異動するため、送別会を兼ねる。新任幹事44名(うち台湾人3名＝黄呈聡・黄際沐・謝倉)を坂本が指名。新幹事長＝花香伯貢。会則改正＝大会を年2回から1回、幹事任期を1年から2年、会費を毎年1円から2円へ。相談役5名＝伊勢田嘉一・西岡英夫・古川二郎・松井繁太郎・後藤曠二。名誉会員4名＝望月恒造(校友の長老)・坂本信道(前幹事長)・常見辨次郎(高雄校友会)・益子逞輔(東京在住)。	61名。うち台湾人9名(黄呈聡・黄際沐・謝倉・林世源・李孝全・郭康欽・張欧林・王経倫・郭国槙〔帰省学生〕)。	旗亭「蓬莱閣」2階大広間。台湾料理。
早大蒙疆校友会。張家口にある早大出身者で結成会。察南政府一周年記念日の前々日を卜して。名誉会長＝杜運宇、会長＝大江新、副会長＝山際満壽一。写真(16頁)。	20名。	張家口「遠来荘」。和室。
早大蒙疆校友会。杉森孝次郎先生一行(3名)が張家口を訪問したので歓迎会。杉森は社会学専門、杜運宇の恩師。	22名。	「日本旅館」。スキ焼。
青島早稲田会。青島は1937年8月27日に政府の引揚命令で在留邦人退去、1938年1月10日に「皇軍」上陸、青島邦人が復帰開始。復帰後第1回の校友会開催。新会員には満鉄関係者・海軍特務部勤務者・新規渡来開業者などを加える。写真(42頁)。	34名。うち中国人側2名(陸夢熊・欧秋夫)。	「太平路グランドホテル」。
台湾北部校友会。外交官経験者で南洋協会理事の校友・林久治郎が来訪したので歓迎座談茶会と晩餐会開催。	(晩餐会)18名。内地人のみ。	(晩餐会)「鉄道ホテル」。
故高田早苗先生追悼会(12月3日高田死去)。	87名。内地人のみ。	大連市天神町「明照寺」(浄土宗)。大連亭。
故高田早苗先生追悼会。		京城本町「開教院」。京城ホテル。
大隈老侯生誕百年追悼・秋季会合。新会長に小林圭一(樺太銀行常務取締役)を選出。		旗亭「菊水」。
「日満支」実業懇談会。王子恵(「維新政府」実業部長)・丁鑑修(前「満洲国」交通部・実業部大臣)・馬郡健次郎(東拓外国課長)、参加。	校友含め関門北九州の名士100名。うち校友6名。	「門司倶楽部」。
稲和会。日東拓殖農林株式会社台湾出張所在勤校友の脇秀男の送別会(東京本社営業部長に栄転)。	20名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」。
台北支部校友会。日東拓殖農林株式会社台湾出張所在勤校友の脇秀男の送別会(東京本社営業部長に栄転)。幹事としての功績を慰労。	40余名。	旗亭「江山楼」。台湾料理。
上海早稲田会の秋の早稲田会。会長・浅羽三郎。法貫宗一(国際運輸)・佐立住江(日本商工会議所)の送別会。校友・蘇錫文(中華民国維新政府実業部長王子恵校友とともに早大訪問中)からの祝電。	49名。うち非内地人1名。	「日本人倶楽部」三階大広間。「しっぽく」料理。
上海早稲田会(高師部出身者)。早大から派遣の少壮教授12名のうち3教授の歓迎会。	教授3名。校友8名。	南京路「雪園」。「支那料理」。
新年会。	10名。	「銀鈴」。
高雄校友会。新年会。鈴木実(台湾電力)の帰還・錦光山雄(高雄商工会議所)の広東からの帰還の歓迎会を兼ねる。	25名。うち台湾人2名(陳秋波・葉鴻鈺)。	市内栄町カフェー「ゴーストップ」。
木浦支部。春季総会。故高田総長追悼・応召校友の慰問。	13名。	「登喜輪」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1938	S13	7		29	1938. 5. 25	台北						
1938	S13	8		11	1938. 6. 24		京城				(早大水泳部)	
1938	S13	8		12-13	1938. 4. 1			北京			(早大教授・佐藤武夫工学博士)	
1938	S13	8		13	1938. 5. 28		裡里					
1938	S13	8		13	1938. 6. 21		裡里					
1938	S13	8		18-19	1938. 7. 1	台北					(早大柔道部)	
1938	S13	8		19-20	1938. 7. 2		清津					
1938	S13	9		24-25	1938. 8. 10	台北					(早大自動車部有志)	
1938	S13	10		14-16	1938. 9. 4	台北						
1938	S13	10		16	1938. 9. 2			(蒙疆)張家口				
1938	S13	10		16-17	1938. 9. 6			(蒙疆)張家口				
1938	S13	12		41-42	1938. 9. 27			青島				
1938	S13	12		56	1938. 10. 31	台北						
1939	S14	1		20-21	1938. 12. 5			大連				
1939	S14	1		21-22	1938. 12. 11		京城					
1939	S14	1		22	1938. 10. 27				大泊			
1939	S14	1		23-24	1938. 11. 24							山口県下関
1939	S14	1		24	1938. 11. 27	台北						
1939	S14	1		24	1938. 11. 29	台北						
1939	S14	1		25	1938. 11. 17			上海				
1939	S14	2		33-34	1938. 12. 13			上海				
1939	S14	2		34	1939. 1. 11			奉天				
1939	S14	3		21	1939. 2. 3	高雄						
1939	S14	3		21	1939. 2. 4		木浦					

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
臨江早稲田会。臨江県県長馮錫藩(1918年専政卒)の通化県長転出に伴う紀念会合。	4名。馮県長以外は内地人のみ。	
稲和会。栗飯原秀将軍(もと早大配属将校・基隆要塞司令官着任)・益子逞輔(大成火災保険株式会社常務)来台・桜庭純三(校友)広島栄転の歓送迎会。	20名。内地人のみ(新顔として太田政作・廣戸晴吉)。	旗亭「竹の家」。
十日会の2月例会(大連校友有志)。齋藤忠雄(満鉄用度)のニューヨークからの帰朝歓迎会を兼ねる。	38名。内地人のみ。	「大連亭」。
満洲遼西稲門大会(錦州地帯を中心とする校友会)。写真(45頁)。	20名。内地人のみ。	錦州市「日本亭」。
校友・磯部愉一郎(旭電化工業株式会社専務取締役)の来台午餐会。	9名。	「鉄道ホテル」。
校友・磯部愉一郎(旭電化工業株式会社専務取締役)の来台歓迎会。	10名。	旗亭「江山楼」。台湾料理。
牡丹江早稲田会。結成会。会長・熊田輿四郎(満拓所長)。副会長・柏木鋭男(三井支店長)。高田総長・平沼総長の哀悼。写真(50頁)。	20名。内地人のみ。	料亭「一富士」。
稲和会。武田萬兵衛(日本空輸会社台北出張所勤務)の大連支店長栄転送別会。	13名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」。
京城校友会。春季大会野遊会。永登浦サッポロビール工場見学・模擬店出店など。	校友60名。うち朝鮮人7名(楊済賢・河充実・権錫昌・申奎植・鮮平全・金龍基・鄭東錫)。子供連れ校友多数で合計200名以上。	永登浦サッポロビール工場。
奉天校友会。	30名。うち非内地人1名(李清漂)。	料亭「金城館」。
高雄校友会。早大教授・堤秀夫博士が学徒至誠団の学生3名(南洋方面視察の途中ら来台)の歓迎会。新会長・塚本憲一郎(台湾電力高雄営業所長)。	21名。うち台湾人3名(林瓊瑤・王石定・陳秋波)。	「高雄銀座食堂」。
稲和会。早大教授・堤秀夫博士の学徒南洋視察団引率歓迎。	12名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」。
哈爾賓稲門会(北満校友会を改称)。早大理工学部長・山本忠興(文部省推薦満洲鉱工技術院協会の招聘で来満来哈)の歓迎会。会長・押野慶浄。	22名。	松江畔ヨットクラブ。
哈爾賓稲門会。例会。会長・押野慶浄(在哈爾賓30年)のユダヤ人に関する研究、八田喜三郎(日満商事)の石炭統制に関する話あり。	25名。内地人のみ。	「南崗鉄道倶楽部」。スキヤキ料理。
稲華会。華北交通会社内の早大校友の会合。中瀬直雄(母校評議員兼校友会幹事で華北交通会社と密接な関係あり)の歓迎会。	13名。内地人のみ。	北京「安福楼」。
広東校友会。高井教授の来広の歓迎会。唐沢信夫(『広東迅報』・『南支日報』社長)が歓迎の辞。	11名。うち非内地人2名(徐毓英・陳宗)。	広東市長堤大馬路「モンパリ」。
上海稲門木曜会。上海早稲田会が約200名になり毎月会合を開くのが困難なため、有志で毎週木曜日「日本倶楽部」2階に会合するための会。第1回開催。	17名。内地人のみ。	上海文路の「日本倶楽部」。
稲和会。新年会と出口真言(明治製菓台北支店長)の送別会(小樽支店長へ栄転)。	17名。内地人のみ。	台北市大和町「巴会館」日本室。
旧台北在住校友東京集会。	5名。	東京日比谷「柴山ぐりる」。
朝鮮支部校友会。春季大会。評議員=古城亀之助・韓圭復・桑野健治。本部幹事=中島司。支部幹事40名(うち朝鮮人5名=咸尚勲・陳奉燮・河駿錫・崔丰善・金弼洙)。	74名。うち朝鮮人15名。	西四軒町「南山荘」。
上海稲門木曜会。1月18日第1回開催いらい12回開催。毎週木曜正午から2時間、各方面の専門家を招致して意見交換。講師陣は、赤木氏(工部局特別副総監)・鶴見氏(大使館情報部長)・宮脇中佐(上海軍報道部)・山岸多嘉女子(中国婦女協進会長)・神尾茂(校友・「支那」評論家)・譚覚真氏(校友・新中央政府宣伝部)・神田正雄(校友・「支那」研究家)・石黒氏(上海台湾銀行副支配人)・程享昌氏(上海福益協会長)など。	27名。内地人のみ。	「日本倶楽部」。
清津校友会。春季総会。	15名。うち朝鮮人1名(張弼鴻)。	「音羽花壇」。
広東校友会。貴族院議員で校友の飯塚知信・佐藤助九郎が「皇軍」慰問で来広したので歓迎会開催。唐沢信夫(『広東迅報』・『南支日報』社長)が歓迎の辞。	23名。うち非内地人2名(徐毓英・陳宗)。	「南園酒家」。
佳木斯早稲田大学校友会。第3回校友会。早慶野球第2回戦のラジオ放送を聴いたのち残念会開催。写真(30頁)。	14名。内地人のみ。	割烹「富川」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1939	S14	3		21-22	1939. 1. 12			臨江				
1939	S14	3		25-26	1939. 2. 9	台北						
1939	S14	3		27	1939. 2. 10			大連				
1939	S14	4		45	1938. 12. 27			満洲・錦州				
1939	S14	4		49-50	1939. 2. 27	台北						
1939	S14	4		49-50	1939. 3. 4	台北						
1939	S14	4		50-51	1939. 2. 28			牡丹江				
1939	S14	4		51-52	1939. 3. 18	台北						
1939	S14	5		31	1939. 4. 16		京城					
1939	S14	7		24-25	1939. 6. 9			奉天				
1939	S14	8		8	1939. 7. 23	高雄					(堤秀夫教授ら)	
1939	S14	8		17	1939. 7. 17	台北					(堤秀夫教授ら)	
1939	S14	9		11	1939. 7. 25			哈爾賓			(山本忠興教授)	
1939	S14	12		26-27	1939. 11. 21			哈爾賓				
1940	S15	1		19-20	1939. 12. 18			北京				
1940	S15	2		33	1940. 1. 5			広東				
1940	S15	2		35	1940. 1. 18			上海				
1940	S15	3		22-23	1940. 2. 12	台北						
1940	S15	4		46-47	1940. 2. 27	(台北)						東京
1940	S15	5		31	1940. 4. 23		京城					
1940	S15	5		31-32	1940. 1-4月			上海				
1940	S15	5		35	1940. 4. 13		清津					
1940	S15	7		24	1940. 5. 23			広東				
1940	S15	7		31-32	1940. 6. 2			佳木斯(ジャムス)				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
早稲田大学校友会上海支部。従来の上海早稲田会を改称し、正式に校友会支部とし第１回総会を開催。在上海内地人の増加に伴い早大校友も三百数十名に到ったため。「早稲田大学校友会上海支部会則」決定(会費＝年額５円。事務所＝日清生命保険株式会社中支那支部)。初代支部長・荒木孟。顧問５名(浅羽三郎〔もと上海早稲田会会長〕・王子恵・内田茂・大内暢三・蘇錫文・陳日平)・評議員11名(内地人のみ)・幹事長１名(橋本登美三郎〔旭新聞上海支局次長〕)。	121名。内地人のみ。	「日本人クラブ」。
早稲田大学校友会上海支部。第１回役員会開催。相談会の設置、支部旗の調製、総長田中穂積の招聘、上海稲門木曜会の講師斡旋、上海早慶野球戦などについて。		
上海早慶野球戦である三田稲門野球戦の開催。早大校友会上海支部と上海三田会の後援で新公園グラウンドにて開催。		「上海新公園グラウンド」(試合)。「日本人クラブ」(懇談会)。
北満稲門会。齊々哈爾在住校友が30名以上に達し、主に満鉄齊々哈爾鉄道局と、龍江省公署に勤務。公署関係者の提案で第１回会合開催。	17名。うち非内地人１名(李景藩)。	齊々哈爾市「同興園」。
台南校友会。喜多収一郎(台湾拓殖会社台南支店長。もと『大阪毎日新聞』・『東京日日新聞』社。1939年台拓創立時に本社支店課長)の歓迎会、瀧野譲治(糖業連合会台湾市部書記長。東京本部へ栄転。もと官僚)の送別会。会長に喜多が就任。幹事２名(湯川台平・徐先燿)。	10名。うち台湾人３名(歐清石・林東銈・徐先燿)。	
元山校友会。夏季大会。1932年創立以来の盛況で会員25名。夏季休暇中で帰省の早大学生８名とともに夏季大会を開催。開会前決定事項＝事務所移転(『元山毎日新聞』社内)・幹事改選(５名)。	学生８名と会員。	「丸芳会館」。
朝鮮部隊経理部稲門出身者の会。朝鮮部隊経理部幹部候補生79名のうち、早大出身者14名の集い。写真(20頁)。	14名。内地人のみ。	
早稲田大学校友会北京支部。第１回総会。会則決定。初代支部長・荒木章(興中公司取締役)、副支部長・徳光衣城(「東亜新報」社社長)。写真(33頁)。	131名。うち非内地人10名。	「北京興亜公館」(もと段祺瑞邸跡)。
南進早稲田会。南洋群島パラオで開催。主に南洋興発株式会社・南洋庁関係者の校友。	11名。内地人のみ。	
青島校友会。青島総領事・石川実の厦門総領事への栄転転出の送別会。	23名。内地人のみ。	「観光ホテル」。
済南校友会。発会式。華北済南に在住の校友100名近くなり発会気運醸成。事務所は日清生命事務所内(済南市三太馬路小緯六路一三四)。	35名。うち非内地人３名。	「厚和食堂」。
奉天満鉄早稲田会。発会式。奉天満鉄社員・満鉄関係者校友は80余名。局長級・課長級・主任級も参集。テーブル・スピーチあり。規約可決。早大創立記念日にあたる20日を記念して毎月20日を親睦の日とする。幹事長・野村茂理。	41名。うち非内地人２名。	「奉天満鉄会館」。純洋式の晩餐会(新体制下で脱線を自粛)。
三教授(杉森孝次郎・久保田明光・今田竹千代)の歓迎校友会。三教授が台北で開催の日本社会学会大会参加のため来台したのを歓迎。西岡英夫校友の案内で台湾神社など参拝後に歓迎会、三教授の談話など(久保田＝母校の興亜経済研究所につき概況。今田＝新体制下における母校の概況)。	42名。うち台湾人６名。	旗亭「蓬莱閣」。台湾料理。
広東校友会。主賓は来広中の神田正雄。唐沢信夫なども出席。会長に浅野賢知(浅野セメント会社。大正６年理工科卒)を選出。	35名。うち非内地人１名。	「朝日食堂」。素桃料理。
吉林稲門会。「満洲国」官公署・特殊会社幹部などが校友。事務所は満洲拓殖公社所長室(「満洲国」吉林市大馬路)。	22名。内地人のみ。	「淡月」。
元山校友会。秋季総会。幹事・後閑琬彌の入営送別を兼ねる。	17名。うち朝鮮人３名。	仲町「蓬莱」。
上海校友会支部。初代支部長・荒木孟が上海恒産会社副社長を退職して帰国。後任支部長は神尾茂。	51名。内地人のみ。	「日本人倶楽部」。
上海校友会支部。校友で代議士の阿部・浅沼・中村三代議士が東亜政治連盟結成のために上海に来たので歓迎座談会。政治情勢に関する談話をきき、現地人としての希望を述べる。		「新亜細亜ホテル」。
上海校友会支部木曜会。政治経済各方面のエキスパートを招待し談話を聞く会の新年最初の会を開催。小川愛次郎校友の「日支関係の歴史的解説」を聞く。		「日本人倶楽部」。
ポナペ島稲門会。発会式。校友駒沢鉄蔵がパラオ島から1940年６月にポナペに転勤、その際には校友１名のみだったのが逐次増加したので、櫻澤勝次郎に労を乞い発会。	６名。内地人のみ。	コロニヤ町「海月旅館」。
杭州早稲田大学校友会。第１回会合。上海から出張中の小林重平(上海経済研究所・上海貿易通信社)の歓迎も兼ねる。	10名。内地人のみ。	「西冷館店」内の日本閣。日本料理。
清津校友会。会員40名を越す。	18名。うち朝鮮人５名。	「音羽花壇」。
釜山校友会。紀元二千六百年を記念して６年ぶりの開催。会員70名を超過。	34名。うち朝鮮人２名。	南濱「みなと」。
広東校友会。広東における現地早慶野球戦の開催についての対策協議。広東唯一の邦字新聞「南支日報」(唐沢信夫主催)の企画・斡旋で３月に決行予定。チーム編成・応援団の組織・経費捻出などを懇談。	35名。うち非内地人２名。	『南支日報』社の５階にある「日本人倶楽部」。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1940	S15	8		10-12	1940. 6. 22			上海				
1940	S15	8		12-13	1940. 6. 27			上海				
1940	S15	8		13	1940. 7. 21			上海				
1940	S15	8		16-17	1940. 6. 22			齊々哈爾（チチハル）				
1940	S15	9		30	1940. 7. 12	台南						
1940	S15	9		33	1940. 夏		元山					
1940	S15	10		19-20	1940		（朝鮮部隊）					
1940	S15	11		32-33	1940. 9. 8			北京				
1941	S16	1	551	17	1940. 11. 6					パラオ		
1941	S16	1	551	20	1940. 12. 2			青島				
1941	S16	2	552	11	1940. 11. 23			済南				
1941	S16	2	552	11-12	1940. 12. 12			奉天				
1941	S16	2	552	14-15	1940. 12. 16	台北					（杉森孝次郎・久保田明光・今田竹千代教授）	
1941	S16	2	552	16-17	1940. 12. 22			広東				
1941	S16	2	552	17	1940. 12. 24			吉林				
1941	S16	2	552	17	1940. 12. 27		元山					
1941	S16	2	552	17-18	1940. 12. 26			上海				
1941	S16	2	552	18	1941. 1. 11			上海				
1941	S16	2	552	18	1941. 1. 9			上海				
1941	S16	3	553	29	1940. 12. 20					ポナペ島		
1941	S16	3	553	30-31	1941. 1. 18			杭州				
1941	S16	3	553	31-32	1941. 1. 25		清津					
1941	S16	3	553	37-38	1941. 2. 4		釜山					
1941	S16	4	554	43	1941. 2. 16			広東				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
稲和会。半年振りの開催。益子逞輔の歓迎・喜多収一郎の栄転(台拓台南支店長から同社人事課長として台北へ)・坂本道雄の昇任(彰化銀行頭取)の祝賀。全会員の過半数を超える出席。	19名。内地人のみ。	旗亭「竹の家」。
広東校友会。現地早慶軟式野球戦開催。『南支日報』社の主催。早大野球部出身者などでチーム編成。もと早大応援団長の高岡三夫(1930年頃団長。『福岡日日』特派員)の来広もあり、応援に参加。費用は校友たちの寄付。写真(34頁)。	29名。うち非内地人1名。	広東市内海軍グラウンド(試合)。「喜楽園」(選手慰労会)。
高雄校友会。三谷清一の送別会。高雄市三井物産支店から東京本社への栄転に伴うもの。	32名。うち台湾人6名。	栄町「カフェー・ゴーストップ」。
高雄校友会。母校学生映画慰問班歓迎茶話会。母校学生(児玉・太田)の戦傷病勇士及遺家族慰問の映画上映(17日。州商工奨励館集会室)を歓迎。	15名。うち台湾人1名。	高雄州商工奨励館集会室。
高雄校友会。春季校友会。塚本憲一郎の歓迎(広東から再度高雄市に帰任)・稲岡暹(台北に転出)の歓送迎会を兼ねる。会長に速見久彦。事務所は肆矢ガラス店内(校友肆矢高明。高雄市湊町1－20)。	24名。うち台湾人4名。	栄町「カフェー・丸中」。
広東校友会。校友で力士・笠置山の歓迎会。陸軍憧兵部派遣の「皇軍」慰問国技館相撲一行の来広のなかに笠置山。	22名。うち非内地人1名。	「喜楽園」。
大連支部。春季大会。新卒業生歓迎会。母校・支部概況報告など。テーブルスピーチ＝中村廣喜(関東州嘱託)「関東州開拓史」・笠原博(大連市役所殖産課長)「統制経済と配給問題」・児島卯吉(大連市会議員・大連製氷会社社長)「大連市制と市民の態度」・遠藤盛彌(山下汽船大連支店長)「早稲田スピリットと大連在住校友の熱意に就いて」。小講演＝村上澄(大連高等商業学校教授)「青年教育と満洲」。	71名。内地人のみ。	「星ケ浦ヤマトホテル」。
青島校友会。春季総会。河野銀蔵(三菱)の済南栄転転出送別を兼ねる。会の組織改造・幹事交代など議論。	25名。内地人のみ。	「興亜倶楽部」。
奉天早稲田校友会。春季総会。役員改選など。	41名。うち非内地人1名。	奉天江ノ島町「米久」。
安東校友会。春期大会。会長・土居和一。写真(15頁)。	33名。	料亭「松葉」。
京城春季校友大会。会計報告・評議員・幹事・支部幹事の改選。	49名。うち非内地人4名。	「蓬莱閣」。
早大北部瀛士会。瀛士会は台湾人校友の会で、その北部における組織。3・4ヶ月ぶりに会合。秋の早大総長の来台に備えて名簿整理と連絡緊密化を呼びかけられたのを機会に開催。幹事＝楊景山・施述天・張歐林・蕭家棟。	台湾人10名。来賓数名。	大稲埕「孔雀」。
済南早大校友会。校友家族連歓会。済南在住校友は「日華」合計40名。「華」側申し入れで開催。会長・朱桂山(済南市長)。家族連れで会食・余興。遊覧船観光など。写真(12頁)。	60余名。「日華」合同。	名勝地の大明湖「歴下亭」。
上海木曜会。北畛吉の歓迎会。「支那視察」のため渡航した北より「内地状況並国際情勢」を聞く。	18名。	「日本倶楽部」。
安東校友会。校友で力士・笠置山の歓迎会。大相撲協会の東西力士一行580名が安東に来たので、校友力士・笠置山を歓迎。会長・土井和一。	40名。	「満洲飯店」。
清津校友会。夏期校友会。来賓＝神取順一(京城校友)・洪春根(羅津校友)。	18名。	料亭「音羽花壇」(主人の広瀬清は校友)。
奉天陸軍豫備士官学校稲門会。第1回例会。本部附の多田秋衛少尉(政経学部出身)の発案で開催。	19名。	奉天陸軍豫備士官学校。
広東校友会。広東で開催された「東亜新聞記者大会」(8月4－10日)に派遣された日本代表記者23名のうち早大校友を慰労。来賓＝比佐友香(『東京朝日新聞』社)・鈴形三郎(『中外商業』社)・鈴木巌(『台湾日日新報』社)・佐藤績(『改造』社)・杉本栄一(『粤東報』社)。	25名。	「喜楽園」。
天津早稲田会。入交助教授の歓迎会。幹事刷新(会長・西野和雄。新幹事5名)。	32名。	「日本倶楽部」。
上海支部。臨時総会。北澤新次郎教授(商学部長)・入交助教授の歓迎会を兼ねる。北澤博士の話＝早大内に興亜経済研究所新設。校友のテーブルスピーチ＝浅岡信夫・林篤治(日本銀行)・小林重平(上海経済)・伊藤秀明(上海食品市場)・伊藤愧三(大日本紡績)。北澤博士の級友・陳日平(華興商業銀行監事)の出席あり。	99名。	「日本倶楽部」。
安東校友会。懇親会。	16名。	「満洲飯店」。
済南校友会。北澤新次郎教授(商学部長)・入交助教授歓迎会。北澤教授は華北交通の夏期講座および現地視察のため来済。済南市長で校友の朱桂山なども参加。	15名。	「シュタイン・ホテル」。
済南校友会。軍・民校友懇親会。	10名。	「一力」。
杭州早稲田会。第6回。校友家庭訪問の形で開催。	8名。	梅津省四郎宅。ちり鍋。
杭州早稲田会。第7回。校友家庭訪問の形で開催。森少尉送別会。	10名。	陳玉成宅。焼鳥、鳥鍋。

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1941	S16	4	554	45	1941.2.26	台北						
1941	S16	5	555	34	1941.3.9			広東				
1941	S16	6	556	12	1940.11.28	高雄						
1941	S16	6	556	12	1941.1.15	高雄						
1941	S16	6	556	12-13	1941.2.8	高雄						
1941	S16	6	556	13	1941.3.25			広東				
1941	S16	6	556	16-17	1941.5.3			大連				
1941	S16	6	556	18	1941.5.3			青島				
1941	S16	6	556	22	1941.5.12			奉天				
1941	S16	7	557	15	1941.4.26			安東				
1941	S16	7	557	15-16	1941.4.26		京城					
1941	S16	7	557	20	1941.5.24	台北						
1941	S16	8	558	12	1941.5.11			済南				
1941	S16	8	558	15-16	1941.6.19			上海				
1941	S16	8	558	17	1941.6.27			安東				
1941	S16	9	559	30	1941.7.10		清津					
1941	S16	10	560	14	1941.7初旬			奉天				
1941	S16	10	560	15-16	1941.8.12			広東				
1941	S16	10	560	20	1941.9.5			天津			(入交助教授)	
1941	S16	11	561	12	1941.9.11			上海			(北澤新次郎教授・入交助教授)	
1941	S16	12	562	14	1941.11.8			安東				
1942	S17	1	563	43	1941.9.5			済南			(北澤新次郎教授・入交助教授)	
1942	S17	1	563	43	1941.12.14			済南				
1942	S17	1	563	43-44	1941.10.26			杭州				
1942	S17	1	563	44	1941.11.11			杭州				

活動内容(校友会名。参加者など)	参加人数・民族構成	開催場所・料理
杭州早稲田会。第８回。石田中尉送別会。	７名。	「聚豊園」。
杭州早稲田会。第９回。校友家庭訪問の形で開催。池田中尉・田村薫の帰還歓迎会。	10名。	藪下清行宅。
吉林稲門会。秋季総会。竹内正一(地方法院)・本田恒正(中央銀行)の転出の送別会を兼ねる。在吉林校友で判別しているのは36名。連絡先は満洲拓殖公社地方事務所楊室(吉林市大馬路)の野中一鹿・大内清。	15名。	「淡月」。
ハルビン満鉄早稲田会。創立一周年。月例会を毎月27日に例会開催(今回は１日繰り上げ)。連絡先＝満鉄北満江運局総務課・森伴七。写真(48頁)。	23名。	「ホテルニューハルビン」の５階大広間。
錦州校友会。渡邊欄治(錦州省警務庁長から熱川省次長へ栄転)の送別会。	12名。内地人のみ。	「パリジャン」。
錦州校友会。歳末校友会。	16名。	「仁志起」。
青島校友会。「皇軍」シンガポール突入の報を受け総会開催。	31名。	「グランド・ホテル」。
稲和会。第一戦勝祝賀宴。軍人校友多数参加。時局をかんがみ活動を自粛していたが、シンガポール陥落の祝賀のために開会。総会の用務で大成火災の益子逞輔の来会の歓迎も兼ねる。益子と旧知の安藤正次(台北帝大総長)も来会し邂逅。	13名。	旗亭「竹の家」。
済南校友会。春季総会。３月末か４月上旬の開催を繰り上げて紀元節(２月11日)に開催。従来の「総会のみを唯一の紐帯としてゐた不活発状態から逸脱」して、「現地知識分子をリードす可き先達として強力なる組織を確立せよ」との主張に応えるため。会則設定・活動方針の協議。	33名。	済南市商埠地。
大連支部。春期大会並新卒業生歓迎会。	55名。	「星ケ浦ヤマトホテル」の大食堂。
上海支部。春季定期大会。神尾茂支部長の代議士当選と東京転出に伴う雛任送別会を兼ねる。新支部長＝小川愛次郎(満鉄顧問)。「在支」30年の神尾前支部長と、「在支」40年の小川新会長の挨拶。小林重平(上海経済)より緊急動議＝「日華提携に対する校友を中心とする具体的問題」について。	70余名。	「日本人倶楽部」。
老上海早稲田会。上海在住10年以上の「老上海」の校友の集い。「昔の早稲田会を偲ぶ」ため。当時の会長・浅羽三郎(在住20年)を中心に。母校の野球・柔道・蹴球などの選手の遠征の回顧など。	17名。	料亭「新六三」。配給のビールなど。
青島校友会。	42名。	「東海飯店」。
青島校友会。早慶野球戦。青島三田会からの挑戦を受けて。		
済南校友会。朱桂山会長はじめ「華側」校友出席良好、日本人側は閑散、軍側校友出席多し。	18名。「華側」校友出席多し。	済南「泰豊楼」。朱会長の斡旋による「支那サービス嬢」の接待あり。
済南校友会。南部忠平(『大阪毎日新聞』運動部)が「北中支」体育状況観察および体育指導のため来済。歓迎会後の済南駅の見送りでは「都の西北」を合唱。	19名。	済南「永安飯店」。
稲和会。仲秋の名月の観月を兼ねて開催。松居楓葉(台湾演劇協会主事)による日本演劇・台湾劇についての談話。小田原誠也(皇民奉公会台北支会主事)による紙芝居。	17名。	台北市川端町の旗亭「紀洲庵」の離れ座敷。川魚料理。
基隆稲郵会。日本郵船基隆出張所在勤校友の会。校友の異動に伴う顔合わせを兼ねて開催。	６名。	基隆市日新町「濱の家」。
早稲田大学朝鮮支部。臨時大会。会務・会計報告、規約改訂、幹事改選。簡牛凡夫(国民総力朝鮮連盟総務部長)の挨拶あり。支部長＝古城亀之助。常任幹事＝杉山定香・齋藤三郎・小野田琢之・松原図南・丸中徳三。幹事＝井上賢太郎・片岡勉・時枝蔵汰・渋谷礼治・藤常輔・山本正三・広瀬博・金成正元・亥角仲蔵・松本隆昌・藤本寛寧・井阪圭復・崔斗善・田中忠治。	約70名。	京城府長谷川町の「支那」料理店「金閣園」。時局下で酒は１人当り２本の制限あるも、藤常輔(三成鉱業専務)の斡旋でビールの特配を受ける。
〔記事なし〕		
〔記事なし〕		

『早稲田学報』					校友会開会年月日	校友会開会地						
西暦	元号	月	号	頁		台湾	朝鮮	中国	樺太	南洋	早大	其他
1942	S17	1	563	44	1941.11.17			杭州				
1942	S17	1	563	44	1941.12.16			杭州				
1942	S17	1	563	46	1941.11.16			吉林				
1942	S17	1	563	48	1941.11.26			ハルビン				
1942	S17	2	564	18	1941.11.18			錦州				
1942	S17	3	565	17	1941.12.20			錦州				
1942	S17	3	565	22	1942.2.14			青島				
1942	S17	3	565	22-23	1942.2.26	台北						
1942	S17	5	567	36	1942.2.11			済南				
1942	S17	7	569	21-22	1942.5.16			大連				
1942	S17	9	571	15	1942.7.11			上海				
1942	S17	9	571	17	1942.8.11			上海				
1942	S17	10	572	57	1942.7.18			青島				
1942	S17	10	572	57	1942.6.14			青島				
1942	S17	10	572	57	1942.7.25			済南				
1942	S17	10	572	57-58	1942.8.23			済南				
1942	S17	10	572	60	1942.9.23	台北						
1942	S17	11	573	16	1942.9.29	基隆						
1942	S17	12	574	15-16	1942.11.7		京城					
1943	S18	1-12										
1944	S19	1-12										

註　本表は、『早稲田学報』掲載の校友会関係の記事より、岡本が作成した。「元号」欄の「M」は明治、「T」は大正、「S」は昭和を指す。資料中における人名・新聞名などで明らかな誤記については、本表作成にあたり訂正した。引用文中の〔　〕は岡本による補足。「民族構成」欄の非内地人は氏名により判断したが、1940年以降は「創氏改名」・「改姓名」実施により判断困難な場合もあるため、誤差発生の可能性がある。

【表２】東アジア地域における早大校友数（1940年代）

地方名		1940年	1943年
台湾	台北市	232	—
	基隆市	28	—
	新竹市	13	—
	台中市	40	—
	彰化市	18	—
	台南市	56	—
	嘉義市	28	—
	高雄市	53	—
	屏東市	9	—
	郡部	193	—
	合計	670	806
朝鮮	京城府	572	—
	平壌府	122	—
	釜山府	77	—
	大邱府	53	—
	仁川府	23	—
	清津府	34	—
	元山府	32	—
	開城府	11	—
	木浦府	24	—
	咸興府	32	—
	鎮南浦府	19	—
	光州府	27	—
	海州府	20	—
	新義州府	23	—
	晋州府	12	—
	全州府	9	—
	大田府	15	—
	群山府	15	—
	馬山府	11	—
	羅津府	8	—
	郡部	703	—
	合計	1,842	2,180

地方名		1940年	1943年
関東州	大連市	387	—
	旅順市	12	—
	関東州各地	18	—
	合計	417	432
内南洋	—	39	40
樺太	豊原市	47	—
	郡部	76	—
	合計	123	152
「満洲国」	新京市	608	—
	奉天市	380	—
	撫順市	62	—
	鞍山市	81	—
	吉林市	31	—
	哈爾賓市	141	—
	齊々哈爾市	38	—
	錦州市	34	—
	安東市	42	—
	延吉市	17	—
	牡丹江市	29	—
	佳木斯市	24	—
	黒河市	2	—
	承徳市	14	—
	海拉爾市	11	—
	満洲各地	1,074	—
	合計	2,588	3,168
中華民国	—	2,505	3,411
蒙彊	—	—	90

註　本表は、大島正一編『会員名簿』（早稲田大学校友会、1940年）巻末掲載の「地方別会員数表（昭和十五年十二月一日現在）、大島正一編『会員名簿』（早稲田大学校友会、1943年）巻末掲載の「地方別会員数表（昭和十八年五月月十五日現在）」より岡本作成。